

移行ガイド

iPlanet™ Messaging Server

Release 5.2

816-5020-01
2002 年 2 月

Copyright © 2002, Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、および Sun のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.(以下、米国 Sun Microsystems 社とします)の商標もしくは登録商標です。

Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。

UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Legato Networker は、Legato Systems, Inc. の登録商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書で説明されている製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。Sun および Sun のライセンサーの書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれ限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

図目次	7
このマニュアルについて	9
対象読者	9
予備知識	9
本書の構成	10
マニュアルの表記規則	10
ディレクトリおよびファイルの規則	11
関連情報	12
第1章 SIMS 4.0 および Netscape Messaging Server 4.x と iPlanet Messaging Server との相違点	13
メッセージングコンポーネントの進化	14
ディレクトリのサポート内容の変更	15
ディレクトリサーバ	15
ディレクトリ情報ツリー	15
Netscape Messaging Server 4.x のディレクトリネームスペースに関する制限事項	17
iPlanet Messaging Server スキーマ	19
SIMS 4.0 との相違点	20
SIMS 4.0 の MTA に関する変更	20
Vacation 機能	20
imta startup	20
メーリングリストへのアクセスの許可と禁止	20
SMTP リレーの追加	21
SIMS 4.0 のメッセージストアに関する変更	21
Netscape Messaging Server 4.x との相違点	22
Netscape Messaging Server 4.x の MTA に関する変更	22
プラグイン	22

メーリングリストの不正な ErrorsTo アドレスに関するポストマスターへの通知の送信 . . .	22
グループ属性の移行に関する問題	23
認証済み差出人の設定	23
SMTP リレー機能	23
RBL チェックを含む DNS 検索	24
認証されていないバルクメール (UBE) のフィルタリング	24
Netscape Messaging Server 4.x のメッセージストアに関する変更	25
高可用性クラスタ上の SIMS および Netscape Messaging Server の移行	25

第 2 章 移行の概要	27
移行の前提条件	27
移行ツールキット	28
移行プロセス	28
SIMS メッセージストアの移行方法の選択	30
メッセージストアのオフライン移行	30
メッセージストアのオンライン移行	31
メッセージストアの段階的移行	32

第 3 章 単一サーバシステムにおける iPlanet Messaging Server への移行のシナリオと手順 . .	35
単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオフライン移行方法)	36
単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオンライン移行方法)	41
単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアの段階的移行方法)	47
SIMS の段階的移行に関する補足	54
単一サーバの Netscape Messaging Server システムからの移行	55
UNIX における Netscape Messaging Server 移行手順	55
Windows NT における Netscape Messaging Server 移行手順	59

第 4 章 複数サーバシステムの iPlanet Messaging Server への移行に関するシナリオ	
および手順	65
複数サーバの移行の概要	66
複数サーバの移行シナリオにおけるトポロジ	66
構成サーバのインストール	69
SIMS の複数サーバ導入からの移行	70
SIMS のドメインエントリから iPlanet Messaging Server のドメインエントリへの	
アップグレード	71
SIMS の SMTP リレーサーバのアップグレード	71
SIMS の POP/IMAP プロキシサーバのアップグレード	74
SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行	
(オフライン移行)	74
SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行	
(オンライン移行)	79
複数サーバのオンライン移行手順 (余分なハードウェアがない場合)	81

複数サーバのオンライン移行手順 (余分なハードウェアがある場合)	85
SIMS メッセージストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (段階的移行)	90
補足	97
Netscape Messaging Server の複数サーバ導入のアップグレード	97
必要な名前付きコンテキストの追加	98
Netscape Messaging Server の SMTP リレーサーバのアップグレード	99
Netscape Messaging Server の MMP サーバのアップグレード	103
Netscape Messaging Server のバックエンドメッセージストアの移行	103
UNIX における移行手順	104
Windows NT における移行手順	107
第 5 章 iPlanet Messaging Server の移行に関するトラブルシューティング	111
バックアウト方法	111
ディレクトリ移行中のエラー	111
付録 A コマンドラインインタフェース	113
imsdirmig	113
形式	113
オプション	114
例	115
imsdaaci	116
形式	116
オプション	116
例	117
付録 B 共通の移行手順	119
SIMS/Netscape Messaging Server から Netscape Directory Server 4.12 へのアップグレード ..	120
複数スキーマのサポート	120
SIMS で複数スキーマのサポートを有効にする	121
Netscape Messaging Server 4.x で複数スキーマのサポートを有効にする	121
iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用	122
単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server	
ネームスペースにマップする	122
複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server	
ネームスペースにマップする	126
SIMS のディレクトリネームスペースを使用する	130
用語集	131
索引	161

目次

図 1-1	ディレクトリ情報ツリー (DIT) の例	16
図 1-2	バニティドメインを使用した仮想ドメインのサポート	19
図 4-1	複数サーバのサンプルシナリオ	68
図 B-1	Netscape Messaging Server の単一ドメインネームスペース	123
図 B-2	iPlanet Messaging Server インストール後の単一ドメインネームスペース (インストールプログラムで作成されるノードを下線で示す)	123
図 B-3	単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする - Delegated Administrator とホストドメインは サポートされない	124
図 B-4	単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする - Delegated Administrator とホストドメインが サポートされる	125
図 B-5	Netscape Messaging Server の複数ドメインネームスペース	126
図 B-6	iPlanet Messaging Server インストール後の複数ドメインネームスペース (インストールプログラムで作成されるノードを下線で示す)	127
図 B-7	複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする - Delegated Administrator とホストドメインは サポートされない (管理者が作成するノードを下線で示す)	128
図 B-8	複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server の DC ツリーにマップする - Delegated Administrator とホストドメインが サポートされる (管理者が作成または変更するノードを下線で示す)	129
図 B-9	SIMS のディレクトリネームスペース	130

このマニュアルについて

『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』では、Sun Internet Mail Server (SIMS) 4.0 または Netscape Messaging Server 4.x の電子メールシステムから iPlanet Messaging Server の電子メールシステムに移行する方法について説明します。

この章には、以下の節があります。

- 対象読者
- 予備知識
- 本書の構成
- マニュアルの表記規則
- ディレクトリおよびファイルの規則
- 関連情報

対象読者

このマニュアルは、SIMS 4.0 または Netscape Messaging Server 4.x から iPlanet Messaging Server への移行を担当する方を対象にしています。

予備知識

このマニュアルでは、読者が以下の予備知識を持っていることを前提にしています。

- インターネットおよび WWW (World Wide Web)
- iPlanet Administration Server
- iPlanet Directory Server および LDAP
- Netscape Console
- SIMS または Netscape Messaging Server

本書の構成

本書には、次の章および付録が含まれています。

- このマニュアルについて (この章)
- 第1章「SIMS 4.0 および Netscape Messaging Server 4.x と iPlanet Messaging Server との相違点」
- 第2章「移行の概要」
- 第3章「単一サーバシステムにおける iPlanet Messaging Server への移行のシナリオと手順」
- 第4章「複数サーバシステムの iPlanet Messaging Server への移行に関するシナリオおよび手順」
- 第5章「iPlanet Messaging Server の移行に関するトラブルシューティング」
- 付録 A 「コマンドラインインタフェース」
- 付録 B 「共通の移行手順」
- 「用語集」

マニュアルの表記規則

表 1 表記規則

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、コード、ディレクトリ名、ホスト名、識別名、およびコンピュータ画面に表示されるテキストを示します。	msg.conf ファイルを編集します。 すべてのファイルを一覧表示するには、ls -a を使用します。 Error: illegal port #
AaBbCc123	ユーザが入力するテキストを示します。	% cd madonna
<i>the_variable</i>	コマンドラインのプレースホルダまたは変数。実際の名前または値で置き換えます。	# instance_root/start-msg

ディレクトリおよびファイルの規則

iPlanet Messaging Server のインストール後、そのディレクトリおよびファイルは表 2 に示した構成で配置されます。この表は完全なものではなく、通常のサーバ移行タスクにもっとも関係のあるディレクトリおよびファイルのみを示しています。

表 2 インストール後のディレクトリおよびファイル

ディレクトリ	デフォルトの位置および説明
サーバルートディレクトリ (<i>server_root</i>)	<p><code>/usr/iplanet/server5/</code> (デフォルトの位置)</p> <p>特定のサーバグループに属するすべてのサーバ (特定の Administration Server に管理されるすべてのサーバ) がインストールされるディレクトリ。これには、Messaging Server 以外に、他の iPlanet サーバが含まれる場合もある。</p> <p>このディレクトリには、管理サーバを起動および停止したり (<code>start-admin</code>, <code>stop-admin</code>)、Console を起動する (<code>startconsole</code>) バイナリの実行可能ファイルも含まれる。</p>
インスタンスディレクトリ (<i>instance_root</i>)	<p><code>server_root/msg-instance_name/</code> (必須の位置)</p> <p><i>instance_name</i> は、Messaging Server のこのインスタンスの名前。インストール時に指定される。(デフォルト = サーバマシンのホスト名)</p> <p>このディレクトリには、Messaging Server の特定のインスタンスを定義する構成ファイルが含まれる。同じバイナリファイルを使用する Messaging Server の複数のインスタンスが、特定のホストマシンに存在する場合もある。</p> <p>このディレクトリには、インストールされた Messaging Server の実行可能ファイルの一部 (<code>configutil</code>, <code>start-msg</code>, <code>stop-msg</code> など) も含まれる。</p>

関連情報

iPlanet Messaging Server には、本書のほかに、管理者用の補足情報およびエンドユーザや開発者用のマニュアルもあります。次の URL を使用すると、Messaging Server のすべてのマニュアルを参照できます。

<http://docs.ipplanet.com/docs/manuals/messaging.html/>

入手可能なその他のドキュメントは次のとおりです。

- 『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』
- 『iPlanet Messaging Server リファレンスマニュアル』
- 『iPlanet Messaging Server スキーマリファレンス』
- 『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』
- 『iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration インストールおよび管理ガイド』

SIMS 4.0 および Netscape Messaging Server 4.x と iPlanet Messaging Server との相違点

iPlanet Messaging Server は、Netscape Messaging Server と Sun Internet Messaging Server (SIMS) の優れた機能を統合した新しい製品です。iPlanet Messaging Server は両製品のもっとも堅牢で高性能のコンポーネントを組み合わせられて作られています。そのため、Netscape Messaging Server と SIMS のユーザにとっては、iPlanet Messaging Server のプロセスと手順の多くがこれまでとは異なっていることになります。

この章では、Netscape Messaging Server および SIMS の両システムと、iPlanet Messaging Server との間の主な違いについて説明します。また、iPlanet Messaging Server への移行に影響するその他の要因についても説明します。この章には、以下の節があります。

- 14 ページの「メッセージングコンポーネントの進化」
- 15 ページの「ディレクトリのサポート内容の変更」
- 20 ページの「SIMS 4.0 との相違点」
- 22 ページの「Netscape Messaging Server 4.x との相違点」
- 25 ページの「高可用性クラスタ上の SIMS および Netscape Messaging Server の移行」

メッセージングコンポーネントの進化

iPlanet Messaging Server は、Netscape Messaging Server と SIMS が進化したものです。次の iPlanet Messaging Server コンポーネントは、Netscape Messaging Server 4.x のコンポーネントに基づいているため、使用するデータ形式や構成情報が類似しています。

- メールアクセス (IMAP および POP) サーバ
- Web ブラウザからのメールアクセス (Messenger Express)
- ディレクトリサービス (Netscape Directory Server)
- Netscape Console からの GUI による管理

次の iPlanet Messaging Server コンポーネントは、Sun Internet Mail Server 4.0 の同等のコンポーネントに基づいています。

- MTA (Message Transfer Agent)
- ホストドメインの委任管理に関する基本的な管理方法 (iPlanet Delegated Administrator for Messaging のアーキテクチャと実装を追加)
- ホストドメインのディレクトリアーキテクチャ

iPlanet Messaging Server には以前の製品と同等のコンポーネントが含まれていますが、管理手順とデータに完全な上位互換性があるわけではありません。表 1-1 に、SIMS、Netscape Messaging Server、および iPlanet Messaging Server 間の主な違いを示します。

表 1-1 SIMS 4.0/Netscape Messaging Server 4.x と iPlanet Messaging Server 5.x の違い

メッセージングコンポーネント	SIMS 4.0 との違い	Netscape Messaging Server 4.x との違い
MTA	SIMS の MTA のアップデート版を使用する。管理、構成、およびカスタマイズのプロセスはほとんど同じである。新しいオプションについては、『管理ガイド』を参照	Netscape Messaging Server の MTA に代わって新しい MTA を使用する。管理、構成、およびカスタマイズのプロセスは異なる
メッセージストア	別のメッセージストアを使用する。いくつかの管理コマンドは引き続き使用できる	Netscape Messaging Server のメッセージストアを使用する。ユーティリティが追加されている
プロビジョニング ¹	SIMS のプロビジョニング CLI を使用する。新しい Delegated Administrator では GUI によるプロビジョニング機能が提供される。新しいプロビジョニングガイドを参照	新しい CLI を使用する。新しい Delegated Administrator では GUI によるプロビジョニング機能が提供される。新しいプロビジョニングガイドを参照
システム管理 CLI	類似したコマンドもあるが、ほとんどのコマンドは異なる	類似したコマンドもあるが、多くのコマンドは異なる。configutil は引き続き使用できる

表 1-1 SIMS 4.0/Netscape Messaging Server 4.x と iPlanet Messaging Server 5.x の違い (続き)

メッセージングコンポーネント	SIMS 4.0 との違い	Netscape Messaging Server 4.x との違い
システム管理 GUI	以前の GUI に代わって Netscape Admin Console を使用する	変更なし。Netscape の管理 GUI を使用する
LDAP ディレクトリ	Sun Internet Directory Server に代わって Netscape Directory Server を使用する	変更なし。Netscape Directory Server を使用する
スキーマ	別のスキーマを使用する。ただし、以前のスキーマもサポートされる	別のスキーマを使用する。ただし、以前のスキーマもサポートされる

1. 独自のプロビジョニングツールを使用して、アカウント管理システムのデータに基づきユーザおよびグループのディレクトリエントリの作成や変更を行なっている場合は、新しいディレクトリスキーマにエントリを移行する前にこれらのツールを変更する必要があります。詳細は、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

ディレクトリのサポート内容の変更

ここでは、iPlanet Messaging Server におけるディレクトリのサポート内容の変更について説明します。

ディレクトリサーバ

表 1-2 に、iPlanet Messaging Server と旧システムでサポートされるディレクトリサーバを示します。Sun Directory Server または Netscape Directory Server の以前のバージョンを使用している場合は、iPlanet Messaging Server をインストールする前に少なくとも Netscape Directory Server 4.12 にアップグレードしておく必要があります。

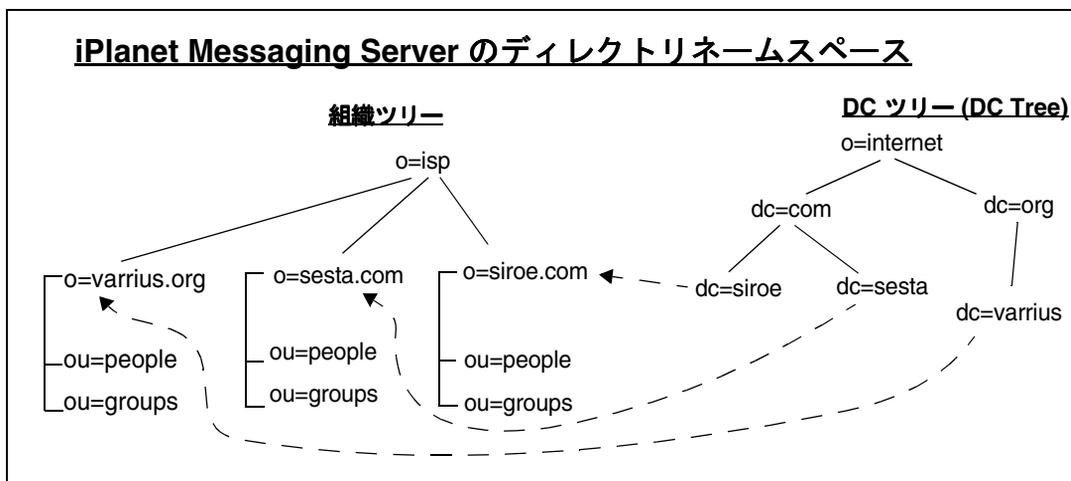
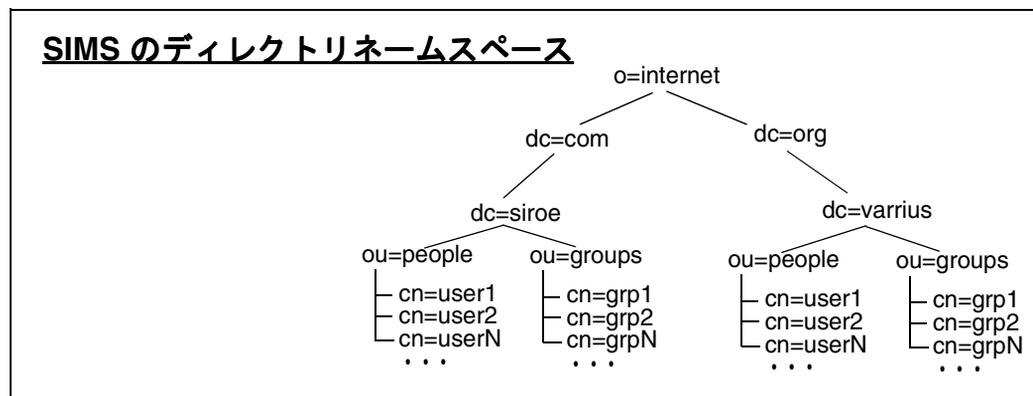
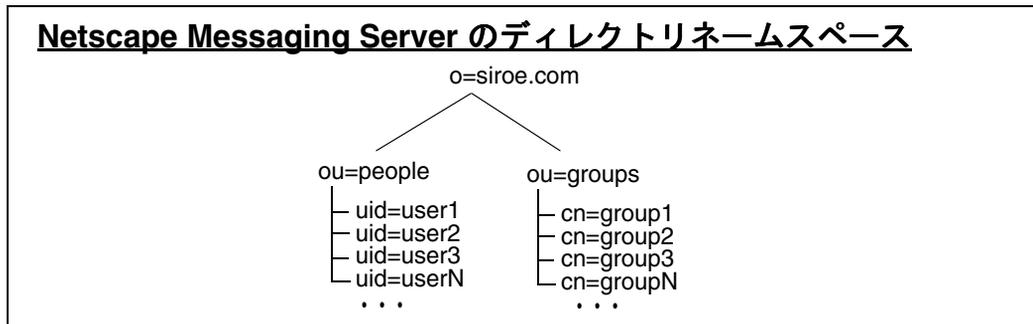
表 1-2 ディレクトリサーバのサポート

メッセージングサーバ	Sun Directory Server 4.12 の Server 3.1	Netscape Directory Server 4.12 のサポート
Netscape Messaging Server 4.x	×	○
Sun Internet Mail Server 4.0	○	○
iPlanet Messaging Server	×	○

ディレクトリ情報ツリー

iPlanet Messaging Server のデフォルトの DIT は、Netscape Messaging Server および SIMS の DIT とは異なります。この 3 つの DIT を次に示します。

図 1-1 ディレクトリ情報ツリー (DIT) の例



インストール当初、iPlanet Messaging Server のネームスペースは組織ツリーとドメインコンポーネントツリー (DC ツリー) の 2 つのディレクトリツリーから構成されています。組織ツリーにはユーザとグループのエントリが含まれます。組織ツリーはシステムに対応させるために追加することが可能です。DC ツリーはローカルの DNS 構造を反映しており、データエントリに対する索引としてシステムで使用されます (16 ページの図 1-1 を参照)。DC ツリーでは各種ドメインのオペレーションパラメータ (スマートホスト、ルーティング、ホスト、ドメインのディスク割り当てなど) も指定します。

iPlanet Messaging Server は SIMS 形式のネームスペースを完全にサポートしていますが、Netscape Messaging Server からの移行に関しては、現時点では多少の制限があります。この点については次に説明します。

Netscape Messaging Server 4.x のディレクトリネームスペースに関する制限事項

iPlanet Messaging Server で Netscape Messaging Server のディレクトリネームスペースを使用するには、Netscape Messaging Server のディレクトリ情報ツリー (DIT) を iPlanet Messaging Server の DC ツリーにマップする必要があります。マップする手順は、現在のシステムで仮想ドメインがサポートされているか、および UID がどのように指定されるかによって決まります。UID の指定方法によっては、iPlanet Messaging Server に移行できない場合もあります。UID の指定方法は、主に次の 4 つに分類できます。

- 仮想ドメインは含まれていない。UID の形式は *LocalPart* (ドメインは 1 つだけ)。以下に例を示す


```
uid: wallyc
uid: ofanning
```
- 仮想ドメインが含まれている。UID は @ で区切られ、@ の右側に完全指定ドメイン名 (FQDN) が続く。UID の形式は *LocalPart@FQDN*。以下に例を示す


```
uid: wallyc@varrius.org
uid: ofanning@siroe.com
```
- 仮想ドメインが含まれている。UID は @ で区切られているが、@ の右側は FQDN ではない。以下に例を示す


```
ofanning@siroe
havlicek@sesta
barkley@florizel
```

現時点では、この形式の UID を使用するシステムは移行できません。
- 仮想ドメインが含まれている。UID は @ 以外の文字で区切られている。以下に例を示す

```
ofanning#siroe  
eddie#sesta  
barkley#florizel.com
```

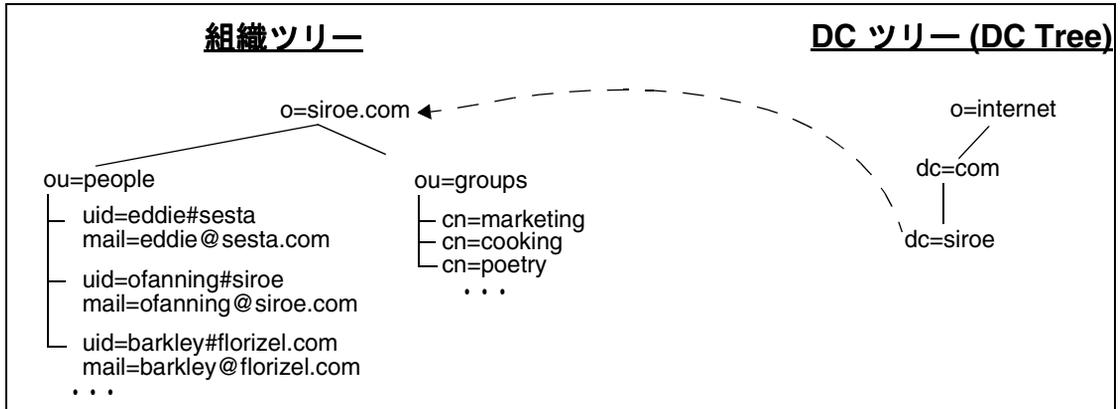
現時点では、**imsdirmig** はこの形式の UID を完全にはサポートしていません。ただし、このような導入を iPlanet Messaging Server に移行する場合は、バニティドメインを使用することができます。この場合、ドメインレベルの管理はサポートされていません (Delegated Administrator は使用できません)。

この形式の UID をサポートするには、次の手順を実行します。

- デフォルトドメインにすべてのユーザおよびグループを入れます。これには、DC ツリーのデフォルトドメインノードの `inetDomainBaseDN` 属性を組織ツリーのルート接尾辞に設定します。たとえば `dc=siroe,dc=com, o=internet` の場合、`inetDomainBaseDN` をルート接尾辞 `o=siroe.com` に設定します。これにより、すべての仮想ドメインのユーザおよびグループがデフォルトドメインに含まれるようになります。
- すべてのユーザエントリにオブジェクトクラス `msgVanityDomainUser` を追加して、`msgVanityDomain` 属性をユーザの仮想ドメインの完全指定ドメイン名に設定します。ユーザの仮想ドメインは、ユーザのメールアドレスのドメイン部分です。たとえば、`uid=eddie#sesta` というエントリの `msgVanityDomain` の値は、メールアドレス `eddie@sesta.com` のドメイン部分が `sesta.com` なので、`sesta.com` になります (図 1-2 を参照)。

`inetDomainBaseDN` をルート接尾辞に設定する方法については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする方法については、122 ページの「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

図 1-2 バニティドメインを使用した仮想ドメインのサポート



iPlanet Messaging Server スキーマ

ホストドメインや iPlanet Delegated Administrator などの各種機能をサポートするために、iPlanet Messaging Server ではディレクトリスキーマに多くの拡張と変更を加えています。ただし、これらの変更は必須のものではなく、iPlanet Messaging Server では Netscape Messaging Server と SIMS の両方のスキーマもサポートされます。

iPlanet Messaging Server のすべての新機能を活用するには、ディレクトリオブジェクトを新しいスキーマにアップグレードする必要があります。iPlanet Messaging Server の新機能を活用できるように、データエントリをアップグレードすることをお勧めします。iPlanet Messaging Server スキーマを必要とする機能を次に示します。

- iPlanet Delegated Administrator for Messaging のコマンドラインユーティリティ
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging GUI ツール
- サーバ側フィルタリング規則
- Vacation 属性
- ホストドメインのサポート

新しいスキーマへの移行は、段階的に、サービスを中断することなく実施できます。ただし、グループまたはユーザの移行が完了したあとは、元のメッセージングサーバを実行するホストにそのグループまたはユーザを戻すのは困難です。元のサーバに戻す必要がないことを確認してから移行を実施してください。スキーマに関する詳細な説明は、『iPlanet Messaging Server スキーマリファレンスマニュアル』を参照してください。

iPlanet Messaging Server スキーマへのアップグレードには、`imsdirmig` ユーティリティを使用します。これについては、それぞれの移行シナリオで説明します。`imsdirmig` は移行ツールキットに付属しています。

SIMS 4.0 との相違点

SIMS 4.0 の MTA に関する変更

iPlanet Messaging Server では SIMS と同じ MTA を使用しますが、アップグレード版なのでいくつかの留意すべき変更点があります。ここでは、この点について説明します。

Vacation 機能

iPlanet Messaging Server では、Vacation 属性が異なります。ユーザの LDAP エントリを iPlanet Messaging Server スキーマに変換しないと、Vacation 機能は使用できません。

imta startup

`imsimta startup` および `imsimta restart` の各コマンドは、構成を自動的にコンパイルしなくなりました。iPlanet Messaging Server では、コンパイルされた構成を使用するかどうかを選択できます。パフォーマンスのためには、コンパイルされた構成を使用することをお勧めします。また、`dirsync` 操作を完了するには、コンパイルされた構成を使用する必要があります。ただし、テストシステムなど、コンパイルされた構成を使わずに実行した方が一時的に便利な場合もあります。構成をコンパイルするには、`imsimta cnbuild` コマンドを実行するか、または `imsimta cnbuild` と `imsimta restart` の実行に相当する `imsimta refresh` コマンドを使用します。

メーリングリストへのアクセスの許可と禁止

iPlanet Messaging Server では、`mgrpAllowedBroadcaster` または `mgrpDisallowedBroadcaster` に静的グループのアドレスを設定できますが、入れ子のグループ (グループの中のグループ) はサポートされていません。個々の送信者については、`mgrpAllowedBroadcaster` と `mgrpDisallowedBroadcaster` に特定の送信者のアドレスを設定するか、または動的グループ (URL 条件を使用した LDAP 検索) として指定します。

SMTP リレーの追加

iPlanet Messaging Server は、デフォルトで、試行された SMTP リレーをブロックするように設定されています。つまり、認証されていない外部ソースから外部アドレスへのメッセージの送信は拒否されます(外部システムとは、サーバがあるホスト以外のシステムのことです)。ほかのシステムはすべて外部システムとみなされることから、SMTP リレーをブロックするこのデフォルト設定はかなり厳しいものだといえます。SMTP リレーの詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照してください。

SIMS 4.0 のメッセージストアに関する変更

SIMS 4.0 の既存のメッセージストアは、iPlanet Messaging Server の新しい形式と互換性がありません。SIMS 4.0 のメッセージストアは、新しいメッセージストアの形式に変換する必要があります。詳細は、次の章を参照してください。

SIMS では、SIMS Admin Console を使用するか、コマンドラインユーティリティを実行して設定ファイルを変更することにより、メッセージストアの構成と管理が行われていました。iPlanet Messaging Server では設定ファイルは使用しません。設定パラメータはディレクトリに保存されます。設定パラメータは Administration Console と configutil コマンドを使用して変更します。一方、メッセージストアのコマンドラインユーティリティの多くが iPlanet Messaging Server に引き継がれています。次に、SIMS から移行した場合の相違点をいくつか示します。詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』と『iPlanet Messaging Server リファレンスマニュアル』を参照してください。

- iPlanet Messaging Server には、従来 imexpire と impurge によって実行されていた機能を自動的に実行するメッセージストアデーモンがある。このデーモンは、メッセージストアロックとトランザクションログの管理も自動的に行う。このデーモンは常に実行されている必要がある
- バックアップとリストアは SIMS 4.0 に似ている
- /var/mail 形式のメッセージアクセスはない
- imsrestore にはインタラクティブモードがない
- imcheck に代わって reconstruct を使用する
- IMAP IDLE コマンドがない
- imdeluser に代わって mboxutil -d を使用する
- imexpire、iminitquota、および impurge は不要になり、サポートされない
- imquotacheck は quotacheck に変更
- No POP before SMTP(この機能は、ディレクトリを使用して UID の解釈方法を制御すると利用できる)

- AUTH API がない

Netscape Messaging Server 4.x との相違点

Netscape Messaging Server 4.x の MTA に関する変更

iPlanet Messaging Server では Netscape Messaging Server とはまったく異なる MTA を使用しており、相違点も数多くあります。次に、相違点をいくつか示します。詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』と『iPlanet Messaging Server リファレンスマニュアル』を参照してください。

プラグイン

iPlanet Messaging Server ではメッセージングプラグインはサポートされていませんが、iPlanet Messaging Server MTA には一般的なプラグイン機能と同等のものが数多くあります。ただし、Netscape Messaging Server のオプションやカスタマイズ機能（特に、文書化されていない機能やカスタムプラグイン）には、iPlanet Messaging Server に直接代替可能な機能がないものもあります。iPlanet Messaging Server のチャンネルプログラムは Netscape Messaging Server のプラグイン API と互換性がないため、Netscape Messaging Server のプラグインを iPlanet Messaging Server のカスタムチャンネルプログラムとして再コーディングする必要があります。このような新規のプログラムは、移行前に開発およびテストしておいてください。

メーリングリストの不正な ErrorsTo アドレスに関するポストマスターへの通知の送信

Netscape Messaging Server では、メーリングリストに無効なメンバーや無効な ErrorsTo アドレスがある場合、グループに送られたメッセージから 2 種類のエラーメッセージが発生し、ポストマスターに送られていました。エラーメッセージの 1 つは無効なグループメンバーについて、もう 1 つは無効な ErrorsTo アドレスについてです。

iPlanet Messaging Server では、デフォルトで、ポストマスターには無効なグループメンバーに関するメッセージだけが送信されます。ポストマスターは、不正な ErrorsTo アドレスの通知など、送信しようとした通知メッセージが送り返されたことについては通知を受け取りません。

通知メッセージの配信不能（たとえば、ErrorsTo アドレスへの通知の配信不能）もポストマスターに通知するには、sendpost キーワードを使用します。

グループ属性の移行に関する問題

次のグループ属性および値はサポートされていません。

グループ属性 `mgrpMsgRejectAction`

`mgrpMsgRejectAction` および `mgrpMsgRejectText` の各グループ属性は現時点ではサポートされていません。これらの属性では、グループへのメッセージが拒否された場合のアクションを指定できます。属性は使用できますが、今後のバージョンでサポートされる予定です。

グループ属性値 '`mgrpBroadcasterPolicy=PASSWD_REQUIRED`'

グループ属性 `mgrpBroadcasterPolicy` は、`PASSWD_REQUIRED` という値では機能しません。今後のリリースで実装される予定です。

グループ属性 `mgrpErrorsTo` は、グループが LDAP 値として指定されている場合には機能しない

この値は `mailto` アドレスとして指定します。たとえば、次のように入力します。

```
mgrpErrorsTo: mailto: baseball@siroe.com
```

LDAP 値は指定できません。たとえば、次のように入力します。

```
mgrpErrorsTo: ldap:///cn=baseball,ou=Groups,o=siroe.com,o=siroe.com
```

この点は修正されません。

認証済み差出人の設定

認証済み差出人を設定すると、メーリングリストの LDAP に `mgrpAllowedBroadcaster` という属性が設定され、ほかのすべてのユーザがメーリングリストに送信できなくなります。たとえば、`mike` を認証済み差出人に指定すると、メーリングリストに送信できるのは `mike` だけになります。

`mgrpAllowedBroadcaster` を使用する構文の詳細は、『iPlanet Messaging Server スキーマリファレンスマニュアル』を参照してください。

SMTP リレー機能

Netscape Messaging Server では、プラグインによって「リレー防止」機能（外部ドメインから送信されたメールは別の外部ドメインにリレーされない）が提供されていました。iPlanet Messaging Server では、この機能は MTA が提供します。iPlanet Messaging Server のデフォルトの初期設定では、試行された SMTP リレーをブロックするように設定されています。つまり、認証されていない外部ソースから外部アドレスへのメッ

ページの送信は拒否されます(外部システムとは、サーバがあるホスト以外のシステムのことです)。ほかのシステムはすべて外部システムとみなされることから、SMTP リレーをブロックするこのデフォルト設定はかなり厳しいものといえます。SMTP リレーの詳細は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照してください。

外部サイトの SMTP リレーを許可する

内部 IP アドレスはすべて INTERNAL_IP マッピングテーブルに追加する必要があります。お使いのシステム/サイトで SMTP リレーを許可する場合は、SMTP リレーを許可する外部アドレスを内部アドレスとともに INTERNAL_IP マッピングテーブルに指定する方法がもっとも簡単です。これは、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』で説明されています。

RBL チェックを含む DNS 検索

Netscape Messaging Server では、配信や転送のために受け付けたメールが有効な DNS 名を持つアドレスから送信されたものであることを確認するために、管理者は MTA 設定パラメータの `service.smtp.domainnotallowed` とフィルタ `ALL: UNKNOWN` を使用していました。

iPlanet Messaging Server では、別の方法でこの機能を実現できます。もっとも簡単な方法は、`tcp_local` チャンネルに `mailfromdnsverify` チャンネルキーワードを割り当てることです。

iPlanet Messaging Server には、次に示す `ORIG_MAIL_ACCESS` 内の規則と同様の機能を実行できる `dns_verify` プログラムも用意されています。

```
ORIG_MAIL_ACCESS

TCP|*|*|*|*|SMTP|MAIL|*|*|*|*|*   ¥
    $[server_root/bin/msg/imta/lib/dns_verify,   ¥
dns_verify,$6|$$y|$$NInvalid$ host:$ $$6$ -$ %e]
```

DNS 検索は、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』で説明されています。

認証されていないバルクメール (UBE) のフィルタリング

リレー防止機能については、前の節を参照してください。サーバ側メールボックスフィルタの手順については、『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照してください。メッセージヘッダーに基づいて受信メッセージをフィルタリングするには、iPlanet Delegated Administrator for Messaging を使用できます。

Netscape Messaging Server 4.x のメッセージストアに関する変更

iPlanet Messaging Server で使用されるメッセージストアのデータ形式は、Netscape Messaging Server 4.x のものに基づいています。Netscape Messaging Server の既存のメッセージストアは自動的に新しい iPlanet Messaging Server の形式に変換されます。ただし、簡単な変換手順が必要です。詳細は、次の章を参照してください。

高可用性クラスタ上の SIMS および Netscape Messaging Server の移行

このマニュアルで説明するシナリオは、高可用性クラスタ上の電子メールシステムのアップグレードにも使用できます。クラスタソフトウェアそのもののアップグレードや、クラスタノードの分割方法は、このマニュアルでは扱いません。クラスタのベンダーが提供するマニュアルを参照してください。

移行の概要

この章では、移行プロセスの概要を説明します。この章には、以下の節があります。

- 27 ページの「移行の前提条件」
- 28 ページの「移行ツールキット」
- 28 ページの「移行プロセス」
- 30 ページの「SIMS メッセージストアの移行方法の選択」
 - 30 ページの「メッセージストアのオフライン移行」
 - 31 ページの「メッセージストアのオンライン移行」
 - 32 ページの「メッセージストアの段階的移行」

移行の前提条件

このマニュアルの移行手順とシナリオは、次の条件を前提にしています。

- 移行前のシステムは SIMS 4.0 または Netscape Messaging Server 4.x である
- システムで使用している LDAP ディレクトリは Netscape Directory Server 4.12 である
- Netscape Messaging Server システムが、*local_part* または *local_part@FQDM* 書式の UID を使用している (17 ページの「Netscape Messaging Server 4.x のディレクトリネームスペースに関する制限事項」を参照)

移行ツールキット

このマニュアルで説明する手順を実行するには、移行ツールキットが必要です。移行ツールキットには次のものが含まれています。

- 移行時に複数スキーマをサポートするためのスキーマファイル
- iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ディレクトリエントリを変換する `imsdirmig` コマンド。このコマンドは、iPlanet Messaging Server がサポートされているすべてのプラットフォームで実行できる
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging をサポートするための LDIF ファイルを作成する `imsdaaci` コマンド。このコマンドは、iPlanet Messaging Server がサポートされているすべてのプラットフォームで実行できる

移行プロセス

移行方法を決める要素は3つあります。これらの要素を次に示します。

- SIMS と Netscape Messaging Server のどちらのシステムを移行するのか
- メールシステムの複雑さ (単一のスタンドアロンシステム上で動作するシステムなのか、各種機能を連携して実行する多数のシステムから成るシステムなのか)
- 許容できるダウンタイム (ユーザのメールの送受信を停止できる期間)

どの方法を選択しても、基本的な目的と手順は同じです。これらについて、簡単に説明します。

Netscape Messaging Server から移行する場合は、カスタマイズしたプラグインを実装し直します。iPlanet Messaging Server ではメッセージングプラグインをサポートしないため、プラグイン機能は新しい MTA の機能を使用して再設計および再コーディングする必要があります。MTA には、もっともよく使用されるプラグイン機能に対応する機能が用意されています。22 ページの「Netscape Messaging Server 4.x の MTA に関する変更」を参照してください。

ディレクトリサーバを Netscape Directory Server 4.12 にアップグレードします。120 ページの「SIMS/Netscape Messaging Server から Netscape Directory Server 4.12 へのアップグレード」を参照してください。

ディレクトリサーバで複数スキーマのサポートを有効にします。移行中は、iPlanet Messaging Server のスキーマと SIMS または Netscape Messaging Server のスキーマとを並行してサポートする必要がある可能性があります。これを行うには、SIMS と Netscape Messaging Server の新しいスキーマファイルを LDAP マスターサーバおよびすべての複製にインストールします (120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照)。

複数サーバ導入の場合は、構成サーバをインストールします。構成サーバは、iPlanet Messaging Server の構成データを含む LDAP サーバです。Netscape Messaging Server の既存の構成サーバを使用して iPlanet Messaging Server をインストールするには、先に A) 新しいスキーマにアップグレードし、B) 構成サーバに新しい Admin Domain を作成します。

iPlanet Messaging Server をインストールします。iPlanet Messaging Server をインストールしたら、以前のディレクトリサーバからユーザ/グループエントリを取得できるように、iPlanet Messaging Server を構成します。『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

メッセージストアを変換または移動します。SIMS 環境の場合は、SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに変換します。これは、オフラインまたはオンラインで、あるいはユーザのまとまりごとに段階的に行うことができます。30 ページの「SIMS メッセージストアの移行方法の選択」を参照してください。

Netscape Messaging Server 環境の場合は、システムでメッセージストアを指定すると、移行はオンラインで自動的に行われます。

iPlanet Messaging Server スキーマを使用するようにユーザ、グループ、およびドメインのエントリをアップグレードします。iPlanet Messaging Server コンポーネントはスキーマが混在していてもユーザやグループを処理できるため、サービスを中断することなく段階的に移行を実施できます。ただし、新しいスキーマへの移行が完了したあとは、元のメッセージングサーバを実行するホストにグループやユーザを戻すのは困難です。エントリを新しいスキーマに移行するには、imsdirmig というユーティリティを使用します。

Netscape Messaging Server から移行する場合は、ディレクトリを変更し、すべてのユーザおよびメーリングリストのエントリを組織ツリーのドメインノードの下に置きます。これは、ドメインのサポートに必要なだけでなく、iPlanet Delegated Administrator for Messaging の GUI ツールとユーティリティをサポートするためにも必要です。詳細は、122 ページの「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging をサポートするようにシステムを変更します。Delegated Administrator サービス管理者エントリと Delegated Administrator サービス管理者グループエントリを作成します。適切な ACI を追加します。

注 ACI がユーザ/グループの LDAP サーバに追加されたら、iPlanet Delegated Administrator をインストールできます。

SIMS メッセージストアの移行方法の選択

SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行する方法には、オフライン移行、オンライン移行、および段階的移行の3つがあります。どの方法を選択するかは、メッセージストアの大きさ、許容できるダウンタイム、および POP と IMAP のどちらを使用しているかによって決まります。ここでは、3つの方法の内容、その長所と短所、およびそれぞれの方法に関するシステムのシナリオを説明します。具体的な移行手順については後述します。

メッセージストアのオフライン移行

メッセージストアをオフライン移行する場合は、まず SIMS をシャットダウンし、iPlanet Messaging Server をインストールし、SIMS メッセージストアデータをバックアップします。次に、バックアップしたメッセージストアデータを iPlanet Messaging Server メッセージストアデータにリストアまたは変換してから、iPlanet Messaging Server をオンラインにします。

メッセージストアのオフライン移行には、次のような長所があります。

- もっとも簡単で単純な移行方法である
- 必要な場合に、SIMS に戻すのがもっとも簡単である
- メッセージの受信順序が正確である
- 移行にかかる時間がもっとも短い

メッセージストアのオフライン移行には、次のような短所があります。

- サーバのダウンタイム(クライアントアクセスができない時間)がもっとも長い。ダウンタイムは、20G バイトのメッセージストアを移行するのに¹ 約 1～2 時間、さらに LDAP エントリをアップグレードするのに 1～2 時間である(エントリ数と、メールホスト名の変更があるかどうかによって異なる)

次に、メッセージストアのオフライン移行のシナリオを示します。

- 1つまたは複数のサーバのシステムで、メッセージストアは 20G バイト、ユーザは約 50,000 人であり、POP または IMAP を使用している
推定ダウンタイム: 2～3 時間
- 1つまたは複数のサーバのシステムで、メッセージストアは 100G バイト、ユーザは約 200,000 人であり、POP または IMAP を使用している
推定ダウンタイム: 7～12 時間

1. オフライン移行にかかる時間は、ハードウェアによって異なります。2 個の UltraSparc プロセッサを持つ Ultra Enterprise E450 で、複数のバックアップ/リストアセッションを同時に実行する場合は、1 時間で最大 20G バイトのメッセージストアを移行できます。移行時間の合計は、メッセージストアの一部を移行してみて判断します。

オフライン移行の詳細は、36 ページの「単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオフライン移行方法)」または 74 ページの「SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オフライン移行)」を参照してください。

メッセージストアのオンライン移行

メッセージストアをオンライン移行する場合は、まず iPlanet Messaging Server をインストールしてデフォルトのサーバとして起動し、新しいメッセージは新しいメッセージストアに届くようにします。次に、新しくインストールしたサーバがアクティブでオンライン状態にあるときに、SIMS メッセージストアをそのサーバに移行します。

メッセージストアのオンライン移行には、次のような長所があります。

- ダウンタイムを最小限に抑えることができる
- 簡単で単純な移行方法である

メッセージストアのオンライン移行には、次のような短所があります。

- メッセージストアの移行により、メッセージストアキューの受信順序が不正確になる場合がある。SIMS から古いメッセージを移行すると、古いメッセージは iPlanet Messaging Server で受信した新しいメッセージの上に追加される。新たに受信したメッセージと古いメッセージの受信順序が混ざってしまう可能性がある
- sync をオンに設定する必要があるため、ほかの方法よりメッセージストアの移行に時間がかかる (ハードウェアによっては 1 時間あたり 2 ~ 4G バイト。オフライン移行の場合は 1 時間あたり 10 ~ 20G バイト)
- 古いメッセージとフォルダが移行されるまで、ログインしたユーザには一時的に空のメールボックスが表示される。移行中は、IMAP のメールボックス内の古いメッセージにはアクセスできない。iPlanet Messaging Server メッセージストアに届いた新しいメッセージにはアクセスできる

次に、メッセージストアのオンライン移行のシナリオを示します。

- ユーザコミュニティでは、POP だけを使用している
- 単一または複数のサーバシステムで、メッセージストアは 20G バイト、ユーザは約 50,000 人であり、POP または IMAP を使用している。A) ダウンタイムを最小限に抑えることが重要であり、B) 新しいメッセージと古いメッセージの順序が厳密である必要はなく、C) ユーザメールボックスのすべてのメッセージが一時的に表示できなくなってもかまわない。IMAP を使用するユーザは、移行が済むまで古いメッセージにアクセスできない。推定移行時間: 5 ~ 10 時間
- 1 つまたは複数のサーバのシステムで、メッセージストアは 100G バイト、ユーザは約 200,000 人であり、POP または IMAP を使用している。推定移行時間: 25 ~ 50 時間

オンライン移行の詳細は、41 ページの「単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオンライン移行方法)」または 79 ページの「SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オンライン移行)」を参照してください。

メッセージストアの段階的移行

このシナリオでは、iPlanet Messaging Server を新しいマシンにインストールし、移行済みユーザが使用できるように起動します。一方、既存のマシンではまだ移行していないユーザのために、SIMS も稼働させておきます。ユーザメールボックスは、ユーザのまとまりごとに古い SIMS システムから新しい iPlanet Messaging Server システムに段階的に移行されます。

段階的移行の基本的な手順は次のようになります。SIMS を稼働させたまま、iPlanet Messaging Server をインストールします。一部のユーザについて、一時的にメールシステムの使用を停止し、SIMS から iPlanet Messaging Server に移行します。移行済みユーザのメールホストとして、iPlanet Messaging Server を起動します。一方、まだ移行していないユーザのために、SIMS システムも稼働させておきます。ユーザのまとまりを順次 SIMS から iPlanet Messaging Server に移行していきます。すべてのユーザを移行したら、SIMS を停止します。ダウンタイムは、移行中のユーザだけに限定されます。

メッセージストアの段階的移行には、次のような長所があります。

- ダウンタイムが移行中のユーザだけに限定される
- ユーザの多い大規模なメッセージストアの移行でダウンタイムを抑えたい場合に便利である
- 少人数のユーザだけを新しいシステムに移行し、ほかのユーザには引き続き SIMS システムを使用してもらうことができる

段階的移行には、次のような短所があります。

- ハードウェアが余分に必要である
- 移行プロセスがより複雑である
- いったん新しいシステムに移行したユーザを SIMS システムに戻すことは難しい。本格的に移行を開始する前に、少人数のユーザで試すことを推奨

次に、メッセージストアの段階的移行のシナリオを示します。

- メッセージストアは 500G バイト、ユーザは約 500,000 人であり、IMAP システムを使用しており、システムのダウンタイムを最小限に抑える
- ユーザを一度にすべて移行するのではなく、徐々に移行するシステム

移行に必要な時間は、オンライン移行と同様です。詳細は、47 ページの「単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアの段階的移行方法)」と 90 ページの「SIMS メッセージストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (段階的移行)」を参照してください。

単一サーバシステムにおける iPlanet Messaging Server への移行のシナリオと手順

この章では、SIMS 4.0 または Netscape Messaging Server 4.x 単一サーバシステムから¹ iPlanet Messaging Server システムへの移行手順について説明します。この章の 4 つのシナリオでは、多くの SIMS 4.0 および Netscape Messaging Server 4.x 導入を扱います。ただし、導入はそれぞれ異なっており、個別の状況に応じてこれらの手順を変更する必要もあることに留意してください。

注 このマニュアル全体に目を通し、実施する移行のあらゆる側面について十分に理解してください。移行の手順が理解できたら、ディレクトリおよびメッセージストアのデータをすべてバックアップし、少人数のユーザについて移行を試してから、システム全体の移行を実施します。

この章には、以下の節があります。

- 36 ページの「単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオフライン移行方法)」
- 41 ページの「単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオンライン移行方法)」
- 47 ページの「単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアの段階的移行方法)」
- 55 ページの「単一サーバの Netscape Messaging Server システムからの移行」

1. 「単一サーバシステム」は、MTA とメッセージストアが 1 つのホスト上にある場合をいいます。ディレクトリは、同じホストにあっても別のホストにあってもかまいません。

単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオフライン移行方法)

シナリオの前提

- 同じホストで SIMS 4.0 を iPlanet Messaging Server に置き換える
- メッセージストアの移行中はメールサービスを利用できない (オフライン)
- Netscape Directory Server 4.12 を使用する (ディレクトリサーバは同じホストにあって別ホストにあってかまわない)
- SIMS のユーザ/グループのディレクトリ接尾辞: `o=internet`
SIMS と iPlanet Messaging Server のメールサーバ名: `mail.siroe.com`
マスターディレクトリサーバ: `mail.siroe.com`
ディレクトリサーバのバインドパスワード: `secret`
SIMS のデフォルトの組織 DN: `dc=siroe,dc=com,o=internet`
ユーザ/グループエントリは DC ツリー内に含まれる (DIT は 1 つ)

移行手順

1. ディレクトリサーバのデータベースをバックアップします。
使用するコマンドは `DirServer_instance_root/bin/db2ldif` です。詳細は、次の Netscape Directory Server のマニュアルを参照してください。
<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/directory.html#dirserver41>
2. 複数スキーマのサポートを有効にします (SIMS/Netscape Messaging Server/iPlanet Messaging Server)。
マージされたスキーマファイル (`merged.oc.conf` および `merged.at.conf`) をディレクトリサーバに追加します。このディレクトリサーバは、iPlanet Messaging Server でユーザ/グループサーバとして使用されます。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
3. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。
これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```


この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

4. SIMS を停止します。

次のコマンドを使用します。/opt/SUNWmail/sbin/im.server stop

SIMS のすべてのプロセスが停止したことを確認します。LDAP サーバ (slapd) は停止しないでください。この間、メールの送受信はできなくなります。

5. (メッセージストアの 2.5 倍のサイズのディスク容量を確保できる場合は、この手順を飛ばして次に進んでください。) SIMS の imbackup コマンドを使用して、別のデバイス (テープドライブなど) に SIMS メッセージストアのバックアップを作成します。

この SIMS メッセージストアのバックアップコピーは、あとで iPlanet Messaging Server メッセージストアに移動します。imbackup コマンドを使用してテープにバックアップを作成する場合の例を次に示します。

```
imbackup -f /dev/rmt/0
```

ディスク容量を余分に確保できる場合は、手順 10 で説明するように、SIMS メッセージストアをそのままにしてデータを imbackup から imsrestore に直接ストリーミングすると、ダウンタイムを最小限に抑えることができます。

6. iPlanet Messaging Server および付属のディレクトリサーバをインストールして構成します。iPlanet Messaging Server のプロセスをすべて停止します。

インストール時には、既存の SIMS ディレクトリサーバをユーザ / グループ情報の保存先サーバに指定しないでください。これはあとで行います。この時点では iPlanet Messaging Server の構成データを保存するために新しいディレクトリサーバをインストールする必要があります。インストールに関する次の質問に「No」と答えます。

Do you want to use another directory to store your data?[No]:

デフォルトのインストールオプションを使用します。ただし、SIMS ディレクトリサーバと同じネットワークポートは使用しないでください。これは、通常、389 ですが、390 を使用することもできます。ユーザとメーリングリストのエントリは既存のディレクトリサーバに置いたままになります。

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

```
instance_root/stop-msg
```

7. SIMS で使用していたユーザ / グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。これは、1 つ前の手順と同時に実行できます。

configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。

local.ugldapbasedn = o=internet (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)

local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager" (ディレクトリサーバのバインド DN)

local.ugldapbindcred = secret (ディレクトリサーバのバインドパスワード)

local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet" (デフォルトの組織 DN)

local.ugldaphost = mail.siroe.com (ユーザ/グループの LDAP サーバがあるホスト)

local.ugldapport = 389 (ユーザ/グループの LDAP サーバがあるポート)

8. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。

次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

9. iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ドメイン、ユーザ、およびグループのディレクトリエントリをアップグレードします。
 - a. imsdirmig コマンドを使用して、ドメインエントリをアップグレードします (付録 A 「コマンドラインインタフェース」を参照)。

```
imsdirmig -h mail.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m domains
```

この場合、o=internet の下のすべてのドメインがアップグレードされます。

- b. ユーザ/グループエントリをアップグレードします。

```
imsdirmig -h mail.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m both
```

この場合、o=internet の下のすべてのユーザ/グループエントリがアップグレードされます。

10. SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに変換します。

これを行うには、`imsbackup` を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、`imsrestore` を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、`imsrestore` は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前 (小文字のみ) を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる) に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には `anderson` と `kolander` という 2 つのメッセージストアがあることとなります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、`imsrestore` とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。`filename` の内容は次のようになります。

```
anderson=Anderson
kolander=Kolander
```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

-
- a. 手順 5 に従って、テープまたはその他のデバイスに SIMS メッセージストアのバックアップを作成した場合は、次のコマンドを使用してそれを iPlanet Messaging Server にリストア/変換します。メッセージストアのバックアップを作成していない場合は、手順 b に進んでください。

注 メールボックス名の文字で MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format, RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、`imsrestore` によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、`imsrestore` の `-n` オプションを使用します。

```
configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
instance_root/start-msg store
imsrestore -f /dev/rmt/0 -cy -n -v1
```

- b. ディスク容量を余分に確保できる場合は、次のコマンドを使用して SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに直接変換します。

```
configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
instance_root/start-msg store
imbackup -f- -u user_file | server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore
-f- -cy -n -v1
```

user_file はユーザメールボックスの名前が含まれているファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10～15のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、リストアを最適化できます。

11. 変換が完了したら、同期レベルを変更します。

```
configutil -o local.store.synclevel -v -1
```

12. stored を停止します。

```
instance_root/stop-msg store
```

13. iPlanet Messaging Server を起動します。

iPlanet Messaging Server で `imsimta dirsync -F` コマンドを実行し、`start-msg` コマンドを使用してほかのすべてのサーバプロセスを開始します。この時点で、iPlanet Messaging Server は完全に機能します。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

14. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオンライン移行方法)

メッセージストアのオンライン移行方法を使用して、単一サーバの SIMS 電子メールシステムを単一サーバの iPlanet Messaging Server に移行する手順を説明します。

シナリオの前提

- iPlanet Messaging Server は、新しいホストまたは現在の SIMS 4.0 システムと同じホストにインストールする
- ディレクトリサーバは Netscape Directory Server 4.12 を使用する。SIMS と同じホストにあっても別のホストにあってもかまわない。iPlanet Messaging Server に新しいディレクトリサーバがインストールされるが、これにはサーバの構成データだけを置く。古いディレクトリ、つまり SIMS のディレクトリでは、アップグレードされた同一のユーザ、グループ、およびドメインのエントリで新しい iPlanet Messaging Server をサポートする
- サーバがアクティブでオンライン状態にあるときに、SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行する。移行されたメッセージと、移行前に新しく届いたメッセージとが混在することになる
- システムを新しいホストにインストールする場合は、次の例に示すような前提が適用される。iPlanet Messaging Server を同じホストにインストールする場合と手順が異なるときは別途注記する。

前提

SIMS のユーザ / グループのディレクトリ接尾辞: o=internet

SIMS のメールサーバ名: oldmail.siroe.com

iPlanet Messaging Server のメールサーバ名: newmail.siroe.com

マスターディレクトリサーバ: ldap.siroe.com

ディレクトリサーバのバインドパスワード: secret

SIMS のデフォルトの組織 DN: dc=siroe,dc=com,o=internet

移行手順

1. ディレクトリサーバのデータベースをバックアップします。
使用するコマンドは `DirServer_instance_root/bin/db2ldif` です。詳細は、次の Netscape Directory Server のマニュアルを参照してください。
<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/directory.html#dirserver41>
2. 複数スキーマのサポートを有効にします (SIMS/Netscape Messaging Server/iPlanet Messaging Server)。マージされたスキーマファイル (`merged.oc.conf` および `merged.at.conf`) をディレクトリサーバに追加します。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。

- SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```

この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

- 同じホストにインストールする場合は、SIMS を停止します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/im.server stop.
```

SIMS のすべてのプロセスが停止したことを確認します。LDAP サーバ (slapd) は停止しないでください。この間、メールの送受信はできなくなります。

- iPlanet Messaging Server および付属のディレクトリサーバをインストールして構成します。iPlanet Messaging Server のプロセスをすべて停止します。

インストール時には、既存の SIMS ディレクトリサーバをユーザ/グループ情報の保存先サーバに指定しないでください。これはあとで行います。この時点では iPlanet Messaging Server の構成データを保存するために新しいディレクトリサーバをインストールする必要があります。インストールに関する次の質問に「No」と答えます。

Do you want to use another directory to store your data?[No]:

デフォルトのインストールオプションを使用します。ただし、ディレクトリサーバを同じホストにインストールする場合は、SIMS ディレクトリサーバと同じネットワークポートは使用しないでください。これは、通常、389 ですが、390 を使用することもできます。ユーザとメーリングリストのエントリは既存のディレクトリサーバに置いたままになります。

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

```
instance_root/stop-msg
```

- SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。

configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。

```
local.ugldapbasedn = o=internet (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)
local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager" (ディレクトリサーバのバインド DN)
local.ugldapbindcred = secret (ディレクトリサーバのバインドパスワード)
local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet" (デフォルトの組織 DN)
local.ugldaphost = ldap.siroe.com (LDAP サーバがあるホスト)
local.ugldapport = 389
```

7. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。


```
instance_root/configutil -o service.loginseparator -v +
```
8. (次の手順は、iPlanet Messaging Server を古い SIMS サーバと同じホスト (oldmail.siroe.com) にインストールする場合にだけ行います。別のホストにインストールする場合は、次の手順に進んでください。iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ドメイン、ユーザ、およびメーリングリストのディレクトリエントリをアップグレードします。
 - a. `imsdirmig` コマンドを使用して、ドメインエントリをアップグレードします (付録 A 「コマンドラインインタフェース」を参照)。


```
imsdirmig -h ldap.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D "cn=Directory Manager" -w secret -m domains
```

`o=internet` の下のすべてのドメインがアップグレードされます。
 - b. ユーザ/グループエントリをアップグレードします。


```
imsdirmig -h ldap.siroe.com -b "dc=com,o=internet" -M sims -D "cn=Directory Manager" -w secret -m both
```

`o=internet` の下のすべてのユーザ/グループエントリがアップグレードされます。
 - c. `stored` を起動します。


```
instance_root/start stored
```
 - d. iPlanet Messaging Server で `imsimta dirsinc -F` コマンドを実行します。


```
instance_root/imsimta dirsinc -F
```
9. (次の手順は、iPlanet Messaging Server を新しいホストにインストールする場合にだけ行います。) iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ドメイン、ユーザ、およびグループのディレクトリエントリをアップグレードして、ユーザ/グループエントリの `mailhost` 属性を新しいホスト (newmail.siroe.com) に設定します。

単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアのオンライン移行方法)

- a. `/opt/SUNWmail/sbin/im.server stop` を使用して SIMS を停止します。SIMS のすべてのプロセスが停止したことを確認します。LDAP サーバ (`slapd`) は停止しないでください。この間、メールの送受信はできなくなります。

- b. iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ドメインエントリをアップグレードします。

`imsdirmig` コマンドを使用します (付録 A 「コマンドラインインタフェース」を参照)。

```
imsdirmig -h ldap.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m domains -A  
mailroutinghosts:newmail.siroe.com
```

`o=internet` の下のすべてのドメインがアップグレードされます。

- c. ユーザ/グループエントリをアップグレードします。

```
imsdirmig -h ldap.siroe.com -b "dc=com,o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m both -A  
mailhost:newmail.siroe.com
```

`o=internet` の下のすべてのユーザ/グループエントリに新しいメールホストが割り当てられ、エントリは新しいスキーマにアップグレードされます。

- d. ユーザクライアントで新しいメールサーバが指定されていることを確認します。一時的に古いメールにアクセスできなくなることがあることをユーザに知らせます。

移行済みユーザには、新しいメールサーバをポイントするようにメールクライアントプログラムを修正してもらいます (この例では `oldmail.siroe.com` から `newmail.siroe.com` をポイントするように変更します)。既存のメールホストを新しいメールホストに置き換える場合は、この手順が必要です。

メッセージストアの移行が完了するまで、古いメールにはアクセスできないことと、一時的に空のメールボックスが表示されることをユーザに知らせます。さらに、メッセージストアの移行後は、新着メッセージ (iPlanet Messaging Server に新たに届いたメッセージ) と古いメッセージとが混在することも知らせます。

- e. `stored` を起動します。

```
instance_root/start stored
```

- f. `newmail.siroe.com` で完全な `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

これで、メッセージは `newmail.siroe.com` メッセージストアに配信されます。

- g. システムの新しいデフォルトのメッセージングサーバに iPlanet Messaging Server を設定します。

newmail.siroe.com (以前 oldmail.siroe.com によってホストされていたドメインを管理するサーバ) をポイントするように、oldmail.siroe.com の A レコードを変更します。

- h. 移行後、ドメインの mailhosts 属性と preferredmailhost 属性の属性値が oldmail.siroe.com ではなく、newmail.siroe.com に設定されていることを確認します。たとえば、preferredmailhost の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の ldapsearch コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldap.siroe.com -b "o=internet"
"(&(objectclass=maildomain)(preferredmailhost=oldmail.siroe.com))"
```

mailhosts の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の ldapsearch コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldap.siroe.com -b "o=internet"
"(&(objectclass=maildomain)(mailhosts=oldmail.siroe.com))"
```

10. メッセージサーバを起動します。

SIMS メッセージストアが iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行されるまで、古いメッセージにはアクセスできません。さらに、SIMS から移行された古いメッセージと、iPlanet Messaging Server メッセージストアに直接届いた新しいメッセージとが混在することになります。このため、受信順序が不正確になる場合があります。

次に、ほかのすべてのサーバプロセスを開始します。

```
instance_root/start-msg
```

この時点で、iPlanet Messaging Server は完全に機能します。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

11. SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに変換します。

これを行うには、`imsbackup` を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、`imsrestore` を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、`imsrestore` は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前 (小文字のみ) を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる) に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には `anderson` と `kolander` という 2 つのメッセージストアがあることとなります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、`imsrestore` とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。`filename` の内容は次のようになります。

```
anderson=Anderson
kolander=Kolander
```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

注 メールボックス名の文字で MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format、RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、`imsrestore` によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、`imsrestore` の `-n` オプションを使用します。

同じホストでアップグレードする場合は、`oldmail.siroe.com` で次のコマンドを実行します。

```
imsbackup -f- -u user_file | server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore
-f- -cy -n -v1
```

新しいホストにアップグレードする場合は、`newmail.siroe.com` で次のコマンドを実行します。

```
rsh ipaddress_of_oldmail.siroe.com /opt/SUNWmail/sbin/imsbackup -f- -u
user_file | server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore -f- -cy -n -v1
```

`user_file` はユーザメールボックスの名前が含まれているファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10 ~ 15 のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、新しいメッセージストアへのリストアの速度を最適化できます。

注 次のように fsync を無効にしないでください。
`configutil -o "local.store.synclevel" -v 0`

12. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

`server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci`

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

単一サーバの SIMS システムのアップグレード (メッセージストアの段階的移行方法)

メッセージストアの段階的移行方法を使用して、単一サーバの SIMS 電子メールシステムを単一サーバの iPlanet Messaging Server に移行する手順を説明します。

シナリオの前提

- iPlanet Messaging Server を新しいホストにインストールし、SIMS 4.0 の代わりに使用する (ハードウェアが余分に必要である)
- ディレクトリサーバは Netscape Directory Server 4.12 を使用する。SIMS と同じホストにあっても別のホストにあってもかまわない。iPlanet Messaging Server に新しいディレクトリサーバがインストールされるが、これにはサーバの構成データだけを置く。古いディレクトリ、つまり SIMS のディレクトリでは、アップグレードされた同一のユーザ、グループ、およびドメインのエントリで新しい iPlanet Messaging Server をサポートする
- ユーザメールボックスは、一度にすべてが移行されるのではなく、数回に分けて移行される。
- SIMS のユーザ/グループのディレクトリ接尾辞: `o=internet`
 SIMS のメールサーバ名: `oldmail.siroe.com`
 iPlanet Messaging Server のメールサーバ名: `newmail.siroe.com`
 マスターディレクトリサーバ: `ldap.siroe.com`
 ディレクトリサーバのバインドパスワード: `secret`
 SIMS のデフォルトの組織 DN: `dc=siroe,dc=com,o=internet`

移行手順

1. ディレクトリサーバのデータベースをバックアップします。
使用するコマンドは `DirServer_instance_root/bin/db2ldif` です。詳細は、次の Netscape Directory Server のマニュアルを参照してください。
<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/directory.html#dirserver41>
2. 複数スキーマのサポートを有効にします (SIMS/Netscape Messaging Server/iPlanet Messaging Server)。マージされたスキーマファイル (`merged.oc.conf` および `merged.at.conf`) を SIMS のディレクトリサーバ (マスターおよび複製) に追加します。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
3. iPlanet Messaging Server および付属のディレクトリサーバを `newmail.siroe.com` という新しいシステムにインストールして構成します。iPlanet Messaging Server のプロセスをすべて停止します。

インストール時には、既存の SIMS ディレクトリサーバをユーザ/グループ情報の保存先サーバに指定しないでください。これはあとで行います。この時点では iPlanet Messaging Server の構成データを保存するために新しいディレクトリサーバをインストールする必要があります。インストールに関する次の質問に「No」と答えます。

Do you want to use another directory to store your data?[No]:

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

```
instance_root/stop-msg
```

4. SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。
`local.ugldapbasedn = o=internet` (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)
`local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager"` (ディレクトリサーバのバインド DN)
`local.ugldapbindcred = secret` (ディレクトリサーバのバインドパスワード)
`local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet"` (デフォルトの組織 DN)
`local.ugldaphost = ldap.siroe.com` (LDAP サーバがあるホスト)
`local.ugldapport = 389`
5. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

6. SIMS のドメインエントリをアップグレードします。この手順では、iPlanet Messaging Server スキーマがサポートされるように、新しい属性でドメインエントリをアップグレードします。次のコマンドを使用します。

```
imsdirmig -h ldap.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D
"cn=Directory Manager" -w secret -m domains -A
mailroutinghosts:newmail.siroe.com -P
```

ここでは、ドメインエントリだけをアップグレードしています。ドメイン内のユーザエントリやメーリングリストエントリはアップグレードされません。これはあとで行います。

7. 複数スキーマの LDAP エントリをサポートできるように、iPlanet Messaging Server (newmail.siroe.com) の `dirsync` コマンドを設定します。

`configutil` を使用して、次の 3 つのパラメータを設定します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "sims40,ims50"
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v
"(|(objectClass=inetLocalMailRecipient)(|(objectClass=inetMailUser)(objectClass=inetMailGroup)))"
instance_root/configutil -o local.imta.sims_migrate -v True
```

8. `stored` を起動します。

```
instance_root/start stored
```

9. `newmail.siroe.com` で完全な `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

10. `newmail.siroe.com` のすべてのサーバプロセスを開始します。

```
instance_root/start-msg
```

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

11. oldmail.siroe.com で SIMS 4.0 のプロキシサーバを構成します。

この手順により、oldmail.siroe.com からの移行後に、ユーザ側で newmail.siroe.com をポイントするようにメールクライアントの設定を変更する手間が省けます。oldmail.siroe.com が IMAP/POP プロキシとして機能するように構成されると、受信クライアント接続は適切なメールサーバに対して行われます。

oldmail.siroe.com /etc/opt/SUNWmail/ims/ims.cnf にあるメッセージストアの設定ファイルを次のように変更します。

```
ims-proxy: on
```

このように変更すると、oldmail.siroe.com の IMAP/POP サーバはプロキシサーバとして機能する一方で、ローカルメールボックスにアクセスすることも可能になります。oldmail.siroe.com はプロキシサーバとメッセージストアサーバの両方として機能することになります。

IMAP/POP サーバを再起動します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/mt.scheduler stop  
/opt/SUNWmail/sbin/mt.scheduler start
```

12. oldmail.siroe.com から newmail.siroe.com に、ユーザの一部を移行します。

ユーザを小分けして新しいシステムに移行することにより、ユーザのダウンタイム (ユーザがメールボックスにアクセスできない時間) を最小限に抑えることができます。このプロセスの結果を確認できるように、まず少数のユーザを移行してみることをお勧めします。ユーザのまとまりごとに、次の手順を実行します。

- a. 移行するユーザのまとまりを選択します。移行中はメールにアクセスできないことをユーザに知らせます。
- b. これらのユーザ宛てのすべてのメッセージがユーザメールボックスではなく保留チャンネルに送信されるように指定し、ユーザメールボックスはロックして移行中は開けないようにします。次のコマンドを使用します。

```
imsdirmig -b "dc=siroe,dc=com,o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m users -F "(uid=s*)" -A  
mailDeliveryOption:hold¥;mailFolderMap:LOCK -O
```

上の例では、siroe.com 内で uid の値が「s」で始まるすべてのユーザエンタリについて、mailDeliveryOption と mailFolderMap の属性値が更新されます (RFC-1558 に従ってあらゆる LDAP フィルタを使用できます)。このコマンドでは、iPlanet Messaging Server スキーマをサポートするためのエンタリのアップグレードは行わないでください。これはあとの移行プロセスで行います。

このコマンドを実行すると、対象ユーザは自分のメールボックスにアクセスできなくなりますが、メールを送信することはできます。受信メールは保留チャンネルに保存され、この手順の最後にメールボックスに配信されます。

- c. oldmail.siroe.com と newmail.siroe.com の両方で増分 dirsync を実行して、前の手順で加えた変更を反映します。
- d. SIMS のユーザメッセージストアのまとまりを iPlanet Messaging Server のメッセージストアに変換して移動します。

これを行うには、imsbackup を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、imsrestore を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、imsrestore は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前 (小文字のみ) を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる) に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には anderson と kolander という 2 つのメッセージストアがあることとなります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、imsrestore とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。filename の内容は次のようになります。

```
anderson=Anderson
kolander=Kolander
```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

注 メールボックス名の文字で、MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format, RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、imsrestore によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、imsrestore の `-n` オプションを使用します。

iPlanet Messaging Server で次のコマンドを実行します。

```
rsh SIMS_host /opt/SUNWmail/ims/sbin/imsbackup -f- -u usernames_file
| server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore -f- -cy -n -v1
```

imbackup は SIMS ホストで実行されます。user_file は、ユーザメールボックス名を含むファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10～15 のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、リストアの速度を最適化できます。imsrestore は iPlanet Messaging Server ホストで実行されます。

- e. 新しい iPlanet Messaging Server をポイントするようにユーザエントリを変更し、ユーザエントリに mailDeliveryOption:mailbox および mailhost:newmail.siroe.com と設定することによってメールボックスに対する保留を解除します。次のように、imsdirmig を -O および -A オプションとともに使用します。

```
imsdirmig -b "dc=siroe,dc=com,o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m users -F "(uid=s*)" -O -A  
mailDeliveryOption:mailbox¥;mailhost:newmail.siroe.com
```

これで、移行済みユーザがメールボックスにアクセスできるようになります。

- f. newmail.siroe.com と oldmail.siroe.com で完全な dirsync を実行します。

これで、移行済みユーザ宛てのメッセージは、oldmail.siroe.com の MTA により、newmail.siroe.com のメッセージストアに配信されます。

- g. oldmail.siroe.com と newmail.siroe.com の保留キューを空にし、メールボックスを移行している間にシステムに届いたメッセージをすべて新しいサーバ、newmail.siroe.com にリダイレクトします。

oldmail.siroe.com で次のコマンドを実行します。

```
/opt/SUNWmail/imta/sbin/hold_master -u uid -d domain
```

-u は受取人の名前を指定し、-d はそのユーザが所属するドメインを指定します。

13. ユーザ/グループの次のまとめりについて、前の手順を繰り返します。前の手順を参照してください。
14. グループエントリの場合は、mailhost 属性を新しい iPlanet Messaging Server ホストの完全指定名 (newmail.siroe.com など) に変更します。変更しないと、ローカルに配信しようとしたメールが SIMS サーバに差し戻されます。

```
imsdirmig -b "dc=siroe,dc=com,o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m groups -F  
"(objectclass=inetmailgroup)" -O -A mailhost:newmail.siroe.com
```

これにより、すべてのグループの LDAP エントリがアップグレードされます。

15. システムの新しいデフォルトのメッセージングサーバに iPlanet Messaging Server を設定します。

oldmail.siroe.com の DNS レコードを newmail.siroe.com をポイントする CNAME または A レコードに変更します。

16. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```

この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

17. 古いホストの使用を停止します。
18. すべてのユーザを移行したら、`imsdirmig` を使用して、すべてのユーザ/グループのディレクトリエントリを iPlanet Messaging Server スキーマにアップグレードします。`imsdirmig` は次のように実行します。

```
imsdirmig -b "o=internet" -M sims -D "cn=Directory Manager" -w secret -m both
```

19. 複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

20. 移行後、ドメインの `mailhosts` 属性と `preferredmailhost` 属性の属性値が `oldmail.siroe.com` ではなく、`newmail.siroe.com` に設定されていることを確認します。たとえば、`preferredmailhost` の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の `ldapsearch` コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldap.siroe.com -b "o=internet"  
"(&(objectclass=maildomain) (preferredmailhost=oldmail.siroe.com))"
```

`mailhosts` の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の `ldapsearch` コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldap.siroe.com -b "o=internet"  
"(&(objectclass=maildomain) (mailhosts=oldmail.siroe.com))"
```

21. `newmail.siroe.com` で増分 `dirsync` を実行します。

22. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

SIMS の段階的移行に関する補足

メッセージストアの設定を次に示すように変更すると、ユーザの最初のまとまりに関して、メールボックスの移行パフォーマンスを向上させることができます。ただし、この設定のまま実際のメッセージングサーバを稼働させるのは安全ではありません。ユーザメールボックスの最初のまとまりを SIMS サーバから iPlanet Messaging Server に移行したら、設定の変更を元に戻すことをお勧めします。

メールボックスの移行を最適化するには、次の手順を実行します。

1. 手順 12 の手順 c のあと、メッセージングサーバを停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

2. 同期レベルを 0 に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
```

3. store デーモンを起動します。

```
instance_root/start store
```

4. 手順 12 の手順 d に戻ります。

5. メールボックスの最初のまとまりを移行したら、同期レベルをリセットします。

```
configutil -o "local.store.synclevel" -v -1
```

6. メッセージングサーバのプロセスを再起動します。

```
instance_root/start-msg
```

単一サーバの Netscape Messaging Server システムからの移行

余分なハードウェアを使わずに、単一サーバの Netscape Messaging Server 電子メールシステムを単一サーバの iPlanet Messaging Server に移行する手順を説明します。

シナリオの前提

- 同じサーバで Netscape Messaging Server 4.x を iPlanet Messaging Server に置き換える
- ユーザおよびグループの UID の形式は、*LocalPart* (ofanning、wallyc など)、または *LocalPart@FQDN* (wallyc@varrius.org、ofanning@siroe.com など) である。別の形式の UID を使用している場合は、ネームスペースに関する制限やその回避策について、17 ページの「Netscape Messaging Server 4.x のディレクトリネームスペースに関する制限事項」を参照
- ユーザのダウンタイムを最小限に抑える
- ディレクトリサーバは Netscape Directory Server 4.12 を使用する。Netscape Messaging Server と同じホストにあっても別のホストにあってもかまわない。iPlanet Messaging Server に新しいディレクトリサーバがインストールされるが、これにはサーバの構成データだけを置く。古いディレクトリ、つまり Netscape Messaging Server のディレクトリでは、アップグレードされた同一のユーザ、グループ、およびドメインのエントリで新しい iPlanet Messaging Server をサポートする
- iPlanet Messaging Server のユーザ/グループのディレクトリ接尾辞: o=siroe.com (既存のユーザ/グループのベース接尾辞)
 マスターディレクトリサーバ: ldap.siroe.com
 ディレクトリサーバのバインド DN: cn=Directory Manager
 ディレクトリサーバのバインドパスワード: secret
 Netscape Messaging Server のユーザ/グループのベース DN: o=siroe.com
 iPlanet Messaging Server のデフォルトの組織 DN: o=siroe.com
 ディレクトリサーバのネットワークポート: 389
 iPlanet Messaging Server のサーバユーザ: mailsrv

UNIX における Netscape Messaging Server 移行手順

移行する前に、メッセージストアをバックアップしておくことを強くお勧めします。

1. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、SMTP ポート番号を変更し、SMTP サーバを再起動する方法があります。このようにすると、サーバではキューのメッセージを引き続き処理しますが、標準の SMTP ポートではメッセージを受け付けなくなります。

```
instance_root/configutil -o service.smtp.port -v 901
instance_root/stop-msg smtp
instance_root/start-msg smtp
```

キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/bin/mailq
```

2. 複数スキーマのサポートを有効にします (SIMS/Netscape Messaging Server/iPlanet Messaging Server)。マージされたスキーマファイル (merged.oc.conf および merged.at.conf) をディレクトリサーバに追加します。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
3. Netscape Messaging Server の LDAP サーバに対して perl ims_dssetup.pl を実行し、スキーマを更新しないことを選択します。

詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

4. Netscape Messaging Server 4.x を停止します。ディレクトリサーバは停止しないでください。
5. iPlanet Messaging Server に、Netscape Messaging Server のバニティドメインを再実装します。

『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

6. Netscape Messaging Server のディレクトリサーバを再起動します。

```
instance_root/restart-slapd
```

7. 新しいサーバルートディレクトリに iPlanet Messaging Server をインストールします。次に示す例外を除き、デフォルトのインストールオプションを使用できます。

- a. 構成情報を置くために新しいディレクトリサーバをインストールします。ただし、ユーザ/グループデータに関しては既存の Netscape Messaging Server のディレクトリサーバをポイントするように新しいメッセージングシステムを設定します。

画面に次のメッセージが表示された場合は、デフォルト (No) を使用します。

```
Do you want to register this software with an existing netscape configuration
directory server? [No]:
```

次のメッセージが表示された場合は、デフォルトを使用せずに Yes と入力してから、適切なディレクトリ情報を入力します。

```
Do you want to use another directory to store your data? [No]:Yes
```

- b. 次のメッセージが表示されます。

Default Organization DN [o=siroe.com,o=Old_Dir_Root]:

デフォルト値 (o=siroe.com,o=Old_Dir_Root) を使用します。これは、Netscape Messaging Server のユーザエントリの場所ではありません。この時点では、エントリは現在のネームスペースにあります。

8. サーバプロセスをすべて停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

9. 既存の Netscape Messaging Server のディレクトリのネームスペースを iPlanet Messaging Server のディレクトリのネームスペースにマップまたは変更します。

122 ページの「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

10. デフォルトの組織ツリーを設定します。

- a. configutil を使用して local.ugldapdeforgdn を o=siroe.com に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.ugldapdeforgdn" -v  
"o=siroe.com"
```

o=siroe.com は、デフォルトドメインに対応する組織ツリーの DN です。

- b. configutil を使用して local.service.pab.migrate415 を 1 に設定します。

```
./configutil -o local.service.pab.migrate415 -v 1
```

11. Netscape Messaging Server メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行します。

次の手順に従って、プライマリストアパーティションのパスが Netscape Messaging Server 4.x のメッセージストアパスをポイントするように変更します。

- a. iPlanet Messaging Server Administration Console を使用して、Netscape Messaging Server 4.x のすべてのメールストアパーティションをポイントするように、メッセージストアの設定を変更します (『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照)。

注 メッセージストアディレクトリは、メッセージストアのデータが置かれている場所なので、Netscape Messaging Server 4.x を削除するときにメッセージストアディレクトリを削除しないでください。

- b. ユーザの講読ディレクトリを削除します。

```
rmdir iMS_server_root/msg-instance/store/user/
```

- c. Netscape Messaging Server ユーザの講読フォルダへのシンボリックリンクを設定します。

```
ln -s NMS_Server_Root/msg-instance/store/user/  
iMS_server_root/msg-instance/store/user/
```

- d. mboxlist ファイルをコピーします。

```
cp NMS_Server_Root/msg-instance/store/mboxlist/data.db2  
iMS_server_root/msg-instance/store/mboxlist/folder.db
```

- e. quota ファイルをコピーします。

```
cp NMS_server_root/msg-instance/store/quota.db2  
iMS_server_root/msg-instance/mboxlist/quota.db
```

- f. ファイルがメールサーバユーザによって所有されていることを確認します。たとえば、次のように入力します。

```
chown mailsrv iMS_server_root/msg-instance/store/mboxlist/*
```

- g. ほかのファイルはコピーしないでください。

12. 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように dirsync を構成します。これには、configutil を使用して次の 2 つのパラメータを追加します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "ims50,nms41"  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v  
"(|(objectClass=inetLocalMailRecipient)|(objectClass=mailRecipient)(objectclass=mailGroup)))"
```

13. stored を起動します。

```
instance_root/start stored
```

14. 完全な dirsync を実行し、ユーザおよびグループのエントリを取り込みます。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

15. iPlanet Messaging Server を再起動します。これで、Netscape Messaging Server 4.x のユーザメールボックスを表示できます。

メールサーバは使用可能になっています。この時点では、複数スキーマのサポートにより、iPlanet Messaging Server は ldap.siroe.com の古いディレクトリエントリを使って機能しています。新しいユーザおよびグループのエントリは、新しいディレクトリノードに作成されます。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

16. 新しい機能を使用できるように、制限容量データベースをアップグレードします。
メールサーバユーザとして次を実行します。

```
su mailsrv
cd iMS_server_root/bin/msg/admin/bin
setenv CONFIGROOT iMS_server_root/msg-instance/config
./reconstruct -q
exit
```

17. 新しいサーバが起動したら、`imsdirmig` を使用して、ユーザおよびグループのディレクトリエントリを iPlanet Messaging Server スキーマにアップグレードします。

```
imsdirmig -b "o=siroe.com" -M nms -D "cn=Directory Manager" -F
"(! (cn=postmaster))" -w secret -m both
```

`-F "(! (cn=postmaster))"` は、移行プロセスからポストマスターエントリを除外するフィルタです。このようなフィルタが指定されていない場合、`imsdirmig` はエントリの処理に失敗し、エラーのために終了します (`-c` を指定して、エラー発生後も `imsdirmig` の処理を続行することもできます)。

18. 複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の2つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

19. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

Windows NT における Netscape Messaging Server 移行手順

移行する前に、メッセージストアをバックアップしておくことを強くお勧めします。

1. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、SMTP ポート番号を変更し、SMTP サーバを再起動する方法があります。このようにすると、サーバではキューのメッセージを引き続き処理しますが、標準の SMTP ポートではメッセージを受け付けなくなります。

```
instance_root%configutil -o service.smtp.port -v 901
instance_root%stop-msg smtp
instance_root%start-msg smtp
```

キューが空になるのを待ちます。

2. Netscape Messaging Server の LDAP サーバに対し perl ims_dssetup.pl を実行します。ims_dssetup.pl によってディレクトリサーバスキーマのアップデートを求めるメッセージが表示されたら、スキーマのアップデートを選択します。
3. 複数スキーマのサポートを有効にします (SIMS/Netscape Messaging Server/iPlanet Messaging Server)。マージされたスキーマファイル (merged.oc.conf および merged.at.conf) をディレクトリサーバに追加します。『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の付録 B 「複数スキーマのサポート」を参照してください。また、以前の手順で追加したスキーマファイル、um50-common-schema.conf および ims50-schema.conf に対する include 指示をすべてコメントアウトします。キーワードの前に # を付加し、その手順の説明に従います。

詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

4. Netscape Messenger Server だけをアンインストールします。ユーザのメールストアは保存することを選択します。Directory Server はアンインストールしません。
5. ユーザのメールストアが置かれている msg-instance ディレクトリの名前をほかの名前 (「mailstore」 など) に変更します。
6. iPlanet Messaging Server に、Netscape Messaging Server のバニティドメインを再実装します。
7. Netscape Messaging Server と同じサーバディレクトリに iPlanet Messaging Server をインストールします。Directory Server はインストールしないことを選択します。Default Organization DN [o=siroe.com,o=OldDirRoot] というメッセージが表示されたら、デフォルト値 (o=siroe.com,o=OldDirRoot) を使用します。これは、Netscape Messaging Server のユーザエントリの場所ではありません。この時点では、エントリは現在のネームスペースにあります。
8. サーバプロセスをすべて停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

9. 既存の Netscape Messaging Server のディレクトリのネームスペースを iPlanet Messaging Server のディレクトリのネームスペースにマップまたは変更します。

『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の付録 B の「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

10. デフォルトの組織ツリーを設定します。

`configutil` を使用して `local.ugldapdeforgdn` を `o=sesta.com` に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.ugldapdeforgdn" -v "o=sesta.com"
```

`o=sesta.com` は、デフォルトドメインに対応する組織ツリーの DN です。

11. Netscape Messaging Server メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行します。

次の手順に従って、プライマリストアパーティションのパスが Netscape Messaging Server 4.x のメッセージストアパスをポイントするように変更します。

- a. iPlanet Messaging Server Administration Console を使用して、Netscape Messaging Server 4.x のすべてのメールストアパーティションをポイントするようにメッセージストアの設定を変更します (*mailstore* は手順 5 で使用した例)。
- b. ユーザの講読ディレクトリを削除します。
- c. 次に示すように、Netscape Messaging Server メッセージストアをコピーします。

```
NMS_server_root/mailstore/store/user/
```

から

```
iMS_server_root/msg-instance/store/user/
```

(*mailstore* は手順 5 で使用した例)

- d. `mboxlist` ファイルをコピーします。

```
NMS_server_root/mailstore/store/mboxlist/data.db2
```

から

```
iMS_server_root/msg-instance/store/mboxlist/folder.db
```

- e. `quota` ファイルをコピーします。

```
NMS_server_root/mailstore/store/quota.db2
```

から

```
iMS_server_root/msg-instance/mboxlist/quota.db
```

- f. ほかのファイルはコピーしないでください。

- 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように `dirsync` を構成します。これには、`configutil` を使用して次の2つのパラメータを追加します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag
                        -v "ims50,nms41"
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter
                        -v (|(objectClass=inetLocalMailRecipient)
                           |(objectClass=mailRecipient) (objectclass=mailGroup)))
```

- `stored` を起動します。

```
instance_root/start stored
```

- 完全な `dirsync` を実行し、ユーザおよびグループのエントリを取り込みます。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

- iPlanet Messaging Server を再起動します。これで、Netscape Messaging Server 4.x のユーザメールボックスを表示できます。

メールサーバは使用可能になっています。この時点では、複数スキーマのサポートにより、iPlanet Messaging Server は `ldap.sesta.com` の古いディレクトリエントリを使って機能しています。新しいユーザおよびグループのエントリは、新しいディレクトリノードに作成されます。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の第1章「Netscape Messaging Server 4.x との相違点」の「SMTP リレー機能」を参照してください。

- 新しい機能を使用できるように、制限容量データベースをアップグレードします。メールサーバユーザとして次を実行します。

```
cd iMS_server_root/bin/msg/admin/bin
reconstruct -q
```

- 新しいサーバが起動したら、`imsdirmig` を使用して、ユーザおよびグループのディレクトリエントリを iPlanet Messaging Server スキーマにアップグレードします。

```
imsdirmig -b "o=sesta.com" -M nms -D "cn=Directory Manager" -w
secret -m both -F "(!(cn=postmaster))"
```

- 複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の2つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```


複数サーバシステムの iPlanet Messaging Server への移行に関するシナリオおよび手順

この章では、SIMS 4.0 または Netscape Messaging Server 4.x の複数サーバシステムから iPlanet Messaging Server システムに移行するための手順を説明します。ここでは SIMS 4.0 および Netscape Messaging Server 4.x のさまざまな導入に対応する 5 つのシナリオを示します。ただし、導入はそれぞれ異なっており、個別の状況に応じてこれらの手順を変更する必要もあることに留意してください。

注 このマニュアル全体に目を通し、実施する移行のあらゆる側面について十分に理解してください。移行の手順が理解できたら、ディレクトリおよびメッセージストアのデータをすべてバックアップし、少人数のユーザについて移行を試してから、システム全体の移行を実施します。

この章には、以下の節があります。

- 66 ページの「複数サーバの移行の概要」
- 69 ページの「構成サーバのインストール」
- 70 ページの「SIMS の複数サーバ導入からの移行」
 - 71 ページの「SIMS のドメインエントリから iPlanet Messaging Server のドメインエントリへのアップグレード」
 - 71 ページの「SIMS の SMTP リレーサーバのアップグレード」
 - 74 ページの「SIMS の POP/IMAP プロキシサーバのアップグレード」
 - 74 ページの「SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オフライン移行)」
 - 79 ページの「SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オンライン移行)」

- 90 ページの「SIMS メッセージストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (段階的移行)」
- 97 ページの「Netscape Messaging Server の複数サーバ導入のアップグレード」
 - 98 ページの「必要な名前付きコンテキストの追加」
 - 99 ページの「Netscape Messaging Server の SMTP リレーサーバのアップグレード」
 - 103 ページの「Netscape Messaging Server の MMP サーバのアップグレード」
 - 103 ページの「Netscape Messaging Server のバックエンドメッセージストアの移行」

複数サーバの移行の概要

複数サーバ導入を移行する場合の基本的な手順を次に示します。

1. 構成サーバをインストールします。
2. 一番外側のサーバ群 (SMTP リレーサーバおよびメッセージアクセスプロキシ) を移行します。
3. バックエンドのメッセージストアサーバを移行します。

複数サーバの移行シナリオにおけるトポロジ

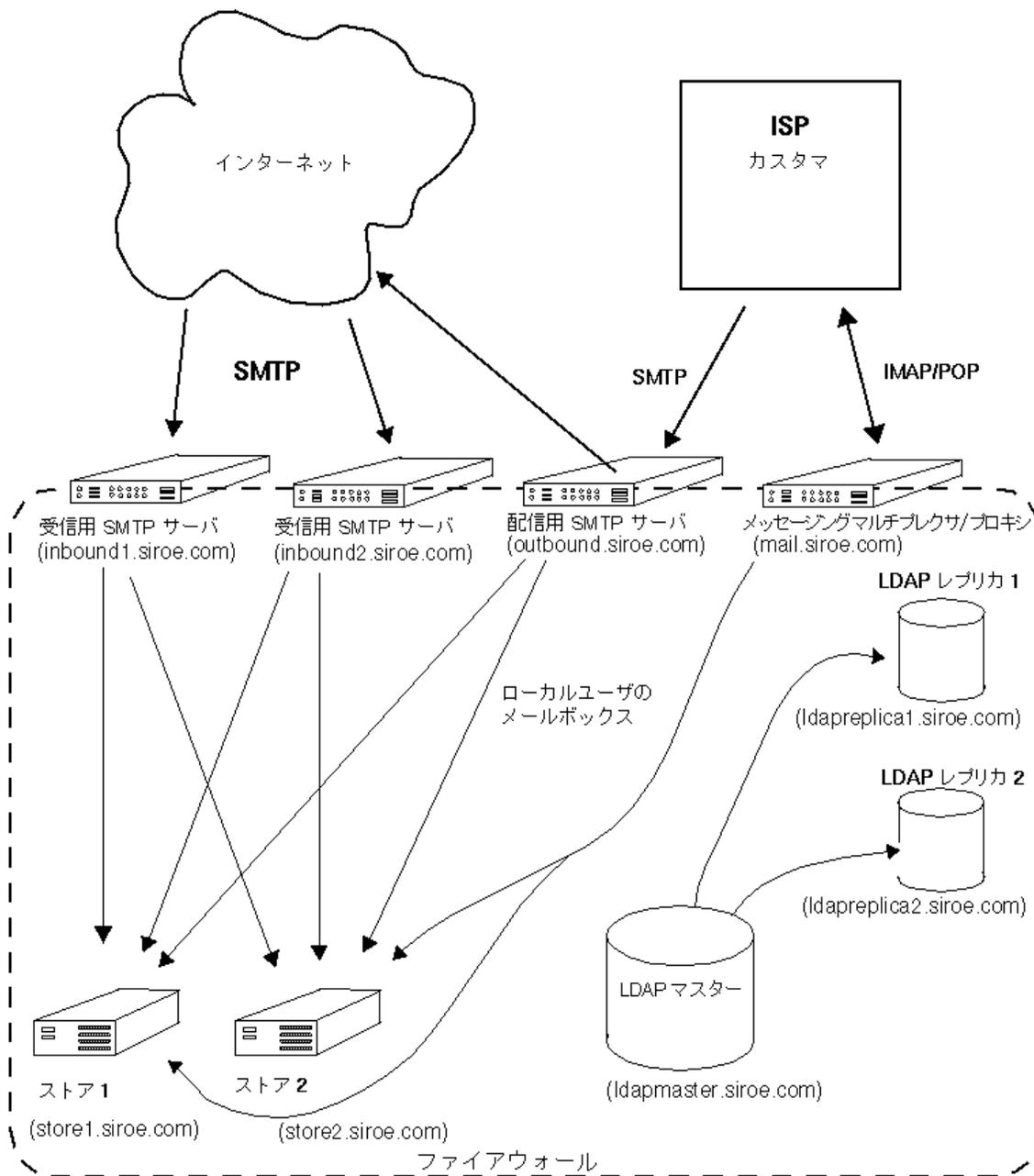
この節のシナリオは、68 ページの図 4-1 に示すサーバ導入に関するものです。次のことを前提としています。

- 現在のシステムが SIMS 4.0 または Netscape Messaging Server 4.15 である
- サーバの内訳は次のようになっている
 - 受信用 SMTP サーバが 2 つ: inbound1.siroe.com と inbound2.siroe.com
 - 送信用 SMTP リレーサーバが 1 つ: outbound.siroe.com
 - Messaging Multiplexor (MMP)/ プロキシが 1 つ: mail.siroe.com
 - バックエンド (メッセージストア) サーバが 2 つ: store1.siroe.com と store2.siroe.com
 - ユーザ / グループデータおよび iPlanet Messaging Server の構成情報用の LDAP マスターが 1 つ: ldapmaster.siroe.com (ユーザ / グループサーバはポート 389、構成サーバはポート 390)

- LDAP の複製が 2 つ: ldapreplica1.siroe.com と ldapreplica2.siroe.com

注 ディレクトリサーバに変更を加える前に、LDAP データベースをバックアップすることを強くお勧めします。

図 4-1 複数サーバのサンプルシナリオ



構成サーバのインストール

構成サーバは、iPlanet Messaging Server の構成データを含む LDAP サーバです。SIMS では構成データは設定ファイルに保存するので、この点は異なることになります。

通常、導入ごとに必要な構成サーバは 1 つだけです。すでに構成サーバを使用している Netscape Messaging Server 導入の場合は、そのサーバのマシンを使用することはできませんが、ディレクトリサーバを新しくインストールし、それを新しい構成サーバとして使用する必要があります。

SIMS の場合は、ディレクトリサーバをインストールして構成サーバとして使用するマシンを選びます。以下の例では、ユーザ/グループエントリを含む LDAP サーバ (ldapmaster.siroe.com) の置かれているマシンに、新しい構成サーバも置きます。ldapmaster.siroe.com は、ユーザ/グループエントリおよび iPlanet Messaging Server 構成データの LDAP サーバをホストします。

1. iPlanet Messaging Server の CD から、ディレクトリサーバだけをインストールします。

インストールでは、ディレクトリサーバだけのインストールを選択できます。『インストールガイド』を参照してください。次のメッセージが表示されたら、「1, 2, 3」と入力します。

Sun-Netscape Alliance
iPlanet Server Products Installation/Uninstallation

iPlanet Server Products components:
Components with a number in () contain additional subcomponents
which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1, 2, 3

既存のユーザ/グループディレクトリがポート 389 を使用しているため、390 などの未使用のポートを使用します。

2. ims_dssetup.pl を実行し、あとで iPlanet Messaging Server で使用できるようにディレクトリサーバを準備します。詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。
3. (Netscape Messaging Server 導入時のみ) 新しくインストールした構成サーバで、デフォルトのユーザ/グループサーバを変更します。
 - a. 構成サーバのサーバルートから startconsole を実行します。

- b. 「Administration Server」をダブルクリックし、Administration Server Console を起動します。
- c. Administration Server Console の「環境設定」タブを選択し、「ユーザ DS」タブを選択します。
- d. 「ユーザディレクトリの設定」ラジオボタンを選択します。ユーザ/グループディレクトリの「LDAP ホストおよびポート」(例: ldapmaster.siroe.com:389) と「ユーザディレクトリサブツリー」(例: o=siroe.com)に入力します。「保存」をクリックします。

SIMS の複数サーバ導入からの移行

ここでは、SIMS の複数サーバ導入から iPlanet Messaging Server 導入に移行する方法を説明します。基本的な手順は次のようになります。

- 69 ページの「構成サーバのインストール」
- 71 ページの「SIMS のドメインエントリから iPlanet Messaging Server のドメインエントリへのアップグレード」
- 71 ページの「SIMS の SMTP リレーサーバのアップグレード」
- 74 ページの「SIMS の POP/IMAP プロキシサーバのアップグレード」
- バックエンドメッセージストアのアップグレード。これには 3 つの方法があり、それぞれを次の節で説明します。
 - 74 ページの「SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オフライン移行)」
 - 79 ページの「SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オンライン移行)」
 - 90 ページの「SIMS メッセージストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (段階的移行)」

各移行方法の長所と短所については、30 ページの「SIMS メッセージストアの移行方法の選択」を参照してください。

SIMS のドメインエントリから iPlanet Messaging Server のドメインエントリへのアップグレード

SIMS の移行を行う前に、SIMS のすべてのドメインエントリを iPlanet Messaging Server のドメインエントリにアップグレードする必要があります。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D
"cn=Directory Manager" -w secret -m domains
```

この場合、o=internet の下のすべてのドメインがアップグレードされます。

SIMS の SMTP リレーサーバのアップグレード

次の手順は、SIMS の受信用および送信用 SMTP サーバに対するものです。

1. SMTP またはメールマルチプレクサ (SIMS ではプロキシサーバと呼ばれる) をアップグレードする前に、まずマージされたスキーマファイル (merged.oc.conf と merged.at.conf) をディレクトリサーバに追加する必要があります。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
2. SIMS の SMTP サーバ (inbound1.siroe.com) を停止します。この間、受信メッセージは 2 つ目の受信用 SMTP サーバ (inbound2.siroe.com) で処理されます。
サーバがロードバランサの後ろに置かれている場合は、受信接続を inbound1.siroe.com にリダイレクトしないようにロードバランサの構成が修正されていることを確認します。負荷分散にラウンドロビン DNS を使用している場合は、オフラインにするサーバの DNS エントリを削除します。
3. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```

この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

4. iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。

ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

`ldap://<hostname>:<port>`

URL of Directory Server

`[ldap://inbound1.siroe.com:389]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390`

5. インストールが終了したら、新しくインストールした iPlanet Messaging Server が SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように設定します。configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。

`local.ugldapbasedn = o=internet` (SIMS でユーザを保存するために使用していた接尾辞)

`local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager"` (ディレクトリサーバのバインド DN)

`local.ugldapbindcred = secret` (ディレクトリサーバのバインドパスワード)

`local.ugldaphost = ldapreplica1.siroe.com` (LDAP サーバの場所)

`local.ugldapport = 389`

6. 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように dirsync を構成します。これには、configutil を使用して次の 2 つのパラメータを追加します。

`instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "ims50,sims40"`

`instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v`

`(| (objectClass=inetLocalMailRecipient) (| (objectClass=inetMailUser) (objectClass=inetmailGroup)))`

7. SIMS の SMTP リレーサーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。このようにすると、ユーザは既存のログイン区切り文字を使用して SMTP AUTH を実行できます。

次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

8. 送信用 SMTP サーバの場合は、サイトのポリシーに従って SMTP リレーを有効にします。
- a. クラス C ネットワークのすべてのノードがこのサーバを通してリレーできるようにするには、`server_root/msg-instance/imta/config` の下にある `mappings` ファイルを編集して、「* \$N」を「* \$Y」に変更します。

```
+++++
INTERNAL_IP

    $(192.18.74.57/24)    $Y
    127.0.0.1            $Y
    *                    $Y
+++++
```

- b. 次に、`imsimta cnbuild` コマンドを実行します。この時点で、リレーサーバは完全に機能します。
- c. `stored` を起動します。

```
instance_root/start stored
```

- d. 完全な `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

- e. SMTP サーバを起動します。

```
instance_root/start-msg smtp
```

SMTP リレーの有効化の詳細は、21 ページの「SMTP リレーの追加」を参照してください。

9. この手順の最初の方 (手順 2) で負荷分散の設定を変更した場合は、必要に応じて設定を変更し直します。
10. ほかの SMTP 受信用および送信用リレーサーバをアップグレードします。

SIMS の POP/IMAP プロキシサーバのアップグレード

SIMS プロキシサーバを iPlanet Messaging Server の MMP にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. SMTP またはメールマルチプレクサ (SIMS ではプロキシサーバと呼ばれる) をアップグレードする前に、マージされたスキーマファイル (merged.oc.conf と merged.at.conf) をディレクトリサーバに追加する必要があります。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
2. SIMS プロキシサーバを停止します。
3. iPlanet Messaging Server の MMP をインストールします。『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。インストール時に入力を要求するメッセージが表示されたら、SIMS のユーザ/グループの LDAP サーバの名前を入力します。

```
Please enter the LDAP URL to the domain component tree
[ldap://siroe.com:389/o=internet]:ldap://ldapmaster.siroe.com:389/o=internet
```

4. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合は、ImapProxyAService.cfg と PopProxyAService.cfg の両方で次の設定パラメータを変更し、iPlanet Messaging Server のデフォルトのログイン区切りである「@」を変更します。

```
#
# list of valid delimiters
#
default:VirtualDomainDelim +@

#
# canonical delimiter
#
default:CanonicalVirtualDomainDelim +
```

SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オフライン移行)

SIMS のバックエンドメッセージングサーバを移行する前に、すべてのメッセージアクセスプロキシと SMTP リレーサーバがアップグレードされていることを確認します。オンライン移行の長所と短所については、30 ページの「メッセージストアのオフライン移行」を参照してください。

前提

- 同じホストで SIMS 4.0 を iPlanet Messaging Server に置き換える
- iPlanet Messaging Server では既存のユーザ/グループディレクトリサーバと Configuration Directory Server を使用する
- メッセージストアの移行中はメールサービスを利用できない (メールへのアクセスはできないが、受信メッセージは受信用 SMTP サーバに保存される)
- Netscape Directory Server 4.12 を使用する
- SIMS のユーザ/グループのディレクトリ接尾辞: o=internet
SIMS と iPlanet Messaging Server のバックエンドサーバ名: store1.siroe.com
マスターディレクトリサーバ: ldapmaster.siroe.com
マスターディレクトリサーバのネットワークポート: 389
Configuration Directory Server: ldapmaster.siroe.com
Configuration Directory Server のネットワークポート: 390
ディレクトリサーバのバインドパスワード: secret
SIMS のデフォルトの組織 DN: dc=siroe,dc=com,o=internet
ユーザ/グループエントリは DC ツリー内に含まれる (DIT は 1 つ)

移行手順

1. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```

この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

2. /opt/SUNWmail/sbin/im.server stop を使用して SIMS を停止します。

SIMS のすべてのプロセスが停止したことを確認します。この間、ユーザは自分のメールボックスにアクセスできません。送信用 SMTP サーバ outbound.siroe.com を通してメールを送信することはできます。

3. メッセージストアの 2.5 倍のサイズのディスク容量がない場合は、SIMS の `imbackup` コマンドを使用して、別のデバイス (テープドライブなど) に SIMS メッセージストアのバックアップを作成します。この SIMS メッセージストアのバックアップは、あとで iPlanet Messaging Server メッセージストアに移動します。

`imbackup` コマンドを使用してテープにバックアップを作成する場合の例を次に示します。

```
imbackup -f /dev/rmt/0
```

ディスク容量を余分に確保できる場合は、あとで説明するように、SIMS メッセージストアをそのままにしてデータを `imbackup` から `imsrestore` に直接ストリーミングすると、ダウンタイムを最小限に抑えることができます。

4. iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。

ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

```
ldap://<hostname>:<port>
```

URL of Directory Server [ldap://store1.siroe.com:389/]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390

5. サーバプロセスをすべて停止します。

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

```
instance_root/stop-msg
```

6. SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。

`configutil` を使用して、次の設定パラメータを変更します。

```

local.ugldapbasedn = o=internet (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)
local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager" (ディレクトリサーバのバインド DN)
local.ugldapbindcred = secret (ディレクトリサーバのバインドパスワード)
local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet" (デフォルトの組織 DN)
local.ugldaphost = ldapreplica1.siroe.com (LDAP の複製があるホスト)
local.ugldapport = 389

```

7. SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに変換します。

これを行うには、`imsbackup` を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、`imsrestore` を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、`imsrestore` は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前 (小文字のみ) を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる) に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には `anderson` と `kolander` という 2 つのメッセージストアがあることとなります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、`imsrestore` とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。 `filename` の内容は次のようになります。

```

anderson=Anderson
kolander=Kolander

```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

- a. テープに SIMS メッセージストアのバックアップを作成した場合は (手順 3 を参照)、次のコマンドを使用してそれを iPlanet Messaging Server にリストアします。

注 メールボックス名の文字で、MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format、RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、`imsrestore` によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、`imsrestore` の `-n` オプションを使用します。

```

configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
instance_root/start-msg store
imsrestore -f /dev/rmt/0 -cy -n -v1

```

- b. ディスク容量を余分に確保できる場合は、次のコマンドを使用して SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに直接変換できます。

```
configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
instance_root/start-msg store
imbackup -f- -u user_file | server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore
-f- -cy -n -v1
```

user_file はユーザメールボックスの名前が含まれているファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10～15 のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、新しいメッセージストアへのリストアの速度を最適化できます。

8. リストアが完了したら、設定パラメータ `local.store.synclevel` を元に戻します。

```
configutil -o local.store.synclevel -v -1
```

9. store を停止します。

```
instance_root/stop-msg store
```

10. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

11. stored を起動します。

```
instance_root/start stored
```

12. 完全な `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

13. メッセージサーバを起動します。

```
instance_root/start-msg
```

この時点で、バックエンドサーバは完全に機能します。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

14. 次のバックエンドサーバを移行します。

手順 1 に戻り、残りのバックエンドサーバについてもこれまでの手順を繰り返します。

15. すべてのバックエンドサーバの移行が完了したら、次の手順を実行します。

- a. iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ユーザとグループのエントリをアップグレードします。

次に示すように、`imsdirmig` を使用します。

```
imsdirmig -b "o=internet" -M sims -F
"(mailhost=store1.siroe.com)" -D "cn=Directory Manager" -w
secret -m both
```

この場合、`o=internet` の下のすべてのユーザ / グループエントリがアップグレードされます。

- b. すべての SMTP サーバ (バックエンドのメッセージストアサーバ、SMTP リレーサーバなど) で複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

- c. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

SIMS のバックエンドメールストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (オンライン移行)

バックエンドメッセージングサーバを移行する前に、すべてのメッセージアクセスプロキシと SMTP リレーサーバがアップグレードされていることを確認します。オンライン移行の長所と短所については、31 ページの「メッセージストアのオンライン移行」を参照してください。移行プロセスは、余分なハードウェアの有無によって異なる

ります。ハードウェアが余分ない場合は、81 ページの「複数サーバのオンライン移行手順 (余分なハードウェアがない場合)」を参照してください。ハードウェアが余分にある場合は、85 ページの「複数サーバのオンライン移行手順 (余分なハードウェアがある場合)」を参照してください。

前提

- iPlanet Messaging Server は、同じホストの SIMS 4.0 と置き換えるか、または新しいホストにインストールする
- iPlanet Messaging Server では既存のユーザ / グループディレクトリサーバと Configuration Directory Server を使用する
- ディレクトリサーバは Netscape Directory Server 4.12 を使用する。SIMS と同じホストにあっても別のホストにあってもかまわない。iPlanet Messaging Server の構成データを置くための新しいディレクトリサーバがすでにインストールされている (69 ページの「構成サーバのインストール」を参照)。古いディレクトリ、つまり SIMS のディレクトリでは、アップグレードされた同一のユーザ、グループ、およびドメインのエントリで新しい iPlanet Messaging Server をサポートする
- サーバがアクティブでオンライン状態にあるときに、SIMS メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行する。移行されたメッセージと、移行プロセス中に届いた新しいメッセージとが混在することになる
- システムを新しいホストにインストールする場合は、次の例に示すような前提が適用される。

前提

SIMS のユーザ / グループのディレクトリ接尾辞: o=internet

SIMS のメールサーバ名: store1.siroe.com

iPlanet Messaging Server のメールサーバ名: store1.siroe.com (同じホストの場合) または newstore1.siroe.com (新しいホストの場合)

マスターディレクトリサーバ: ldapmaster.siroe.com

マスターディレクトリサーバのネットワークポート: 389

Configuration Directory Server: ldapmaster.siroe.com

Configuration Directory Server のネットワークポート: 390

ディレクトリサーバのバインドパスワード: secret

SIMS のデフォルトの組織 DN: dc=siroe,dc=com,o=internet

複数サーバのオンライン移行手順 (余分なハードウェアがない場合)

1. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```

この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

2. /opt/SUNWmail/sbin/im.server stop を使用して SIMS を停止します。

SIMS のすべてのプロセスが停止したことを確認します。この間、ユーザは自分のメールボックスにアクセスできません。送信用サーバ outbound.siroe.com を通してメールを送信することはできます。

3. iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。

ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

```
ldap://<hostname>:<port>
```

URL of Directory Server [ldap://store1.siroe.com:389]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390

4. サーバプロセスをすべて停止します。

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

```
instance_root/stop-msg
```

5. SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。

configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。

local.ugldapbasedn = o=internet (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)

local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager" (ディレクトリサーバのバインド DN)

local.ugldapbindcred = secret (ディレクトリサーバのバインドパスワード)

local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet" (デフォルトの組織 DN)

local.ugldaphost = ldapreplica1.siroe.com (LDAP の複製があるホスト)

local.ugldapport = 389

6. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

7. stored を起動します。

```
instance_root/start stored
```

8. SMTP リレーサーバとアップグレードしたバックエンドストアに対して完全な dirsync を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

9. メッセージサーバを起動します。

ほかのすべてのサーバプロセスを開始します。

```
instance_root/start-msg
```

この時点で、iPlanet Messaging Server は完全に機能します (ユーザのログインや新しいメッセージの配信などが可能)。通常の配信日指定のメッセージ処理により、受信用 SMTP サーバ上の配信日指定のメッセージが store1.siroe.com に配信されます。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

10. SIMS のメールボックスを iPlanet Messaging Server に移行します。

SIMS メッセージストアが iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行されるまで、ユーザはメッセージを取り出すことができません。一時的に空のメールボックスが表示される場合もあります。さらに、SIMS から移行された古いメッセージと、iPlanet Messaging Server メッセージストアに直接届いた新しいメッセージとが混在することになります。このため、メッセージの順序が不正確になることもあります。

移行するには、`imsbackup` を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、`imsrestore` を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、`imsrestore` は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前(小文字のみ)を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる)に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には `anderson` と `kolander` という 2 つのメッセージストアがあることになります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、`imsrestore` とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。`filename` の内容は次のようになります。

```
anderson=Anderson
kolander=Kolander
```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

注 メールボックス名の文字で、MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format, RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、`imsrestore` によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、`imsrestore` の `-n` オプションを使用します。

`store1.siroe.com` で次のコマンドを実行します。

```
imsbackup -f- -u user | server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore -f-  
-cy -n -v1
```

`user_file` はユーザメールボックスの名前が含まれているファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10 ~ 15 のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、新しいメッセージストアへのリストアの速

度を最適化できます。

注 次のように fsync を無効にしないでください。
`configutil -o "local.store.synclevel" -v 0`

11. SIMS のほかのすべてのバックエンドメッセージストアサーバについてもこれまでの手順を繰り返します。

手順 1 に戻ります。

12. すべてのバックエンドメッセージストアの移行が完了したら、次の手順を実行します。

- a. iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ユーザとグループのエントリをアップグレードします。

次に示すように、`imsdirmig` を使用します。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet" -M sims -F  
(mailhost=store1.siroe.com) -D "cn=Directory Manager" -w secret  
-m both
```

この場合、`o=internet` の下のすべてのユーザ / グループエントリがアップグレードされます。

- b. すべての SMTP サーバ (バックエンドのメッセージストアサーバ、SMTP リレーサーバなど) で複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

- c. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

複数サーバのオンライン移行手順 (余分なハードウェアがある場合)

1. 新しいマシン (newstore1.siroe.com) に iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。

ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

`ldap://<hostname>:<port>`

URL of Directory Server

`[ldap://newstore1.siroe.com:389]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390`

2. サーバプロセスをすべて停止します。

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

`instance_root/stop-msg`

3. SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。

configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。

`local.ugldapbasedn = o=internet` (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)

`local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager"` (ディレクトリサーバのバインド DN)

`local.ugldapbindcred = secret` (ディレクトリサーバのバインドパスワード)

`local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet"` (デフォルトの組織 DN)

`local.ugldaphost = ldapreplica1.siroe.com` (LDAP の複製があるホスト)

`local.ugldapport = 389`

4. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

5. 新しいバックエンド SMTP ルーティングホストを追加して、ドメインエントリをアップグレードします。

```
imsdirmig -h ldap.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m domains -A  
mailroutinghosts:newstore1.siroe.com -P -O
```

6. 新しいメールホストをポイントするように、ユーザおよびグループのエントリをアップグレードします。

次に示すように、imsdirmig を使用します。

```
imsdirmig -h -b "o=internet" -M sims -F  
(mailhost=store1.siroe.com) -D "cn=Directory Manager" -w secret  
-m both -A mailhost:newstore1.siroe.com -O
```

この場合、o=internet の下のすべてのユーザ / グループエントリに新しいメールホストが割り当てられ、エントリは新しいスキーマにアップグレードされます。

7. 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように dirsync を構成します。これには、configutil を使用して次の 2 つのパラメータを追加します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "ims50,sims40"
```

```
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v  
(|(objectClass=inetLocalMailRecipient)(|(objectClass=inetMailUser)  
(objectClass=inetmailGroup)))
```

8. stored を起動します。

```
instance_root/start stored
```

9. アップグレードしたバックエンドストア newstore1.siroe.com で完全な dirsync を実行します。

これにより SMTP サーバからのメッセージを新しいサーバで受信できるようになります。

```
instance_root/imsimta dirsinc -F
```

10. メッセージサーバを起動します。

`start-msg` コマンドを使用して、ほかのすべてのサーバプロセスを開始します。この時点で、iPlanet Messaging Server は完全に機能します (ユーザのログインや新しいメッセージの配信などが可能)。

SIMS メッセージストアが iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行されるまで、古いメッセージにはアクセスできません。さらに、SIMS から移行された古いメッセージと、iPlanet Messaging Server メッセージストアに直接届いた新しいメッセージとが混在することになります。このため、メッセージの順序が不正確になることもあります。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

11. 移行後、ドメインの `mailhosts` 属性および `preferredmailhost` 属性の属性値が、以前の `store1.siroe.com` ではなく `newstore1.siroe.com` に設定されていることを確認します。たとえば、`preferredmailhost` の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の `ldapsearch` コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet"
"(&(objectclass=maildomain) (preferredmailhost=store1.siroe.com))"
```

`mailhosts` の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の `ldapsearch` コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet"
"(&(objectclass=maildomain) (mailhosts=store1.siroe.com))"
```

12. すべての SMTP サーバで増分 `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync
```

これで、移行済みユーザ宛でのメッセージは、`inbound1.siroe.com` および `inbound2.siroe.com` により、`newstore1.siroe.com` メッセージストアに配信されます。

13. SIMS の SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであることを確認します。

この時点で、受信用 SMTP サーバによって SIMS のバックエンドメッセージストアにメッセージが配信されることはありません。SIMS のバックエンドサーバを停止する前に、MTA キューのメッセージがすべて配信済みであることを確認します。

14. `/opt/SUNWmail/sbin/im.server stop` を使用して SIMS を停止します。

SIMS のすべてのプロセスが停止したことを確認します。

15. SIMS のメールボックスを iPlanet Messaging Server に移行します。

これを行うには、`imsbackup` を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、`imsrestore` を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、`imsrestore` は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前 (小文字のみ) を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる) に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には `anderson` と `kolander` という 2 つのメッセージストアがあることとなります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、`imsrestore` とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。 `filename` の内容は次のようになります。

```
anderson=Anderson
kolander=Kolander
```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

注 メールボックス名の文字で、MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format、RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、`imsrestore` によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、`imsrestore` の `-n` オプションを使用します。

`newstore1.siroe.com` で次のコマンドを実行します。

```
rsh store1.siroe.com /opt/SUNWmail/sbin/imbbackup -f- -u user |
server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore -f- -cy -n -v1
```

`user` はユーザメールボックスの名前が含まれているファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10 ~ 15 のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、新しいメッセージストアへのリストアの速度を最適化できます。

注 次のように `fsync` を無効にしないでください。

```
configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
```

SIMS メッセージストアが iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行されるまで、古いメッセージにはアクセスできません。一時的に空のメールボックスが

表示される場合もあります。さらに、SIMS から移行された古いメッセージと、iPlanet Messaging Server メッセージストアに直接届いた新しいメッセージとが混在することになります。このため、メッセージの順序が不正確になることもあります。

16. SIMS のほかのすべてのバックエンドメッセージストアサーバについてもここまでの手順を繰り返します。

手順 1 に戻ります。

17. すべてのバックエンドメッセージストアの移行が完了したら、次の手順を実行します。

- a. iPlanet Messaging Server スキーマを使用するように、ユーザとグループのエントリをアップグレードします。

次に示すように、`imsdirmig` を使用します。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m both
```

この場合、`o=internet` の下のすべてのユーザ/グループエントリが新しいスキーマにアップグレードされます。

- b. すべての SMTP サーバ (バックエンドのメッセージストアサーバ、SMTP リレーサーバなど) で複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

- c. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている `imsdaaci` コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

SIMS メッセージストアサーバの iPlanet Messaging Server への移行 (段階的移行)

バックエンドメッセージングサーバを移行する前に、すべてのメッセージアクセスプロキシサーバと SMTP リレーサーバがアップグレードされていることを確認します。段階的移行の長所と短所については、30 ページの「メッセージストアのオフライン移行」を参照してください。

前提

- iPlanet Messaging Server を新しいホストにインストールし、SIMS 4.0 の代わりに使用する
- iPlanet Messaging Server では既存のユーザ/グループディレクトリサーバと Configuration Directory Server を使用する
- ディレクトリサーバは Netscape Directory Server 4.12 を使用する。SIMS と同じホストにあっても別のホストにあってもかまわない。iPlanet Messaging Server の構成データを置くための新しいディレクトリサーバがすでにインストールされている (69 ページの「構成サーバのインストール」を参照)。ユーザ/グループディレクトリ、つまり SIMS のディレクトリは、アップグレードされた同一のユーザ、グループ、およびドメインのエントリで新しい iPlanet Messaging Server をサポートする
- SIMS のユーザメールボックスは、一度にすべてが移行されるのではなく、数回に分けて移行される
- システムを新しいホストにインストールする場合は、次の例に示すような前提が適用される

前提

SIMS のユーザ/グループのディレクトリ接尾辞: o=internet

SIMS のメールサーバ名: store1.siroe.com

iPlanet Messaging Server のメールサーバ名: newstore1.siroe.com

マスターディレクトリサーバ: ldapmaster.siroe.com

マスターディレクトリサーバのネットワークポート: 389

Configuration Directory Server: ldapmaster.siroe.com

Configuration Directory Server のネットワークポート: 390

ディレクトリサーバのバインドパスワード: secret

SIMS のデフォルトの組織 DN: dc=siroe,dc=com,o=internet

移行手順

1. 新しいマシン (newstore1.siroe.com) に iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。

ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

```
ldap://<hostname>:<port>
```

URL of Directory Server

```
[ldap://newstore1.siroe.com:389]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390
```

2. サーバプロセスをすべて停止します。

インストールの最後に、インストーラによってすべてのサーバプロセスが開始されます。インストールが終了したら、すべてのプロセスを停止してください。root として、次のコマンドを実行します。

```
instance_root/stop-msg
```

3. SIMS 4.0 のユーザ/グループディレクトリをポイントするように、iPlanet Messaging Server の設定を変更します。

configutil を使用して、次の設定パラメータを変更します。

```
local.ugldapbasedn = o=internet (SIMS で、ユーザを保存するために使用していた接尾辞)
```

```
local.ugldapbinddn = "cn=Directory Manager" (ディレクトリサーバのバインド DN)
```

```
local.ugldapbindcred = secret (ディレクトリサーバのバインドパスワード)
```

```
local.ugldapdeforgdn = "dc=siroe,dc=com,o=internet" (デフォルトの組織 DN)
```

```
local.ugldaphost = ldapreplica1.siroe.com (LDAP の複製があるホスト)
```

```
local.ugldapport = 389
```

4. SIMS サーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

5. 複数スキーマの LDAP エントリをサポートできるように、iPlanet Messaging Server (newstore1.siroe.com) の `dirsync` コマンドを構成します。これには、`configutil` を使用して次の 3 つのパラメータを設定します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "sims40,ims50"  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v  
"(|(objectClass=inetLocalMailRecipient)(|(objectClass=inetMailUser)(objectClass=inetMailGroup)))"  
instance_root/configutil -o local.imta.sims_migrate -v True
```

6. `stored` を起動します。

```
instance_root/start stored
```

7. 完全な `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

8. newstore1.siroe.com のすべてのサーバプロセスを開始します。

```
instance_root/start-msg
```

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

9. 移行後、ドメインの `mailhosts` 属性および `preferredmailhost` 属性の属性値が、以前の `store1.siroe.com` ではなく `newstore1.siroe.com` に設定されていることを確認します。たとえば、`preferredmailhost` の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の `ldapsearch` コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet"  
"(&(objectclass=maildomain)(preferredmailhost=store1.siroe.com))"
```

`mailhosts` の変更が必要なドメインメールエントリを検索するには、次の `ldapsearch` コマンドを使用します。

```
ldapsearch -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet"  
"(&(objectclass=maildomain)(mailhosts=store1.siroe.com))"
```

10. `store1.siroe.com` から `newstore1.siroe.com` に、ユーザメールボックスの一部を移行します。

ユーザを小分けして新しいシステムに移行することにより、ユーザのダウンタイム(ユーザがメールボックスにアクセスできない時間)を最小限に抑えることができます。このプロセスの結果を確認できるように、まず少人数のユーザを移行してみることをお勧めします。ユーザのまとまりごとに、次の手順を実行します。

- a. 移行するユーザのまとまりを選択します。移行中はメールにアクセスできないことをユーザに知らせます。
- b. これらのユーザ宛てのすべてのメッセージがユーザメールボックスではなく保留チャンネルに送信されるように指定し、ユーザメールボックスはロックして移行中は開けないようにします。次のコマンドを使用します。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b  
"dc=siroe,dc=com,o=internet" -M sims -D "cn=Directory  
Manager" -w secret -m users -F "(uid=s*)" -A  
mailDeliveryOption:hold¥;mailFolderMap:LOCK -O
```

上の例では、siroe.com 内で uid の値が「s」で始まるすべてのユーザエントリについて、mailDeliveryOption と mailFolderMap の属性値が更新されます (RFC-1558 に従ってあらゆる LDAP フィルタを使用できます)。このコマンドでは、iPlanet Messaging Server スキーマをサポートするためのエントリのアップグレードは行いません。これはあとの移行プロセスで行います。

このコマンドを実行すると、対象ユーザは自分のメールボックスにアクセスできなくなりますが、メールを送信することはできます。受信メールは保留チャンネルに保存され、このプロセスの最後にメールボックスに配信されます。

- c. 受信用および送信用 SMTP リレーホストと、store1.siroe.com および newstore1.siroe.com で dirsync を実行し、前の手順のルーティングの変更を反映させます。

- d. 次に示すように、iPlanet Messaging Server で、SIMS ユーザのまとまりを iPlanet Messaging Server メッセージストアに変換して移動します。

これを行うには、`imsbackup` を使用して SIMS メッセージストアをバックアップし、`imsrestore` を使用してメッセージストアを iPlanet Messaging Server にリストアします。この手順について次に説明します。

注 LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がある場合、`imsrestore` は必ず `-u filename` オプションとともに使用し、ユーザの SIMS メッセージストアの名前 (小文字のみ) を LDAP ディレクトリの UID (大文字も含まれる) に変更します。

たとえば、LDAP ディレクトリに大文字を含む UID が 2 つあり、それが Anderson と Kolander である場合、SIMS には `anderson` と `kolander` という 2 つのメッセージストアがあることとなります。iPlanet Messaging Server メッセージストアの名前を Anderson と Kolander に変更するには、`imsrestore` とともに `-u filename` オプションを使用する必要があります。 `filename` の内容は次のようになります。

```
anderson=Anderson  
kolander=Kolander
```

これを行わないと、UID に大文字が含まれるユーザは、移行済みメールにアクセスできなくなります。LDAP ディレクトリに大文字を含む UID がない場合は、この手順を実行する必要はありません。

注 メールボックス名の文字で、MUTF-7 (Modified Unicode Transformation Format、RFC 2060 を参照) でエンコードされていないものは、`imsrestore` によってスペースに置き換えられます。ユーザは、メールクライアントからフォルダ名を修正できます。変換によるフォルダ名の重複を避けるには、`imsrestore` の `-n` オプションを使用します。

```
rsh store1.siroe.com /opt/SUNWmail/ims/sbin/imsbackup -f- -u  
user_file | server_root/bin/msg/store/bin/imsrestore -f- -cy -n -v1
```

`imsbackup` は SIMS ホストで実行されます。 `user_file` は、ユーザメールボックス名を含むファイルです。ユーザエントリを等分してそれぞれのユーザファイルに入れ、10 ~ 15 のバックアップ/リストアセッションを同時に実行すると、リストアの速度を最適化できます。 `imsrestore` は iPlanet Messaging Server ホストで実行されます。

- e. 新しい iPlanet Messaging Server をポイントするようにユーザエントリを変更し、ユーザエントリに `mailDeliveryOption:mailbox` および `mailhost:newmail.siroe.com` と設定することによってメールボックスに対する保留を解除します。次のように、`imsdirmig` を `-O` および `-A` オプションとともに使用します。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b
"dc=siroe,dc=com,o=internet" -M sims -D "cn=Directory
Manager" -w secret -m users -F "(uid=s*)" -O -A
mailDeliveryOption:mailbox¥;mailhost:newstore1.siroe.com
```

これで、移行済みユーザがメールボックスにアクセスできるようになります。

- f. `newstore1.siroe.com`、`store1.siroe.com`、およびすべてのリレーサーバで増分 `dirsync` を実行します。これで、移行済みユーザ宛てのメッセージは、受信用 SMTP リレーサーバにより、`newstore1.siroe.com` メッセージストアに配信されます。
- g. `store1.siroe.com` と `newstore1.siroe.com` の保留キューを空にし、ユーザメールボックスを移行している間にシステムに届いたメッセージをすべて新しいサーバ、`newstore1.siroe.com` にリダイレクトします。

```
/opt/SUNWmail/imta/sbin/hold_master -u uid -d domain
```

スクリプトを作成し、一度に複数のユーザについて処理することもできます。

11. ユーザとメーリングリストの次のまとまりを移行します。前の手順を参照してください。
12. メーリングリストエントリの場合は、`mailhost` 属性を新しい iPlanet Messaging Server ホストの完全指定名 (`newstore1.siroe.com` など) に変更します。変更しないと、ローカルに配信しようとしたメールが誤って古い SIMS サーバにリダイレクトされます。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b
"dc=siroe,dc=com,o=internet" -M sims -D "cn=Directory Manager" -w
secret -m groups -F "(objectclass=inetmailgroup)" -O -A
mailhost:newstore1.siroe.com
```

これにより、すべてのグループの LDAP エントリがアップグレードされます。

13. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、次のようにディスパッチャを停止する方法があります。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta stop dispatcher
```

この時点で SMTP サーバは停止しますが、ジョブコントローラによってキュー内のメッセージの処理は続けられます。キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/opt/SUNWmail/sbin/imta qm counters
```

14. すべてのメールボックスの移行が完了したら、store1.siroe.com の使用を停止できます。
15. すべてのバックエンドサーバについて、これまでの手順を繰り返します。
16. すべてのバックエンドメッセージストアの移行が完了したら、次の手順を実行します。

- a. imsdirmig を使用して、すべてのユーザ/グループディレクトリエントリを iPlanet Messaging Server スキーマにアップグレードします。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b "o=internet" -M sims -D  
"cn=Directory Manager" -w secret -m both
```

- b. すべての SMTP サーバで、複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。configutil を使用して、すべての SMTP サーバ (メッセージストアサーバとすべての受信用および送信用リレーサーバ) について次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""  
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

- c. すべての SMTP サーバ (メッセージストアサーバとすべての受信用および送信用リレーサーバ) で、stored を起動します。

```
instance_root/start stored
```

- d. すべての SMTP サーバ (メッセージストアサーバとすべての受信用および送信用リレーサーバ) で imsimta dirsyntax -F コマンドを実行します。

- e. iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。

次に示す、移行ツールキットに含まれている imsdaci コマンドは、Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaci
```

DIT に LDIF ファイルを追加するには、ldapmodify を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

補足

メッセージストアの設定を次に示すように変更すると、ユーザの最初のまとまりに関して、メールボックスの移行パフォーマンスを向上させることができます。ただし、この設定のまま実際のメッセージングサーバを稼働させるのは安全ではありません。ユーザメールボックスの最初のまとまりを SIMS サーバから iPlanet Messaging Server に移行したら、設定の変更を元に戻すことをお勧めします。

メールボックスの移行を最適化するには、次の手順を実行します。

1. 手順 10 の手順 c のあと、メッセージングサーバを停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

2. 同期レベルを 0 に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.store.synclevel" -v 0
```

3. store デーモンを起動します。

```
instance_root/start stored
```

4. 手順 10 の手順 d に戻ります。

5. メールボックスの最初のまとまりを移行したら、同期レベルをリセットします。

```
configutil -o "local.store.synclevel" -v 1
```

6. メッセージングサーバのプロセスを再起動します。

```
instance_root/start-msg
```

Netscape Messaging Server の複数サーバ導入のアップグレード

ここでは、Netscape Messaging Server の複数サーバ導入から iPlanet Messaging Server 導入に移行する方法を説明します。基本的な手順は次のようになります。

1. 98 ページの「必要な名前付きコンテキストの追加」
2. 99 ページの「Netscape Messaging Server の SMTP リレーサーバのアップグレード」
3. 103 ページの「Netscape Messaging Server の MMP サーバのアップグレード」
4. 103 ページの「Netscape Messaging Server のバックエンドメッセージストアの移行」

必要な名前付きコンテキストの追加

既存のユーザ/グループディレクトリを使用するには、ユーザ/グループディレクトリサーバに必要な DC および組織ツリーのルート接尾辞と、その他のディレクトリインデックスを作成します。これらの手順を次に説明します。

1. Netscape Messaging Server のユーザ/グループの LDAP サーバ (ldapmaster.siroe.com) に対して `ims_dssetup.pl` を実行します。

次に、画面に表示されるメッセージと適切な応答の例を示します。

```
Welcome to the iMS Directory Server preparation tool.
```

```
This tool will help you setup a Netscape Directory Server and  
make it ready to use for installing iPlanet Messaging Server.
```

```
Do you want to continue [y]:
```

```
Please enter the full path to the directory where Netscape  
Directory Server was installed.
```

```
Directory server root [/usr/netscape/server4]:
```

```
Please select a directory server instance from the following list:
```

```
[1] slapd-users
```

```
Which instance do you want [1]:
```

```
Please enter the base suffix for DC Tree [o=internet]:
```

```
Please enter the base suffix under which the Users/Groups data should be  
setup [o=siroe.com]:
```

```
Do you want to update the schema files [yes]:no
```

```
Do you want to configure new indexes [yes]:
```

```
Please enter the schema directory [/cdrom/cdrom0/solaris/iMS/msg/config]:
```

```
Here is a summary of the settings that you chose:
```

```
Server Root:          /usr/netscape/server4  
Server Instance:     slapd-users  
Update Schema:       no  
DC Root:             o=internet  
User/Group Root:    o=siroe.com  
Add New Indexes:     yes  
Schema Directory:    /cdrom/cdrom0/solaris/iMS/msg/config
```

```
Do you want to continue [y]:
```

スクリプトは、名前付きコンテキストの作成と新しい属性へのインデックス付けに進みます。

2. Netscape Messaging Server のユーザ / グループディレクトリサーバを再起動します。

```
instance_root/restart-slapd
```

Netscape Messaging Server の SMTP リレーサーバのアップグレード

1. SMTP またはメールマルチプレクサ (SIMS ではプロキシサーバと呼ばれる) をアップグレードする前に、マージされたスキーマファイル (merged.oc.conf と merged.at.conf) をディレクトリサーバに追加する必要があります。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
2. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、SMTP ポート番号を変更し、SMTP サーバを再起動する方法があります。このようにすると、サーバではキューのメッセージを引き続き処理しますが、標準の SMTP ポートではメッセージを受け付けなくなります。

```
instance_root/configutil -o service.smtp.port -v 901
```

```
instance_root/stop-msg smtp
```

```
instance_root/start-msg smtp
```

キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/bin/mailq
```

3. 旧 SMTP サーバを停止します。この間、受信メッセージは 2 つ目の受信用 SMTP サーバで処理されます。
4. iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。次のメッセージ以外では、デフォルトのオプションを使用します。
 - a. ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

- b. 構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

`ldap://<hostname>:<port>`

URL of Directory Server

`[ldap://inbound1.siroe.com:389]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390`

- c. 次のメッセージが表示されます。

Default Organization DN [`o=siroe.com,o=siroe.com`]:

デフォルト値 (`o=siroe.com,o=siroe.com`) を使用します。これは、Netscape Messaging Server のユーザ/グループエントリの場所ではありません。この時点では、エントリは現在のネームスペースにあります。

5. iPlanet Messaging Server のインストール後、DC ツリーのデフォルトドメインエントリの `inetdomainbasedn` 属性の値 (この場合は `dc=siroe,dc=com,o=internet`) を、Netscape Messaging Server ユーザが置かれている場所 (この場合は `o=siroe.com`) に変更します。また、`configutil` を使用して `local.ugldapdeforgdn` を `o=siroe.com` に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.ugldapdeforgdn" -v "o=siroe.com"
```

デフォルトでは、インストーラは `o=siroe.com,o=siroe.com` でユーザとグループを検索するようにデフォルトドメインを構成しますが、既存の Netscape Messaging Server のユーザとグループは `o=siroe.com` の下に置かれています。このため、DT ツリーのドメインノード `siroe.com` の DN 参照は構造サブツリーを正しくポイントする必要があります。この変更によって、iPlanet Messaging Server がユーザ/グループディレクトリサーバで既存の Netscape Messaging Server のユーザとグループをどのように認識できるようになるかについては、122 ページの「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

6. 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように `dirsync` を構成します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "ims50,nms41"
```

```
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v  
(|(objectClass=inetLocalMailRecipient)(|(objectClass=mailRecipient)(objectclass=mailGroup)))
```

7. Netscape Messaging Server の SMTP リレーサーバでログイン区切りに「+」を使用している場合、iPlanet Messaging Server では「@」がデフォルトなので、ログイン区切り文字を「+」に変更します。このようにすると、ユーザは既存のログイン区切り文字を使用して SMTP AUTH を実行できます。

次のコマンドを使用します。

```
configutil -o service.loginseparator -v +
```

8. 送信用 SMTP サーバの場合は、サイトのポリシーに従って SMTP リレーを有効にします。

- a. imta.cnf file ファイルで、tcp_local および tcp_intranet の各チャンネルに `dequeue_removertime` オプションを追加します。

それぞれのチャンネルブロックは次のようになります。

```
! tcp_local
tcp_local smtp mx single_sys remotehost inner switchchannel ¥
identnonelimited subdirs 20 maxjobs 7 pool SMTP_POOL ¥
maytlserver maysaslserver saslswitchchannel tcp_auth ¥
dequeue_removertime
tcp-daemon
```

!

```
! tcp_intranet
tcp_intranet smtp mx single_sys subdirs 20 noreverse ¥
maxjobs 7 pool SMTP_POOL maytlserver allowswitchchannel ¥
saslswitchchannel tcp_auth dequeue_removertime
tcp_intranet-daemon
```

- b. クラス C ネットワークのすべてのノードがこのサーバを通してリレーできるようにするには、`server_root/msg-instance/imta/config` の下にある `mappings` ファイルを編集して、「* \$N」を「* \$Y」に変更します。

```
+++++
INTERNAL_IP

    $(192.18.74.57/24)    $Y
    127.0.0.1            $Y
    *                    $Y
+++++
```

- c. 内部ネットワークのユーザがサーバを通してメールをリレーできるように、MTA の設定を変更することができます。これには、`server_root/msg-instance/imta/config` の下にあるマッピングファイルの `INTERNAL_IP` セクションを変更します。インストール時の状態では、ims はサーバからのリレーだけを許可します。このため、サーバの IP アドレスが 192.168.23.23 の場合、インストール時の `INTERNAL_IP` マッピングは次のようになります。

```

+++++
INTERNAL_IP

    $(192.168.23.23/32)      $Y
    127.0.0.1              $Y
    *                      $N

```

```
+++++
```

内部ネットワークがクラス C ネットワークである場合は、次のように変更します。

```

+++++
INTERNAL_IP

    $(192.168.23.0/24)     $Y
    127.0.0.1              $Y
    *                      $N

```

```
+++++
```

- d. 次に、`imsimta cnbuild` コマンドを実行します。この時点で、リレーサーバは完全に機能します。
- e. `stored` を起動します。

```
instance_root/start stored
```

- f. 完全な `dirsync` を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

- g. SMTP サーバを起動します。

```
instance_root/start-msg smtp
```

SMTP リレーの有効化の詳細は、21 ページの「SMTP リレーの追加」を参照してください。

Netscape Messaging Server の MMP サーバのアップグレード

1. SMTP またはメールマルチプレクササーバをアップグレードする前に、マージされたスキーマファイル (merged.oc.conf と merged.at.conf) をディレクトリサーバに追加する必要があります。120 ページの「複数スキーマのサポート」を参照してください。
2. SMTP サーバのインストール時に、インストーラにより ldapmaster.siroe.com に DC ツリーが作成されています。ただし、マスターサーバとレプリカサーバの間には、DC ツリーのデータをレプリケートすることについてのレプリケーション契約はありません。このレプリケーション契約を作成する必要があります。『Netscape Directory Server 管理者ガイド』を参照してください。
3. Netscape Messaging Server の MMP サーバを停止します。
4. MMP サーバをインストールして構成します。次のメッセージ以外では、デフォルトのオプションを使用します。

```
Please enter the LDAP URL to the domain component tree
[ldap://siroe.com:389/o=internet]:ldap://ldapreplica2.siroe.com:389/o=internet
```

Netscape Messaging Server の LDAP サーバ情報を入力します。これは、Netscape Messaging Server の既存のユーザ / グループの LDAP サーバです。

Netscape Messaging Server のバックエンドメッセージストアの移行

バックエンドメッセージングサーバを移行する前に、MMP と SMTP リレーサーバがすべてアップグレードされていることを確認します。

前提

- 同じサーバで Netscape Messaging Server 4.x を iPlanet Messaging Server に置き換える
- iPlanet Messaging Server では既存のユーザ / グループディレクトリサーバと Configuration Directory Server を使用する
- iPlanet Messaging Server の DC ツリーの接尾辞 :o=internet
 マスターディレクトリサーバ: ldapmaster.siroe.com
 マスターディレクトリサーバのネットワークポート: 389
 Configuration Directory Server: ldapmaster.siroe.com
 Configuration Directory Server のネットワークポート: 390
 ディレクトリサーバのバインド DN: cn=Directory Manager
 ディレクトリサーバのバインドパスワード: secret

Netscape Messaging Server のユーザ / グループのベース DN : o=siroe.com

iPlanet Messaging Server のデフォルトの組織 DN :

dc=siroe,dc=com,o=internet

iPlanet Messaging Server のサーバユーザ : mailsrv

UNIX における移行手順

移行する前に、メッセージストアをバックアップしておくことを強くお勧めします。

1. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、SMTP ポート番号を変更し、SMTP サーバを再起動する方法があります。このようにすると、サーバではキューのメッセージを引き続き処理しますが、標準の SMTP ポートではメッセージを受け付けなくなります。

```
instance_root/configutil -o service.smtp.port -v 901
instance_root/stop-msg smtp
instance_root/start-msg smtp
```

キューが空であることを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/bin/mailq
```

2. Netscape Messaging Server 4.x を停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

3. iPlanet Messaging Server をインストールして構成します。

ディレクトリサーバは新しくインストールしないでください。次のメッセージが表示されたら、「1,3,4」と入力します。

Components with a number in () contain additional subcomponents which you can select using subsequent screens.

1. Netscape Server Products Core Components (3)
2. Netscape Directory Suite (2)
3. Administration Services (2)
4. iPlanet Messaging Suite (5)

Specify the components you wish to install [All]: 1,3,4

構成サーバのプロンプトが表示されたら、URL およびポート番号を入力します (69 ページの「構成サーバのインストール」で説明したようにインストールされた URL およびポート番号)。

Enter the non-secured LDAP URL of the server that contains the Configuration Directory using the form:

```
ldap://<hostname>:<port>
```

URL of Directory Server [ldap://store1.siroe.com:389/]:ldap://ldapmaster.siroe.com:390

4. サーバプロセスをすべて停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

5. 既存の Netscape Messaging Server のディレクトリのネームスペースを iPlanet Messaging Server のディレクトリのネームスペースにマップまたは変更します。

122 ページの「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

6. デフォルトの組織ツリーを設定します。
 - a. `configutil` を使用して `local.ugldapdeforgdn` を `o=siroe.com` に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.ugldapdeforgdn" -v  
"o=siroe.com"
```

`o=siroe.com` は、デフォルトドメインに対応する組織ツリーの DN です。

- b. `configutil` を使用して `local.service.pab.migrate415` を 1 に設定します。

```
./configutil -o local.service.pab.migrate415 -v 1
```

7. Netscape Messaging Server メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行します。

次の手順に従って、プライマリストアパーティションのパスが Netscape Messaging Server 4.x のメッセージストアパスをポイントするように変更します。

- a. iPlanet Messaging Server Administration Console を使用して、Netscape Messaging Server 4.x のすべてのメールストアパーティションをポイントするように、メッセージストアの設定を変更します (『iPlanet Messaging Server 管理者ガイド』を参照)。

注 メッセージストアディレクトリは、メッセージストアのデータが置かれている場所なので、Netscape Messaging Server 4.x を削除するときにメッセージストアディレクトリを削除しないでください。

- b. ユーザの講読ディレクトリを削除します。

```
rmdir IMS_server_root/msg-instance/store/user/
```

- c. Netscape Messaging Server ユーザの講読フォルダへのシンボリックリンクを設定します。

```
ln -s NMS_server_root/msg-instance/store/user/  
IMS_server_root/msg-instance/store/user/
```

- d. mboxlist ファイルをコピーします。

```
cp NMS_server_root/msg-instance/store/mboxlist/data.db2
iMS_server_root/msg-instance/store/mboxlist/folder.db
```

- e. quota ファイルをコピーします。

```
cp NMS_server_root/msg-instance/store/quota.db2
iMS_server_root/msg-instance/mboxlist/quota.db
```

- f. ファイルがメールサーバユーザによって所有されていることを確認します。
たとえば、次のように入力します。

```
chown mailsrv iMS_server_root/msg-instance/store/mboxlist/*
```

- g. ほかのファイルはコピーしないでください。

8. 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように dirsync を構成します。これには、configutil を使用して次の 2 つのパラメータを追加します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v "ims50,nms41"
```

```
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v
"(|(objectClass=inetLocalMailRecipient)(|(objectClass=mailRecipient)
(objectclass=mailGroup)))"
```

9. stored を起動します。

```
instance_root/start stored
```

10. ストアサーバに対して完全な dirsync を実行します。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

11. iPlanet Messaging Server を再起動します。

メールサーバは使用可能になっています。この時点では、複数スキーマのサポートにより、iPlanet Messaging Server は ldapmaster.siroe.com の古いディレクトリエントリを使って機能しています。新しいユーザおよびグループのエントリは、新しいディレクトリノードに作成されます。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、23 ページの「SMTP リレー機能」を参照してください。

12. 新しい機能を使用できるように、容量制限データベースをアップグレードします。
メールサーバユーザとして次を実行します。

```
su mailsrv
cd iMS_server_root/bin/msg/admin/bin
setenv CONFIGROOT iMS_server_root/msg-instance/config
./reconstruct -q
exit
```

13. すべてのバックエンドサーバについて、これらの手順を繰り返します。
14. すべてのバックエンドサーバの移行が完了したら、次の手順を実行します。
- a. `imsdirmig` を使用して、ユーザ/グループエントリを iPlanet Messaging Server スキーマにアップグレードします。

```
imsdirmig -h ldapmaster.siroe.com -b "o=siroe.com" -M nms -D
"cn=Directory Manager" -F "!(cn=postmaster)" -w secret -m
both
```

`-F "!(cn=postmaster)"` は、移行プロセスからポストマスターエントリを除外するフィルタです。このようなフィルタが指定されていない場合、`imsdirmig` はエントリの処理に失敗し、エラーのために終了します (`-c` を指定して、エラー発生後も `imsdirmig` の処理を続行するようにすることもできます)。

- b. すべての SMTP サーバで、複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

Windows NT における移行手順

移行する前に、メッセージストアをバックアップしておくことを強くお勧めします。

1. SMTP サーバのキュー内のメッセージがすべて処理済みであり、キューが空であることを確認します。

これには、SMTP ポート番号を変更し、SMTP サーバを再起動する方法があります。このようにすると、サーバではキューのメッセージを引き続き処理しますが、標準の SMTP ポートではメッセージを受け付けなくなります。

```
instance_root%configutil -o service.smtp.port -v 901
instance_root%stop-msg smtp
instance_root%start-msg smtp
```

キューが空になるのを待ちます。

2. Netscape Messaging Server の LDAP サーバに対し `perl ims_dssetup.pl` を実行します。`ims_dssetup.pl` によってディレクトリサーバスキーマのアップデートを要求するメッセージが表示されたら、スキーマのアップデートを選択します。
3. 複数スキーマのサポートを有効にします (SIMS/Netscape Messaging Server/iPlanet Messaging Server)。マージされたスキーマファイル (`merged.oc.conf` および `merged.at.conf`) をディレクトリサーバに追加します。『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の付録 B 「複数スキーマのサポート」を参照してください。また、以前の手順で追加したスキーマファイル、`um50-common-schema.conf` および `ims50-schema.conf` に対する `include` 指示をすべてコメントアウトします。キーワードの前に `#` を付加し、その手順の説明に従います。

詳細は、『iPlanet Messaging Server インストールガイド』を参照してください。

4. Netscape Messenger Server だけをアンインストールします。ユーザのメールストアは保存することを選択します。Directory Server はアンインストールしません。
5. ユーザのメールストアが置かれている `msg-instance` ディレクトリの名前をほかの名前 (「`mailstore`」など) に変更します。
6. iPlanet Messaging Server に、Netscape Messaging Server のバニティドメインを再実装します。
7. Netscape Messaging Server と同じサーバディレクトリに iPlanet Messaging Server をインストールします。Directory Server はインストールしないことを選択します。Default Organization DN [`o=siroe.com,o=OldDirRoot`] というメッセージが表示されたら、デフォルト値 (`o=siroe.com,o=OldDirRoot`) を使用します。これは、Netscape Messaging Server のユーザエントリの場所ではありません。この時点では、エントリは現在のネームスペースにあります。
8. サーバプロセスをすべて停止します。

```
instance_root/stop-msg
```

9. 既存の Netscape Messaging Server のディレクトリのネームスペースを iPlanet Messaging Server のディレクトリのネームスペースにマップまたは変更します。

『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の付録 B の「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」を参照してください。

10. デフォルトの組織ツリーを設定します。

`configutil` を使用して `local.ugldapdeforgdn` を `o=sesta.com` に設定します。

```
instance_root/configutil -o "local.ugldapdeforgdn" -v "o=sesta.com"
```

`o=sesta.com` は、デフォルトドメインに対応する組織ツリーの DN です。

11. Netscape Messaging Server メッセージストアを iPlanet Messaging Server メッセージストアに移行します。

次の手順に従って、プライマリストアパーティションのパスが Netscape Messaging Server 4.x のメッセージストアパスをポイントするように変更します。

- a. iPlanet Messaging Server Administration Console を使用して、Netscape Messaging Server 4.x のすべてのメールストアパーティションをポイントするようにメッセージストアの設定を変更します (*mailstore* は手順 5 で使用した例)。
- b. ユーザの講読ディレクトリを削除します。
- c. 次に示すように、Netscape Messaging Server メッセージストアをコピーします。

```
NMSServerRoot/mailstore/store/user/
```

から

```
iMSServerRoot/msg-instance/store/user/
```

(*mailstore* は手順 5 で使用した例)

- d. *mboxlist* ファイルをコピーします。

```
NMSServerRoot/mailstore/store/mboxlist/data.db2
```

から

```
iMSServerRoot/msg-instance/store/mboxlist/folder.db
```

- e. *quota* ファイルをコピーします。

```
NMSServerRoot/mailstore/store/quota.db2
```

から

```
iMSServerRoot/msg-instance/mboxlist/quota.db
```

- f. ほかのファイルはコピーしないでください。

12. 新しいマルチシステムスキーマをサポートするように *dirsync* を構成します。これには、*configutil* を使用して次の 2 つのパラメータを追加します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag
```

```
-v "ims50,nms41"
```

```
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter
```

```
-v (|(objectClass=inetLocalMailRecipient)
```

```
(|(objectClass=mailRecipient) (objectclass=mailGroup)))
```

13. *stored* を起動します。

```
instance_root/start stored
```

14. 完全な *dirsync* を実行し、ユーザおよびグループのエントリを取り込みます。

```
instance_root/imsimta dirsync -F
```

15. iPlanet Messaging Server を再起動します。これで、Netscape Messaging Server 4.x のユーザメールボックスを表示できます。

メールサーバは使用可能になっています。この時点では、複数スキーマのサポートにより、iPlanet Messaging Server は `ldap.sesta.com` の古いディレクトリエントリを使って機能しています。新しいユーザおよびグループのエントリは、新しいディレクトリノードに作成されます。

注 新しくインストールした iPlanet Messaging Server のデフォルト設定では、SMTP リレーはすべてブロックされます。サイトのポリシーに合わせてデフォルト設定を変更する場合は、『iPlanet Messaging Server 移行ガイド』の第 1 章「Netscape Messaging Server 4.x との相違点」の「SMTP リレー機能」を参照してください。

16. 新しい機能を使用できるように、容量制限データベースをアップグレードします。メールサーバユーザとして次を実行します。

```
cd iMSServerRoot/bin/msg/admin/bin
reconstruct -q
```

17. 新しいサーバが起動したら、`imsdirmig` を使用して、ユーザおよびグループのディレクトリエントリを iPlanet Messaging Server スキーマにアップグレードします。

```
imsdirmig -b "o=sesta.com" -M nms -D "cn=Directory Manager" -w
secret -m both -F "(!(cn=postmaster))"
```

18. 複数スキーマのサポートを無効にします。

すべてのディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server にアップグレードされたら、複数スキーマのサポートは不要になります。`configutil` を使用して、次の 2 つのパラメータを削除します。

```
instance_root/configutil -o local.imta.schematag -v ""
instance_root/configutil -o local.imta.ugfilter -v ""
```

iPlanet Messaging Server の移行に関する トラブルシューティング

バックアウト方法

新規システムで予期せぬ問題が発生し、その問題が解決されるまで古いシステムに戻す必要がある場合に備えて、バックアウトストラテジをお勧めします。

ディレクトリエントリを新しいスキーマに移行していなければ、手順を逆にたどるだけでユーザの移行を取り消すことができます。

1. `mailUserStatus` を `hold` に変更することにより、ユーザを保留状態にします。
2. メールボックスを旧システムに戻すには、バックアップを作成してからリストアします (または `MoveUser` を使用します)。
3. メールホストを更新して旧システムにします。
4. ユーザの保留状態を解除します。
5. 新しいシステムの保留キューを処理し、保留メールを旧システムのユーザのメールボックスに配信します。

ディレクトリ移行中のエラー

`imsdirmig` は、「idempotent」の方法で個々のディレクトリエントリを移行します。つまり、すでに移行済みのエントリがある場合、`imsdirmig` はそのエントリをそのままにして何もしません。このため、報告されたエラーに対処したら、処理したディレクトリエントリがないと報告されるまで、`imsdirmig` の再実行を続けるだけで十分です。

ディレクトリ移行中のエラー

コマンドラインインタフェース

この付録では、113 ページの「`imsdirmig`」および 116 ページの「`imsdaaci`」の各移行コマンドについて説明します。

imsdirmig

`imsdirmig` コマンドは、SIMS 4.0 または NMS 4.x のディレクトリエントリ (ユーザ、グループ、ドメイン) をアップグレードして、ディレクトリエントリが iPlanet Messaging Server スキーマの属性を使用するようにします。新しいスキーマにアップグレードしないで、エントリに属性と値のペアを追加することもできます。

形式

```
imsdirmig [-h ldaphost[:ldapport]] -D AdminDN -M mailserver -b dirname  
[-A attr:val [¥;attr:val] [¥;attr:val] [...]] [-P] [-O]] [-C configfile] [-F LDAPFilter]  
[-T number] [-r val1[,val2][,val3] [...]] [-c ] [-f logfile] [-l debuglevel]  
[-m user|group|domain|both] [-n] [-w password]
```

オプション

オプション	説明
-D <i>AdminDN</i>	必須。LDAP サーバにバインドするエントリの DN を指定する。通常は管理者またはディレクトリ管理者 DN
-M <i>mailserver</i>	必須。メールサーバが <i>sims</i> (Sun Internet Mail Server) と <i>nms</i> (Netscape Messaging Server) のどちらであるかを指定する
-b <i>DirectoryBaseDn</i>	必須。移行するエントリを含むディレクトリベースの DN を指定する。この DN は、エントリを取り込む開始点である
-A <i>attr:val</i> [<i>¥;attr:val</i>] [<i>¥;attr:val</i>] [...]	移行時に設定する属性と値のペアをセミコロン (;) で区切って指定する。デフォルト値は、NULL <i>attr:val</i> ペア
-P	-A とともに使用される。指定した場合、-A の属性値は、既存の値ペアに追加される。指定しない場合 (デフォルト)、既存の値ペアを置き換える
-C <i>configfile</i>	設定ファイルを指定する。このファイルを使用してコマンドのフラグとパラメータを保存できる。形式については、 <i>config.fmt</i> を参照
-F <i>LDAPFilter</i>	LDAP フィルタを指定する。デフォルト値は NULL。RFC 1558 を参照
-O	最適化機能を提供する。指定した場合、imsdirmig は -A オプションに指定した <i>attr:val</i> ペアだけを処理し、デフォルトの移行は適用しない。 -A オプションに指定した移行規則だけを適用する、簡易実行オプションである このオプションは、-A オプションとともに使用する場合にのみ有効である
-T <i>number</i>	imsdirmig によって生成される更新スレッドの数を指定する。デフォルト値は 2
-c	継続モード動作を指定する。指定した場合、imsdirmig はすべてのエラーを報告し、移行プロセスを継続する。指定しない場合、imsdirmig は最初のエラー発生時に停止する。-c オプションの有無にかかわらず、すべてのエラーのレポートが作成される
-f <i>logfile</i>	レポートログファイルを指定する。デフォルトの場所は、 <i>/var/tmp/toolname.<TimeStamp></i>
-h <i>hostname[:port]</i>	マスター LDAP ディレクトリの LDAP ホストおよびポートを指定する。デフォルト値は、ローカルホスト。LDAP ポートは 389

オプション	説明
<code>-l debuglevel</code>	<p><code>/var/tmp/toolname.dbg</code> に保存されるデバッグファイルに記録されるデバッグ情報のレベルを指定する。次のデバッグレベルがある</p> <p>0 - デフォルトメッセージ 1 - 常にログとして扱われるメッセージ 2 - エラーメッセージ 3 - 警告メッセージ 4 - デバッグメッセージ</p> <p>デフォルト値は 0</p>
<code>-m user group domain both</code>	<p>エントリタイプを指定する。デフォルト値は、both であり、ユーザとグループの両方のエントリタイプを意味する</p>
<code>-n</code>	<p>すべてのエントリにプレビューオプションを指定する。デフォルト値は NULL</p>
<code>-r val1[,val2][,val3][...]</code>	<p>レポートオプションのカンマ区切りリストを指定する。次の値を指定できる</p> <p>totals - 移行されたエントリの数とエラーのため移行されなかったエントリの数をエントリタイプ別に一覧表示する nototals - 数を一覧表示しない names - 移行が終わるたびに各エントリの識別名を一覧表示する nonames - 各エントリの識別名を一覧表示しない before - imsdirmig によってチェックされた属性の変更前の値を、チェックされたエントリ別に一覧表示する nobefore - 属性の変更前の値を一覧表示しない after - imsdirmig によって変更された属性の変更後の値を、チェックされたエントリ別に一覧表示する noafter - 変更後の属性を一覧表示しない</p> <p>レポートオプションのデフォルト値は totals、nonames、nobefore、および noafter</p>
<code>-w password</code>	<p>バインドパスワードを指定する。このオプションを省略した場合、imsdirmig はエコーを抑制した状態でパスワードの入力を要求する</p>

例

```
imsdirmig -b "dc=com,o=internet" -M sims -D "cn=Directory Manager"
-w secret -m both -A mailhost:newmail.siroe.com
```

`o=internet` の下のすべてのユーザ / グループエントリに新しいメールホストが割り当てられ、エントリは新しいスキーマにアップグレードされます。

imsdaaci

imsdaaci コマンドは、サービス管理者グループとドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルを作成します。これらのグループと ACI を DIT に追加するには、`ldapmodify` を使用します。これらのグループは最初は空であり、ユーザが管理者権限を持つためには、1 人以上のユーザをサービス管理者グループのメンバーにする必要があります。『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』の「トップレベル管理者の作成」を参照してください。

形式

```
imsdaaci [-h LDAP_host] -D AdminDN -w password -b DC_Suffix [-p LDAP_Port] [-o OSI_Suffix]
```

オプション

このコマンドのオプションは、以下のとおりです。

オプション	説明
-D <i>AdminDN</i>	必須。管理者の識別名を指定する
-w <i>password</i>	必須。 <i>AdminDN</i> のパスワード
-b <i>DC_Suffix</i>	必須。DC ツリーのルート接尾辞を指定する。たとえば、次のように入力する。 <code>o=internet</code>
-h <i>LDAP_host</i>	省略可能。ユーザ / グループの LDAP サーバのホスト名を指定する。デフォルト値は、ローカルホスト
-p <i>LDAP_Port</i>	省略可能。ユーザ / グループの LDAP サーバのポート番号を指定する。デフォルト値は 389
-o <i>OSI_Suffix</i>	省略可能。OSI ツリーのルート接尾辞を指定する。指定しない場合のデフォルトは、DC 接尾辞の値である。これは通常、DC ツリーにユーザ / グループデータが含まれる既存の SIMS 導入の場合に使用される

例

```
imsdaaci -h ldap.siroe.com -D "cn=Directory Manager" -w secret -b  
"o=internet" -o "o=siroe.com"
```

imsdaaci

共通の移行手順

この付録では、多くの移行シナリオに共通する手順について説明します。この付録には、以下の節があります。

- 120 ページの「SIMS/Netscape Messaging Server から Netscape Directory Server 4.12 へのアップグレード」
- 120 ページの「複数スキーマのサポート」
 - 121 ページの「SIMS で複数スキーマのサポートを有効にする」
 - 121 ページの「Netscape Messaging Server 4.x で複数スキーマのサポートを有効にする」
- 122 ページの「iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用」
 - 122 ページの「単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする」
 - 126 ページの「複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする」
 - 130 ページの「SIMS のディレクトリネームスペースを使用する」

SIMS/Netscape Messaging Server から Netscape Directory Server 4.12 へのアップ グレード

Sun Directory Server または Netscape Directory Server の以前のバージョンを使用してインストールするには、iPlanet Messaging Server をインストールする前に Netscape Directory Server 4.12 に切り替えておく必要があります。Netscape Directory Server の以前のバージョンから Netscape Directory Server 4.12 へのアップグレードについては、Netscape Directory Server のマニュアルを参照してください。SIMS 4.0 とともに使用する Netscape Directory Server バージョン 4.12 のインストールについての詳細は、<http://docs.iplanet.com/docs/manuals/messaging/sims40/install/cookbook.doc.html#1000692> の Appendix A of the SIMS 4.0 Installation Guide を参照してください。

複数スキーマのサポート

移行シナリオによっては、移行中に iPlanet Messaging Server のスキーマと SIMS 4.0 または Netscape Messaging Server 4.1 のスキーマを同時にサポートしなければならない場合があります。これには、SIMS と Netscape Messaging Server のマージされたスキーマファイルをインストールする必要があります。マージされたスキーマファイルは LDAP マスターサーバとそのすべてのレプリカにインストールします。

2 つのマージされたスキーマファイル、`merged.oc.conf` と `merged.at.conf` は、SIMS、the Netscape Messaging Server および iPlanet Messaging Server のスキーマをサポートします。オペレーティングシステムごとに、これらのファイルは次の場所に置かれます。

HP-UX: `CDRoot/HPUX/ims/msg/msg.zip`

Windows NT: `CDRoot/ntx86/ims/msg/msg.zip`

Solaris: `CDRoot/Solaris/ims/msg/msg.zip`

これらのファイルは、移行ツールキットにも付属しています。

マージされたスキーマファイルをインストールするには、ファイルを `server_root/slapped-instance/config` にコピーします。SIMS と Netscape Messaging Server のどちらを使用しているかによって、さらに実行する手順があります。これらの手順を次に説明します。

SIMS で複数スキーマのサポートを有効にする

1. Netscape Directory Server の config ディレクトリにある ns-schema.conf ファイルで、次のファイルをコメントアウトします。

```
#include $INSTANCEROOT/ns-mail-schema.conf
```

2. 使用している Netscape Directory Server の config ディレクトリにある、slapd.conf ファイルから、次のファイルをコメントアウトします。

```
#include $INSTANCEROOT/config/sims-sisp.at.conf
#include $INSTANCEROOT/config/sims-sisp.oc.conf
#include $INSTANCEROOT/config/sims.at.conf
#include $INSTANCEROOT/config/sims.oc.conf
```

3. 適切な include 文を使用して、ns-schema.conf ファイルに merged.oc.conf と merged.at.conf を追加します。merged.at.conf は最初にインクルードされなければなりません。たとえば、次のように入力します。

```
include "server_root/slapd-instance/config/merged.at.conf"
include "server_root/slapd-instance/config/merged.oc.conf"
```

4. GUI またはコマンドラインでディレクトリサーバを再起動して、変更を適用します。

Netscape Messaging Server 4.x で複数スキーマのサポートを有効にする

1. server_root/slapd-instance/config/slapd.conf ファイルを開き、次の 2 行を追加します。(at.conf ファイルは、oc.conf ファイルの前にある必要があります)。

```
include "server_root/slapd-instance/config/merged.at.conf"
include "server_root/slapd-instance/config/merged.oc.conf"
```

2. ns-schema.conf ファイルで、次の行をコメントアウトします。

```
# include "server_root/slapd-instance/config/ns-mail-schema.conf"
```

3. GUI またはコマンドラインでディレクトリサーバを再起動して、マージされたスキーマファイルをインストールします。

iPlanet Messaging Server での既存のディレクトリ情報ツリーの使用

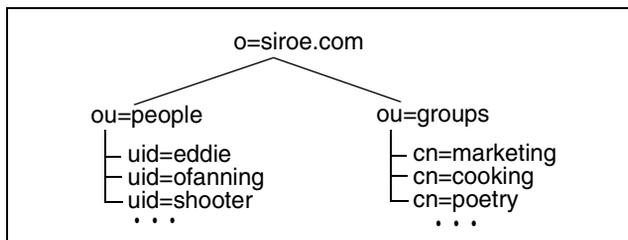
iPlanet Messaging Server では、SIMS 4.0 および一部の Netscape Messaging Server 4.1 の既存のディレクトリ情報ツリー (DIT) を使用できます (17 ページの「Netscape Messaging Server 4.x のディレクトリネームスペースに関する制限事項」を参照)。ここでは、次のネームスペース移行シナリオについて説明します。

- 122 ページの「単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする」
- 126 ページの「複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする」
- 130 ページの「SIMS のディレクトリネームスペースを使用する」

単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする

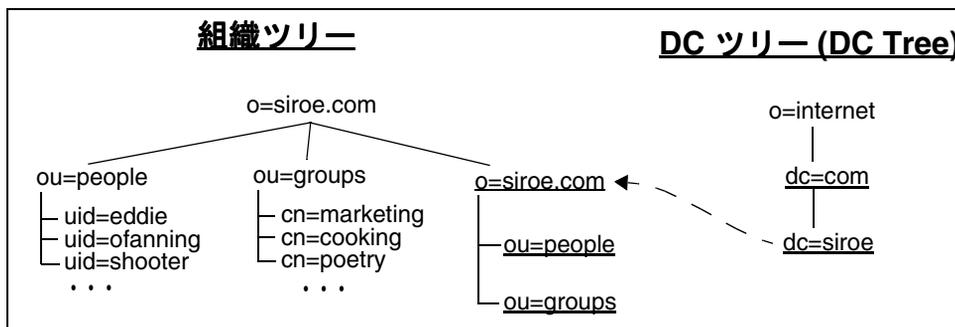
単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする方法を説明する前に、まず単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースの簡単な例を示します (図 B-1)。

図 B-1 Netscape Messaging Server の単一ドメインネームスペース



iPlanet Messaging Server をインストールすると (図 B-2)、ネームスペースのマッピングに関連して、1) デフォルトのドメインノードを含む DC ツリーが作成され、2) 組織ツリーに空のデフォルトドメインが作成され、3) DC ツリーのデフォルトドメインエントリの `inetDomainBaseDN` 属性に組織ツリーのデフォルトドメインノードが設定されます (`inetDomainBaseDN` は、すべてのユーザ / グループエントリが保存される組織サブツリーの DN)。

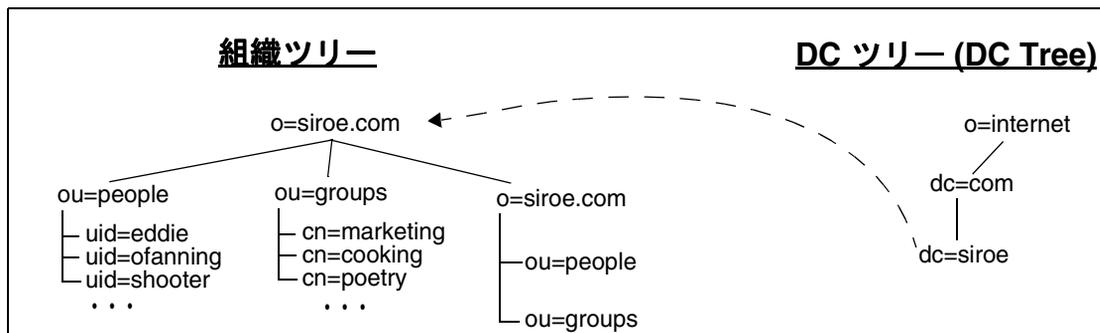
図 B-2 iPlanet Messaging Server インストール後の単一ドメインネームスペース (インストールプログラムで作成されるノードを下線で示す)



DC ツリーは、ユーザとグループのエントリが存在する組織ツリーにマップされる必要があるため、この構成では iPlanet Messaging Server は機能しません。これには、DC ツリーのドメインエントリの `inetDomainBaseDN` が、ユーザおよびグループのデータが入っている構造サブツリーを参照するように設定します。

この例を使用して、Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップするもっとも簡単な方法を図 B-3 に示します。

図 B-3 単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする - Delegated Administrator とホストドメインはサポートされない



この例では、DC ツリーのドメインノードエン트리 `dc=siroe,dc=com,o=internet` の属性と値のペアを次のように変更しました。

```
inetDomainBaseDN: o=siroe.com,o=siroe.com
```

から

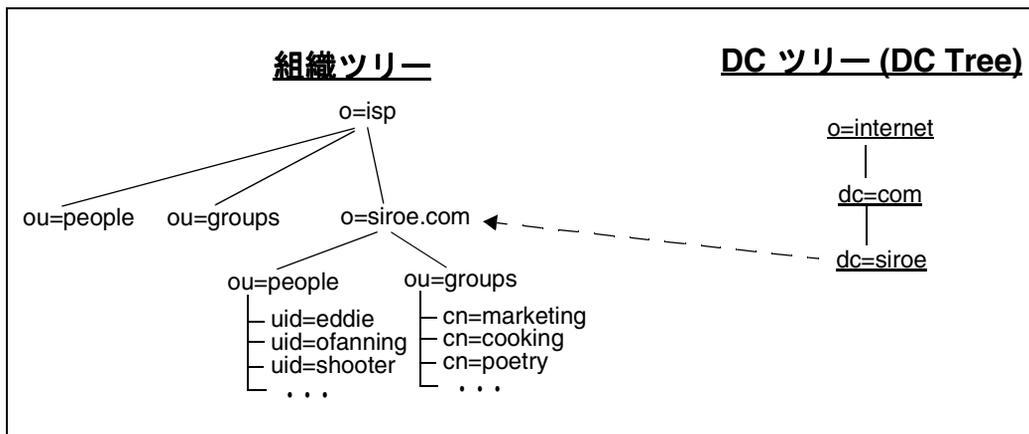
```
inetDomainBaseDN: o=siroe.com
```

これは、次の LDIF 変更ファイルで行います。

```
dn: dc=siroe,dc=com,o=internet
changetype: modify
replace: inetdomainbasedn
inetDomainBaseDN: o=siroe.com
```

このネームスペースの構成は iPlanet Messaging Server では問題ありませんが、Delegated Administrator やホストドメインはサポートしません。Delegated Administrator とホストドメインをサポートするには、ユーザおよびグループのエントリを構造サブツリーノードに移動し、図 B-4 に示すように、DC ツリードメインノードの `inetDomainBaseDN` 属性をリセットします。

図 B-4 単一ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする - Delegated Administrator とホストドメインがサポートされる



この例では、次のようなことが行われています。

1. 組織ツリーで、ルート接尾辞を `o=siroe.com` から `o=isp` に変更しました。これは必須の手順ではありませんが、こうすることによって組織ツリーがより標準的になります。
2. 組織ツリーで、`ou=people`、`o=siroe.com` および `ou=groups`、`o=siroe.com` から `ou=people`、`o=siroe.com`、`o=isp` および `ou=group`、`o=siroe.com`、`o=isp` に、ユーザおよびグループのエントリを移動しました。
3. DC ツリーのエントリ `dc=siroe`、`dc=com`、`o=internet` で、`inetDomainBaseDN` の既存の属性と値のペアを次のものと置き換えました。
`inetDomainBaseDN: o=siroe.com,o=isp`

これで、このネームスペースの構成は Delegated Administrator とホストドメインをサポートするようになります。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に、適切な ACI を追加します。Delegated Administrator の機能を追加するには、`imsdaaci` コマンド (移行ツールキットに付属) を実行します。Delegated Administrator サービス管理者グループと Delegated Administrator ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルが生成されます。

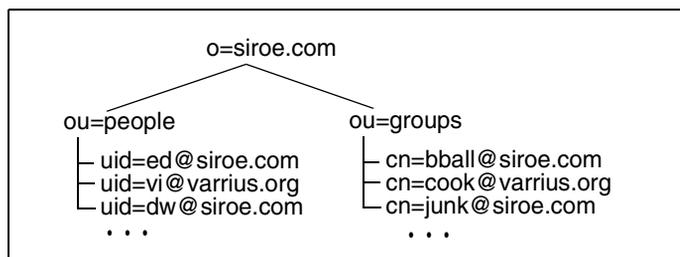
`server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci`

DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする

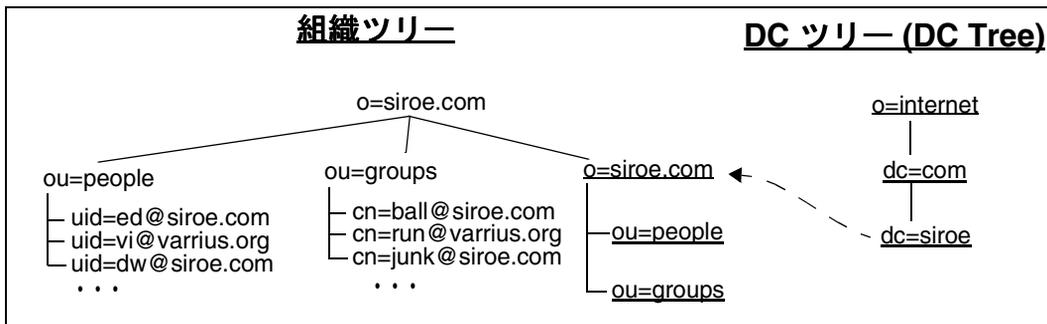
複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする方法を説明する前に、まず複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースの簡単な例を示します (図 B-5)。

図 B-5 Netscape Messaging Server の複数ドメインネームスペース



iPlanet Messaging Server がインストールされると、(図 B-6) ネームスペースのマップに関連して、1) デフォルトのドメインノードを含む DC ツリーが作成され、2) 組織ツリーに空のデフォルトドメインが作成され、3) DC ツリーのデフォルトドメインエントリの `inetDomainBaseDN` 属性に組織ツリーのデフォルトドメインノードが設定されます (`inetDomainBaseDN` は、すべてのユーザ / グループエントリが保存されている組織サブツリーの DN)。

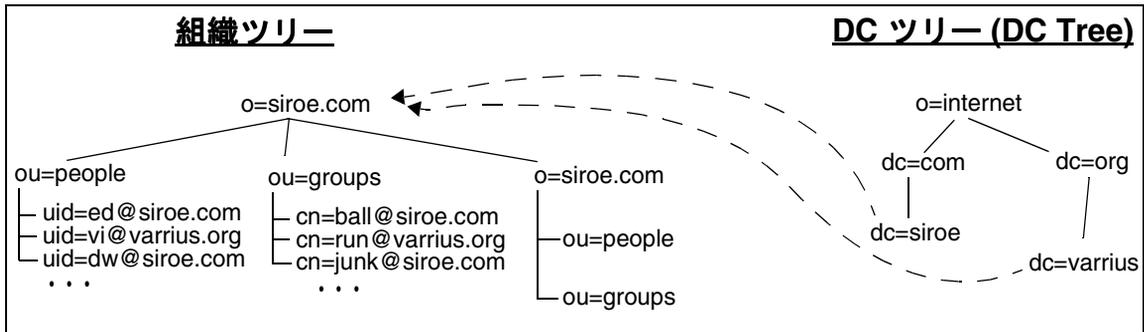
図 B-6 iPlanet Messaging Server インストール後の複数ドメインネームスペース (インストールプログラムで作成されるノードを下線で示す)



DC ツリーは、ユーザとグループのエントリが存在する組織ツリーにマップされる必要があるため、この構成では iPlanet Messaging Server は機能しません。これには、1) 組織ツリーの各ドメインについて、対応する DC ツリーのドメインノードを作成し、2) DC ツリーの各ドメインエントリの inetDomainBaseDN 属性に、ユーザおよびグループのデータが入っている組織サブツリーを設定します。

この例を使用して、Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップするもっとも簡単な方法を 図 B-7 に示します。

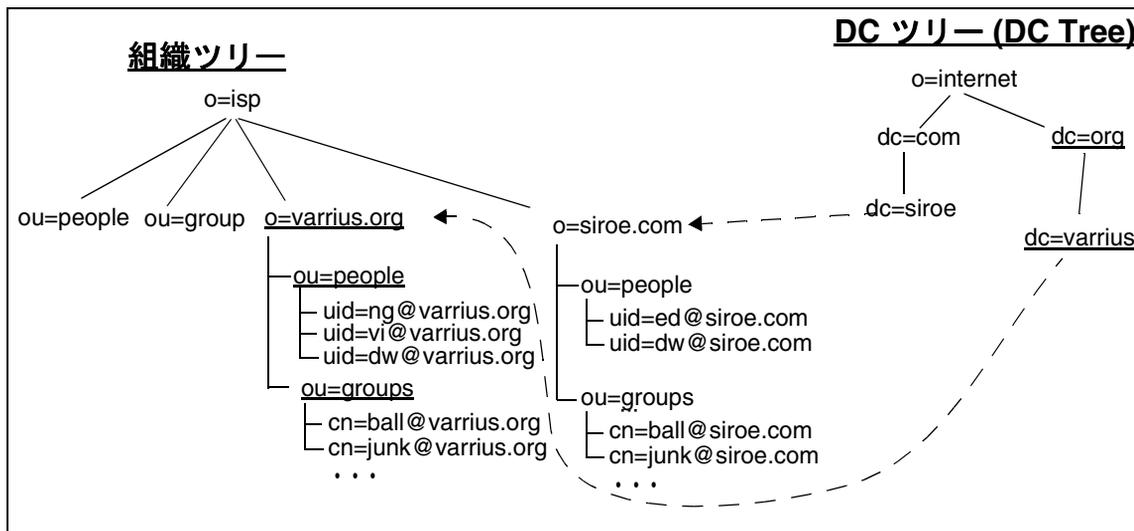
図 B-7 複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server ネームスペースにマップする - Delegated Administrator とホストドメインはサポートされない (管理者が作成するノードを下線で示す)



この例では、dc=varrius, dc=org, o=internet という名前の DC ツリーのドメインノードを新規に作成しています (この方法の詳細は、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照)。また、dc=siroe, dc=com, o=internet および dc=varrius, dc=org, o=internet の属性と値のペア inetDomainBaseDN を inetDomainBaseDN: o=siroe.com に置き換えています。

このネームスペースの構成は iPlanet Messaging Server では問題ありませんが、Delegated Administrator やホストドメインはサポートしません。Delegated Administrator とホストドメインをサポートするには、組織ツリーと DC ツリーに別々のドメインノードを作成して、ユーザおよびグループのエントリをそれらの組織ツリーノードに移動し、DC ツリードメインノードの inetDomainBaseDN 属性をリセットします。図 B-8 に、これを示します。

図 B-8 複数ドメインの Netscape Messaging Server ネームスペースを iPlanet Messaging Server の DC ツリーにマップする - Delegated Administrator とホストドメインがサポートされる (管理者が作成または変更するノードを下線で示す)



この例では、次のようなことが行われています。

1. 組織ツリーで、ルート接尾辞を `o=siroe.com` から `o=isp` に変更しました。これは必須の手順ではありませんが、こうすることによって組織ツリーがより標準的になります。
2. 組織ツリーで、`ou=people` および `ou=groups` の2つのコンテナと同様に、`o=varrius.org`, `o=isp` サブツリーを作成しました。(ドメインとコンテナを作成する方法の詳細は、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照)
3. 組織ツリーで、`ou=people`, `o=siroe.com` および `ou=groups`, `o=siroe.com` から `varrius.org` および `siroe.com` のユーザとグループの各コンテナに、ユーザおよびグループのエントリを移動しました。
4. DC ツリーで、`dc=org`, `o=internet` および `dc=varrius`, `dc=org`, `o=internet` というドメインノードを作成しました。
5. ドメインノードエントリ `dc=siroe`, `dc=com`, `o=internet` および `dc=varrius`, `dc=org`, `o=internet` で、属性と値のペア `inetDomainBaseDN: o=siroe.com, o=isp` および `inetDomainBaseDN: o=varrius.org, o=isp` を追加しました。

これで、このネームスペースの構成は **Delegated Administrator** とホストドメインをサポートするようになります。**Delegated Administrator** の機能を追加するには、`imsdaaci` コマンド (移行ツールキットに付属) を実行します。**Delegated Administrator** サービス管理者グループと **Delegated Administrator** ドメイン管理者グループ、および必要な ACI を作成するために使用する LDIF ファイルが生成されます。

```
server_root/bin/msg/migrate/bin/imsdaaci
```

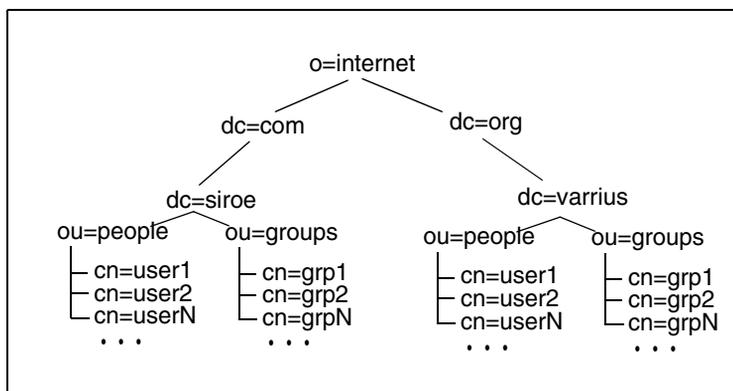
DIT に LDIF ファイルを追加するには、`ldapmodify` を使用します。ACI については、『iPlanet Messaging Server プロビジョニングガイド』を参照してください。

SIMS のディレクトリネームスペースを使用する

`imsdirmig` ユーティリティを実行するだけで、iPlanet Messaging Server とともに SIMS 4.0 の DIT を使用できます。この手順は、SIMS の各種の移行シナリオを取り上げた節で説明しています。

`imsdirmig` は、DC ツリーの各ドメインエントリの `inetDomainBaseDN` 属性をユーザ / グループデータが入っているドメインノードに設定します。この値は、ドメインノードそのものです。次のディレクトリでは、`dc=siroe,dc=com,o=internet` のドメインエントリに `inetDomainBaseDN: dc=siroe,dc=com,o=internet` という属性と値のペアが入ります。`dc=varrius,dc=org,o=internet` のドメインエントリには `inetDomainBaseDN: dc=varrius,dc=org,o=internet` という属性と値のペアが入ります。

図 B-9 SIMS のディレクトリネームスペース



用語集

/var/mail 新しいメールメッセージを順番に単一のフラットテキストファイル内に格納する Berkeley 方式の受信箱を示すために使用される名前。

A レコード (A record) ホスト名および関連付けられた IP アドレスを含む DNS レコードの一種。A レコードは、Messaging Server がインターネット上で電子メールをルーティングするために使用します。ドメイン名システム (DNS)、MX レコードも参照してください。

Administration Server 管理者 (administration server administrator) Directory Server に接続していない場合でも、サーバの起動および停止を行う管理権限を持つユーザ。Administration Server 管理者は、ローカルサーバグループ内のすべてのサーバに対する制限されたサーバタスク (通常はサーバの再起動と停止のみ) を実行できます。Administration Server をインストールすると、この管理者のエントリが自動的にローカルに作成されます (この管理者はユーザディレクトリ内のユーザではありません)。

APOP Authenticated Post Office Protocol の略。POP (Post Office Protocol) に似ていますが、認証にはプレーンテキストによるパスワードではなく、暗号化したパスワードとチャレンジ文字列を使用します。

AUTH SMTP コマンドの 1 つ。SMTP クライアントがサーバに対して認証方法を指定したり、認証プロトコル交換を実行したり、必要に応じて後続プロトコルの相互対話で使用するセキュリティ層をネゴシエートしたりできるようにします。

Berkeley DB 読み取り / 書き込み処理の同時実行が多く、トランザクションと回復可能性が要求されるアプリケーションのための、トランザクション用データベースストア。iPlanet Messaging Server は、さまざまな目的で Berkeley データベースを使用します。

CA 認証局。デジタル証明書 (デジタルの識別子) を発行し、その公開鍵を対象者が広く利用できるようにする組織。

capability クライアントに提供され、特定の IMAP サービスで利用可能な機能を定義する文字列。

cipher 暗号化で使用されるアルゴリズム。

ciphertext (暗号文) 暗号化されたテキスト。**cleartext (平文)** の対語です。

cleartext (平文) 暗号化されていないテキスト。

CLI コマンドラインインタフェースを参照してください。

cn 共通名を表す LDAP エイリアス。

CNAME レコード (CNAME record) ドメイン名のエイリアスをドメイン名にマップする DNS レコードの一種。

Configuration Directory Server 単一サーバまたはサーバのセットの構成情報を保持する Directory Server。

cookie 特定の Web サイトを訪れたときにブラウザのメモリに自動的に入力されるテキストのみの文字列。cookie は、Web ページ作成者によってプログラムされます。ユーザは、cookie を受け入れることも、拒否することもできます。cookie を受け入れると、Web ページを高速に読み込むことができます。ユーザのマシンのセキュリティを脅かすものではありません。

CRAM-MD5 RFC 2195 に記述されている軽量な標準化過程の認証方法。ネットワークでユーザのログインパスワードだけを保護する場合に、TLS (SSL) の代わりに使用できます。TLS より高速ですが、やや強度が落ちます。

cronjob UNIX 専用。指定した時間に cron デーモンによって自動的に実行されるタスク。**crontab ファイル** も参照してください。

crontab ファイル (crontab file) UNIX 専用。指定した時間に自動的に実行されるコマンドのリスト。1 行に 1 つずつ記述されています。

DC ツリー (DC Tree) ドメインコンポーネント (Domain Component) ツリー。DNS ネットワーク構造を反映するディレクトリ情報ツリー。DC ツリー内の識別名は、**cn=billbob,dc=bridge,dc=net,o=internet** のようになります。

Delegated Administration Server ホストドメインによるディレクトリへのアクセス制御を処理するデーモンプログラム。

Delegated Administrator Console Web ブラウザベースのソフトウェアコンソール。ドメイン管理者はこれを使用して、ホストドメインに対してユーザやグループの追加または変更を行うことができます。また、エンドユーザは、これを使用して、自分のパスワードの変更、メッセージ転送規則の設定、Vacation 規則の設定、メールリスト購読の一覧表示などを行うことができます。

Delegated Administrator for Messaging and Collaboration ドメイン管理者がホストドメインに対してユーザやグループの追加または変更を行うために使用する一連のインタフェース (GUI とユーティリティ)。

DIGEST-MD5 CRAM-MD5 より安全で軽量な標準化過程の認証方法。RFC 2831 に記述されています。RFC 2831 には、TLS (SSL) のような設定の手間をかけずに接続全体を保護するオプションも記述されています。

Directory Manager ディレクトリサーバデータベースの管理権限を持つユーザ。アクセス制御はこのユーザには適用されません。Directory Manager はディレクトリのスーパーユーザと考えることができます。

Directory Server LDAP に基づく iPlanet のディレクトリサービス。**ディレクトリサービス**、**Lightweight Directory Access Protocol**、**Configuration Directory Server**、**Users and Groups Directory Server** も参照してください。

DIT **ディレクトリ情報ツリー**を参照してください。

DN **識別名**を参照してください。

dn 識別名のための LDAP エイリアス。**識別名**も参照してください。

DNS **ドメインネームシステム**を参照してください。

DNS エイリアス (DNS alias) DNS サーバが、別のホスト (DNS CNAME レコード) へのポインタとして認識するホスト名。マシンの実際の名前は 1 つだけですが、1 つまたは複数のエイリアスを持つことができます。たとえば、**www.siroe.domain** を現在サーバが置かれている **realthing.siroe.domain** という実際のマシンをポイントするエイリアスとすることができます。

DNS スプーフィング (DNS spoofing) DNS サーバが不正情報を提供するように仕向けるネットワーク攻撃の形態。

DNS データベース (DNS database) ドメイン名 (ホスト名) および対応する IP アドレスのデータベース。

DNS ドメイン (DNS domain) 共通の接尾辞 (ドメイン名) の付いたホスト名を持つコンピュータのグループ。構文的には、ピリオド (ドット) で区切られた一連の名前 (ラベル) から成るインターネットドメイン名です。たとえば **corp.mktng.siroe.com** などです。**ドメイン**も参照してください。

DSN **配信ステータス通知**を参照してください。

dsservd ディレクトリ情報が格納されたデータベースにアクセスし、LDAP プロトコルを使用してディレクトリクライアントと通信するデーモン。

dssetup 既存の Directory Server を iPlanet Messaging Server で使用できるように準備する Directory Server 準備ツール。

EHLO コマンド (EHLO command) サーバが拡張 SMTP コマンドをサポートするかどうかをサーバに照会するための SMTP コマンド。RFC 1869 に定義されています。

ESMTP Extended Simple Mail Transfer Protocol を参照してください。

ESP Enterprise Service Provider (エンタープライズサービスプロバイダ) の略。

ETRN クライアントからサーバに対して、サーバ上でクライアントマシンを待機しているメッセージのメールキューの処理を開始するように要求する SMTP コマンド。RFC 1985 に定義されています。

EXPN メールリストを展開するための SMTP コマンド。RFC 821 に定義されています。

Extended Simple Mail Transfer Protocol (ESMTP) インターネットメッセージ転送プロトコルの一種。ESMTP では、SMTP コマンドセットにオプションのコマンドを追加することで、その機能が拡張されています。ESMTP サーバが、リモートサイトで実装されているコマンドを検出する機能などが含まれます。

facility (機能) Messaging Server ログファイルエントリ内での、ログエントリを生成したソフトウェアサブシステム (ネットワークやアカウントなど) の指定。

FQDN 完全指定ドメイン名を参照してください。

GUI グラフィカルユーザインタフェース。

HA 高可用性を参照してください。

hashdir 特定ユーザのメッセージストアが含まれるディレクトリを調べるためのコマンドラインユーティリティ。

HTTP HyperText Transfer Protocol を参照してください。

HyperText Transfer Protocol (HTTP) Web 上でハイパーテキストドキュメントの転送を可能にするための標準プロトコル。iPlanet Messaging Server は、Web ベースの電子メールをサポートするために HTTP サービスを提供しています。**Messenger Express** も参照してください。

IDENT Identification Protocol を参照してください。

Identification Protocol 特定の TCP 接続のリモート端末を制御するリモートプロセスを識別できるようにするプロトコル。RFC 1413 に定義されています。

IMAP4 Internet Message Access Protocol Version 4 を参照してください。

imsadmin コマンド (imsadmin commands) ドメイン管理者、ユーザ、およびグループを管理するためのコマンドラインユーティリティのセット。

imsimta コマンド (imsimta commands) MTA (Message Transfer Agent) の各種の保守、テスト、管理を行うためのコマンドラインユーティリティのセット。

INBOX メール配信用のユーザのデフォルトメールボックス用に予約されている名前。INBOX は、大文字と小文字が区別されない唯一のフォルダ名です。たとえば、INBOX、Inbox、inbox は、すべてユーザのデフォルトのメールボックスとして有効な名前です。

Internet Message Access Protocol Version 4 (IMAP4) ユーザがメインのメッセージ送信システムから切断された場合でもメールを処理できるようにする標準プロトコル。IMAP 仕様により、切断されたユーザの管理制御が可能になるとともに、メッセージングシステムに再接続したときにユーザのメッセージストアの同期化が可能になります。

IP インターネットプロトコルを参照してください。

IP アドレス (IP address) 198.93.93.10 のような、ドットで区切られた一連の数値で、イントラネットまたはインターネット上でのマシンの実際の場所を示します。TCP/IP を使用するホストには、32 ビットのアドレスが割り当てられます。

iPlanet Setup すべての iPlanet サーバおよび iPlanet Console 用のインストールプログラム。

ISP Internet Service Provider (インターネットサービスプロバイダ) の略。電子メール、電子カレンダー、World Wide Web へのアクセス、Web ホスティングなどのインターネットサービスを顧客に提供する会社です。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol を参照してください。

LDAP Data Interchange Format (LDIF) Directory Server エントリをテキスト形式で表すために使用する形式。

LDAP 検索文字列 (LDAP search string) ディレクトリ検索に使用される属性を定義する、置換可能なパラメータを含む文字列。たとえば、「uid=%s」という LDAP 検索文字列は、検索の基準がユーザ ID 属性であることを意味します。

LDAP サーバ (LDAP Server) LDAP ディレクトリを管理し、そのディレクトリに対する照会サービスを提供するソフトウェアサーバ。iPlanet ディレクトリサービスは LDAP サーバの実装です。

LDAP サーバフェイルオーバー (LDAP server failover) LDAP サーバのバックアップ機能。1 つの LDAP サーバに障害が発生した場合、システムは、別の LDAP サーバに切り替えることができます。

LDAP 転送 (LDAP referrals) 別の LDAP エントリへのシンボリックリンク (転送) から成る LDAP エントリ。LDAP 転送は、LDAP ホストと識別名から構成されます。通常、LDAP 転送は、データをレプリケートしないで、既存の LDAP データを転送するために使用されます。また、移動された特定のエンタリに依存するプログラムの互換性を維持するためにも使用されます。

LDAP フィルタ (LDAP filter) 特定の属性または属性値の有無に基づいて一連のエンタリを指定する方法。

LDBM LDAP Data Base Manager の略。

LDIF LDAP Data Interchange Format を参照してください。

Legato Networker Legato® が提供するサードパーティ製バックアップユーティリティ。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) TCP/IP を介して複数のプラットフォーム上で実行できるように設計されたディレクトリサービスプロトコル。X.500 Directory Access Protocol (DAP) を簡素化したもので、ユーザプロファイル、メールリスト、複数の iPlanet サーバ上の設定データなどの情報の格納、検索、および配布を単一の場所で管理できるようにします。iPlanet Directory Server は、LDAP プロトコルを使用します。

MD5 RSA Data Security によって提供されるメッセージダイジェストアルゴリズム。MD5 を使用すると、一意になる確率が高い短い形式のダイジェストデータを生成できます。同一のメッセージダイジェスト電子メールが生成されるようなデータを作成することは数学的に非常に困難です。

Message Handling System (MHS) 接続されている MTA、ユーザエージェント、およびメッセージストアのグループ。

Message Transfer Agent (MTA) メッセージのルーティングと配信専用のプログラム。複数の MTA が連携してメッセージを転送し、目的の受取人に配信します。MTA は、メッセージをローカルのメッセージストアに配信するのか、リモート配信のために別の MTA にルーティングするのかを決定します。

Messaging Multiplexor (MMP) 複数のメールサーバに対する単一接続ポイントとして機能し、複数のメールボックスホストを利用する多数のユーザへの配信を円滑に行うための特別な iPlanet Messaging Server。

Messaging Server 管理者 (Messaging Server administrator) iPlanet Messaging Server インスタンスのインストールや管理などの権限を持つ管理者。

Messenger Express ユーザがブラウザベース (HTTP) のインタフェースを介してメールボックスにアクセスできるようにするメールクライアント。メッセージ、フォルダ、その他のメールボックス情報は、HTML 形式でブラウザのウィンドウに表示されます。**Web メール**も参照してください。

Messenger Express Multiplexor マルチプレクサとして機能するメッセージングプロキシサーバで、ユーザが iPlanet Messaging Server の HTTP サービス (Messenger Express) に接続できるようにします。Messenger Express Multiplexor を使用すると、複数のサーバマシンにユーザを分散できるようになります。

MHS Message Handling System を参照してください。

MIME Multipurpose Internet Mail Extension を参照してください。

MMP Messaging Multiplexor を参照してください。

MTA Message Transfer Agent を参照してください。

MTA 設定ファイル (MTA configuration file) Messaging Server のすべてのチャンネル定義と、ルーティングのためのアドレス書き換え規則を含むファイル (imta.cnf)。**チャンネル、書き換え規則**も参照してください。

MTA ディレクトリキャッシュ (MTA directory cache) ユーザおよびグループに関するディレクトリサービス情報のスナップショットで、MTA がメッセージを処理するために必要とします。**ディレクトリの同期**も参照してください。

MTA ホップ (MTA hop) MTA 間でメッセージをルーティングする処理。

MUA ユーザエージェントを参照してください。

Multiplexor Messaging Multiplexor を参照してください。

Multipurpose Internet Mail Extension (MIME) 電子メールメッセージ内にマルチメディアアファイルを追加できるようにするために使用されるプロトコル。

MX レコード (MX record) メール交換レコード。ホスト名を別のホスト名にマップする、DNS レコードの一種。

NDN 非配信通知を参照してください。

NOTARY メッセージ (notary messages) RFC 1892 の NOTARY 仕様に準拠した非配信通知 (NDN) および配信ステータス通知 (DSN)。

OSI ツリー (OSI tree) Open Systems Interconnect ネットワーク構造を反映するディレクトリ情報ツリー。OSI ツリー内の識別名は、cn=billt,o=bridge,c=us のようになります。

POP3 Post Office Protocol Version 3 を参照してください。

Post Office Protocol Version 3 (POP3) 標準の配信方法を提供するプロトコル。このプロトコルを使用する場合、MTA (Message Transfer Agent) はユーザのメールフォルダへのアクセス権を持っている必要はありません。アクセス権が不要なことは、メールクライアントと MTA が別のコンピュータに置かれることが多いネットワーク環境で利点となります。

RC2 RSA Data Security によって提供される可変鍵サイズによるブロック暗号化方式。

RC4 RSA Data Security によって提供されるストリーム暗号化方式。RC2 よりも高速に処理できます。

RDN 相対識別名。実際のエントリ自体の名前。この文字列にエントリの祖先を付加すると完全な識別名になります。

RFC Request For Comments の略。1969 年に開始されたドキュメントシリーズで、インターネットの一連のプロトコルと、関連する実験について記述されています。インターネット標準について記述した RFC の数はわずかですが、すべてのインターネット標準が RFC として公開されています。<http://www.imc.org/rfc.html> を参照してください。

SASL Simple Authentication and Security Layer を参照してください。

SCM Service Control Manager を参照してください。

Secure Sockets Layer (SSL) クライアントとサーバの間での安全な接続を確立するソフトウェアライブラリ。

sendmail UNIX マシンで使用される一般的な MTA。ほとんどのアプリケーションでは、sendmail の代わりに iPlanet Messaging Server を使用できます。

Service Control Manager サービスを管理するための Windows NT の管理プログラム。

Sieve メールのフィルタリング言語。

Simple Authentication and Security Layer (SASL) POP、IMAP、または SMTP クライアントがサーバから識別されるようにするためのメカニズムを制御する手段。iPlanet Messaging Server での SMTP SASL の使用は、RFC 2554 (ESMTP AUTH) に準拠しています。SASL は、RFC 2222 に定義されています。

Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) インターネットでもっとも一般的に使用される電子メールプロトコルで、iPlanet Messaging Server でもサポートされています。RFC 821 に定義されています。関連するメッセージ形式は RFC 822 に記述されています。

SIMS Sun Internet Mail Server の略。

SIZE クライアントが特定のメッセージのサイズをサーバに対して宣言できるようにする SMTP 拡張機能。サーバは、宣言されたメッセージサイズに基づいて、メッセージ受信の可否をクライアントに示すことができます。サーバは、受信可能なメッセージの最大サイズをクライアントに宣言できます。RFC 1870 に定義されています。

SMTP Simple Mail Transfer Protocol を参照してください。

SMTP AUTH AUTH を参照してください。

sn 苗字を表すエイリアスディレクトリ属性。

SSL Secure Sockets Layer を参照してください。

SSR サーバ側規則を参照してください。

TCP Transmission Control Protocol を参照してください。

TCP/IP Transmission Control Protocol/Internet Protocol を参照してください。

TLS Transport Layer Security を参照してください。

Transmission Control Protocol (TCP) 2つのホスト間での信頼性の高い接続指向のストリームサービスを提供するインターネットプロトコル群内の基本転送プロトコル。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) インターネットプロトコルで 사용되는複数のネットワークプロトコルの総称。この名前は、トランスポート層のプロトコルである TCP (Transmission Control Protocol) とネットワーク層のプロトコルである IP (Internet Protocol) の2つの主要ネットワークプロトコルを指します。

Transport Layer Security (TLS) SSL を標準化したもの。**Secure Sockets Layer** も参照してください。

UA ユーザエージェントを参照してください。

UBE Unsolicited Bulk Email を参照してください。

UID (1) ユーザ識別子。システムでユーザを識別するための一意の文字列。ユーザ ID とも呼ばれます。(2) ユーザ ID (ログイン名) のエイリアスディレクトリ属性。

Unsolicited Bulk Email (UBE) 一般に宣伝目的でメール送信業者から大量に送信される迷惑メール。

Users and Groups Directory Server (User/Groups Directory Server) 組織内のユーザおよびグループに関する情報を保持する Directory Server。

UUCP UNIX to UNIX Copy Program (UNIX から UNIX へのコピープログラム) の略。UNIX システム間での通信に使用されるプロトコルです。

Veritas Cluster Server iPlanet Messaging Server と統合できる Veritas Software 製の高可用性クラスタリングソフトウェア。

VERFY ユーザ名を確認するための SMTP コマンド。RFC 821 に定義されています。

Web サーバ (Web server) World Wide Web アクセスを提供するために導入されるソフトウェアプログラムまたはサーバコンピュータ。Web サーバは、ユーザからの要求を受け取り、要求されたファイルやアプリケーションを検索し、さらにエラーメッセージを発行します。

Web メール (webmail) ブラウザベースの電子メールサービスを示す一般的な用語。ブラウザベースのクライアントは、多くの処理をサーバに任せるので、「シンクライアント」とも呼ばれ、常にサーバ上に格納されるメールにアクセスします。**Messenger Express** も参照してください。

X.400 メッセージ処理システムの標準。

アカウント (account) 特定のユーザまたはユーザグループを定義する情報。この情報には、ユーザやグループの名前、1 つまたは複数の有効な電子メールアドレス、および電子メールの配信方法と配信先が含まれます。

アクセス制御 (access control) サーバ、またはサーバ上のフォルダやファイルへのアクセスを制御する方法。

アクセス制御規則 (access control rules) 特定のディレクトリエントリまたは属性のセットに対するユーザの権限を指定する規則。

アクセス制御情報 (access control information) ACI。アクセス制御リストの単一の情報項目。

アクセス制御リスト (access control list) ACL。ディレクトリに対するユーザやグループのアクセス権を定義するためにディレクトリに関連付けられた一連のデータ。

アクセスドメイン (access domain) 指定したドメイン内から利用できる Messaging Server 操作を制限します。たとえば、アクセスドメインを使用すると、特定のアカウント宛てのメールを収集できる場所を制限できます。

アドレス (address) 電子メールメッセージの送信先と送信方法を決定するメッセージ内の情報。アドレスはメッセージヘッダーとメッセージエンベロープの両方に表示されます。エンベロープアドレスは、メッセージのルーティング方法と配信方法を決定します。ヘッダーアドレスは表示専用です。

アドレス指定プロトコル (addressing protocol) 電子メールの利用を可能にするアドレス指定規則。RFC 822 は、インターネット上でもっとも幅広く使用されているプロトコルで、iPlanet Messaging Server でサポートされています。その他のプロトコルには、X.400 や UUCP (UNIX to UNIX Copy Protocol) などがあります。

アドレス処理 (address handling) アドレス指定のエラーを検出し、必要に応じてアドレスを書き換え、アドレスと受取人の照合を行うために MTA によって実行される処理。

アドレストークン (address token) 書き換え規則パターン of アドレス要素。

暗号化 (encryption) コードキーを持つ特定の受取人以外には解読できないように情報を隠すプロセス。

安全なファイルシステム (safe file system) システムがクラッシュした場合に、データをクラッシュ前の状態にロールバックし、すべてのデータをリストアできるようにログを記録しているファイルシステム。安全なファイルシステムの例として、Veritas File System (VxFS) などがあります。

一時的な失敗 (transient failure) メッセージ処理中に発生するエラー状態。リモート MTA が、配信時にメッセージを処理できない場合でも、あとで処理可能になることがあります。ローカル MTA は、メッセージをキューに戻し、あとで再転送されるようにスケジューリングします。

インスタンス (instance) 個別に実行可能なサーバの設定、または特定のホスト上にあるその他のソフトウェアエンティティ。インストール済みの 1 組のバイナリファイルから、独立して実行およびアクセスできる、iPlanet サーバの複数のインスタンスを作成できます。

インスタンスディレクトリ (instance directory) サーバの特定のインスタンスを定義するファイルを含むディレクトリ。Messaging Server の場合は、サーバルートのサブディレクトリ (*server-root/msg-instance/*) です。*instance* は、インストール時に指定したサーバの名前です。**インスタンスディレクトリ**、**サーバルート**も参照してください。

インストールディレクトリ (installation directory) サーバのバイナリ (実行可能) ファイルがインストールされるディレクトリ。Messaging Server の場合は、サーバルートのサブディレクトリ (*server-root/bin/msg/*) です。**インスタンスディレクトリ**、**サーバルート**も参照してください。

インターネット (Internet) TCP/IP プロトコルを使用する、世界規模のネットワーク。

インターネットプロトコル (IP) (Internet Protocol) インターネットおよびイントラネットの基礎となる基本ネットワークレイヤープロトコル。

インターネットプロトコルアドレス (internet protocol address) **IP アドレス**を参照してください。

イントラネット (intranet) 企業や組織内における複数の TCP/IP ネットワークからなるネットワーク。イントラネットでは、World Wide Web で使われているものと同種のサーバおよびクライアントソフトウェアを、企業 LAN 上で提供される社内アプリケーションとして使用できます。インターネットと通信するイントラネット上の機密情報は、通常はファイアウォールで保護されます。**ファイアウォール**、**エクストラネット**も参照してください。

永続的な失敗 (permanent failure) メッセージ処理中に発生するエラー状態。この状態が発生すると、メッセージストアは電子メールメッセージのコピーを削除します。MTA はメッセージを差出人に戻し、メッセージのコピーを削除します。

エイリアス (alias) 電子メールアドレスの別名。

エイリアスの参照解除 (dereferencing an alias) バインドまたは検索で、ディレクトリサービスがエイリアス識別名をエントリの実際の識別名に変換するように指定すること。

エイリアスファイル (alias file) ポストマスターエイリアスなど、ディレクトリ内に設定されていないエイリアスを設定するために使用されるファイル。

エクストラネット (extranet) 企業イントラネットで顧客や供給業者がアクセスできる部分。**イントラネット**も参照してください。

エクспанダ (expander) メッセージをアドレスのリストに配信できるようにする、電子メール配信システムの一部。メールエクспанダは、メーリングリストを実装するために使用されます。ユーザが1つのアドレス (hacks@somehost.edu など) にメッセージを送信すると、メールエクспанダがリスト内のメールボックスへの配信を行います。メールエクスプロダとも呼ばれます。**EXPN**も参照してください。

エクスパンド (expansion) この用語は、MTA によるメールリストの処理で使用されます。メールリスト宛てのメッセージを、各メールリストのメンバーに必要な数のコピーに変換することです。

エラーハンドラ (error handler) エラーを処理するプログラム。Messaging Server では、エラーメッセージを発行し、ポストマスターが入力したエラーアクションフォームを処理します。

エラーハンドラアクションフォーム (Error-Handler Action form) Messaging Server が処理できない受信メッセージとともにポストマスターアカウントに送信されるフォーム。ポストマスターは、フォームに入力して、メッセージの処理方法をサーバに指示します。

エラーメッセージ (error message) エラーまたはその他の状況を報告するメッセージ。iPlanet Messaging Server は、処理できない電子メールメッセージを受け取った場合など、さまざまな状況でメッセージを生成します。また、情報の通知だけを目的とする通知エラーと呼ばれるメッセージもあります。

エンタープライズネットワーク (enterprise network) 地理的に分散している相互接続されたネットワークの集合で構成されるネットワーク。エンタープライズネットワークは、広範囲に分散している企業のニーズを満たすもので、企業のミッションクリティカルなアプリケーションで使用されます。

エンベロープ (envelope) 電子メールメッセージの差出人と受取人に関する情報を転送するためのコンテナ。これらの情報は、メッセージヘッダーには含まれません。エンベロープは、さまざまな電子メールプログラムで、メッセージを別の場所に移動するときに使用します。ユーザには、メッセージのヘッダーと本文だけが表示されます。

エンベロープフィールド (envelope field) メッセージエンベロープ内の名前付きの情報項目。RCPT TO などがあります。

オブジェクトクラス (object class) エントリが記述するオブジェクトの種類と、そのエントリに含まれる属性のセットを指定するテンプレート。たとえば、iPlanet Directory Server では、commonname、mail (電子メールアドレス)、mailHost、mailQuota などの属性を持つ emailPerson オブジェクトクラスが指定されます。

オフライン状態 (off-line state) メールクライアントがサーバシステムからクライアントシステムにメッセージをダウンロードして、メッセージの表示や返信の作成ができる状態。サーバ上のメッセージは、削除される場合と削除されない場合があります。

オンライン状態 (online state) メッセージをサーバ上に残したまま、メールクライアントがリモートから返信する状態。

書き換え規則 (rewrite rules) ドメイン書き換え規則とも呼ばれます。MTA が配信メッセージを正しいホストにルーティングするために使用するツールです。書き換え規則には、以下の機能があります。(1) 受信メッセージのアドレスからホストまたはドメインの仕様を抽出する。(2) ホストまたはドメイン仕様を書き換え規則のパターンと照合する。(3) ドメインテンプレートに基づいてホストまたはドメイン仕様を書き換える。(4) メッセージを置くチャネルキューを決定する。

鍵データベース (key database) サーバの証明書用の鍵のペアを含むファイル。鍵ファイルとも呼ばれます。

仮想ドメイン (virtual domain) (1) ISP ホストドメイン。(2) Messaging Multiplexor によってクライアントのユーザ ID に追加されるドメイン名。LDAP 検索やメールボックスサーバへのログインで使用します。**ドメイン**、**ホストドメイン**も参照してください。

完全指定ドメイン名 (FQDN) (fully-qualified domain name) 特定のインターネットホストを識別する一意の名前。**ドメイン名**も参照してください。

管理権限 (administration privileges) ユーザ管理の役割を定義する一連の権限。

管理コンソール (administration console) **コンソール**を参照してください。

管理者 (administrator) 定義済みの一連の管理権限を持つユーザ。**構成管理者**、**Directory Manager**、**Administration Server 管理者**、**サーバ管理者**、**メッセージストア管理者**、**トップレベル管理者**、**ドメイン管理者**、**組織管理者**、**ファミリーグループ管理者**、**メールリスト所有者**も参照してください。

管理対象オブジェクト (managed object) 設定可能な属性の集まり。たとえば、ディレクトリサービスの属性の集まりです。

管理ドメイン (administration domain) 管理制御の対象範囲。**ドメイン**も参照してください。

キュー (queue) **メッセージキュー**を参照してください。

共有フォルダ (shared folder) 複数のユーザが読み取り可能なフォルダ。共有フォルダに対しては所有者が指定されます。所有者は、フォルダに対する読み取りアクセス権を指定したり、共有フォルダからメッセージを削除したりできます。共有フォルダにはモデレータを指定することもできます。モデレータは、受信メッセージの編集、ブロック、転送などを行うことができます。共有できるのは IMAP フォルダだけです。**個人用フォルダ**も参照してください。

許可フィルタ (Allow filter) Messaging Server のアクセス制御規則の 1 つ。POP、IMAP、HTTP の 1 つ以上のサービスへのアクセスを許可するクライアントを指定します。**拒否フィルタ**も参照してください。

拒否フィルタ (Deny filter) Messaging Server のアクセス制御規則の 1 つ。POP、IMAP、HTTP の 1 つ以上のサービスへのアクセスを拒否するクライアントを指定します。**許可フィルタ**も参照してください。

クライアント (client) サーバにサービスまたは情報を要求するソフトウェアエンティティ。

クライアントサーバモデル (client-server model) ネットワーク接続されたコンピュータがほかのクライアントコンピュータに特定のサービスを提供する処理モデル。例として、DNS のネームサーバとネームリゾルバのパラダイム、NFS やディスクレスホストなどのファイルサーバとファイルクライアントの関係などがあります。

クラスパス (class path) サブレットエンジンとサブレットテンプレートを実行するために必要なディレクトリおよび .jar ファイルへのパス。

グリーティングフォーム (greeting form) ユーザのアカウントが作成されたときにユーザに送信されるメッセージ。このフォームは、新しいアカウントを確認し、その内容を検証するために使用されます。

グループ (group) 識別名によって編成された LDAP メールエントリのグループ。通常は、メールリストとして使用されますが、グループのメンバーに特定の管理権限を与えるために使用される場合もあります。**動的グループ**、**静的グループ**も参照してください。

グループフォルダ (group folders) これらのフォルダには、共有フォルダとグループフォルダが含まれます。**共有フォルダ**も参照してください。

ゲートウェイ (gateway) ゲートウェイおよびアプリケーションゲートウェイという用語は、1つのネイティブフォーマットから別のフォーマットへの変換を行うシステムを指します。例として、X.400とRFC 822間の送受信を行う電子メールゲートウェイがあります。複数の電子メールシステム(特に、2つの異なるネットワーク上の類似性のないメールシステム)を接続し、その間でメッセージを転送するマシンです。マッピングと変換は複雑になることもあり、一般的に、あるシステムからメッセージを完全に受け取ってから適切な変換を行なって次のシステムに送信するようなストアアンドフォワードのしくみが必要です。

検索ベース (search base) ベース DN を参照してください。

公開鍵暗号化 (public key encryption) 公開コンポーネントと非公開コンポーネントの2つの部分から構成される鍵(コード)を使用する暗号化方式。メッセージの暗号化には、受取人の公開鍵が使われます。メッセージを解読するには、受取人だけが知っている受取人の非公開の鍵を使用します。

高可用性 (High Availability) サービスの中断を検出できるようにし、システム障害やプロセス失敗時の回復メカニズムを提供します。さらに、一次システムに障害が発生した場合には、バックアップシステムがサービスを引き継ぐことができるようにします。

構成管理者 (configuration administrator) iPlanet トポロジ全体のサーバおよび構成ディレクトリデータの管理権限を持つユーザ。構成管理者は、iPlanet トポロジ内のすべてのリソースに無制限にアクセスできます。ほかの管理者にサーバアクセス権を割り当てることができる唯一の管理者です。構成管理者は、管理者グループとそのメンバーが配置されるまで初期の管理構成を管理します。

個人用フォルダ (personal folder) 所有者だけが読み取り可能なフォルダ。**共有フォルダ**も参照してください。

コマンドラインインタフェース (command line interface) コマンドラインから実行できるコマンド。ユーティリティとも呼ばれます。

コメント文字 (comment character) 行の最初に配置することで、その行を実行されないコメントに変換する文字。

コンソール (Console) 多くの iPlanet コンポーネントの設定、監視、管理、およびトラブルシューティングを行うことができる GUI(グラフィカルユーザインタフェース)。

サーバインスタンス (server instance) インストールされた特定のサーバソフトウェアを表す、ディレクトリ、プログラム、およびユーティリティ。

サーバ側規則 (SSR) (server side rules) サーバ側でメールをフィルタリングできるようにする規則のセット。Sieve メールフィルタリング言語に基づいています。

サーバ管理者 (server administrator) サーバ管理タスクを実行するユーザ。サーバ管理者は、タスク ACI に基づいて、特定のサーバのタスクに制限付きのアクセス権を提供します。構成管理者が、ユーザにサーバへのアクセス権を割り当てる必要があります。サーバへのアクセス権を与えられたユーザは、サーバ管理者となり、サーバへのアクセス権をほかのユーザに与えることができます。

サーバルート (server root) 特定のホスト上にある Administration Server に関連付けられたすべての iPlanet サーバがインストールされているディレクトリ。通常、*server-root* と記述します。インストールディレクトリ、インスタンスディレクトリも参照してください。

サービス (service) (1) サーバが提供する機能。たとえば、iPlanet Messaging Server は、SMTP、POP、IMAP、HTTP などのサービスを提供します。(2) ユーザインタフェースを持たない Windows NT のバックグラウンドプロセス。iPlanet サーバは、Windows NT プラットフォーム上ではサービスとして稼働します。UNIX プラットフォーム上のデーモンと同じです。

サービス拒否攻撃 (denial of service attack) 個人が意図的にまたは誤ってメッセージを大量に送信したために、メールサーバが処理不能になる状態。サーバのスループットに著しい悪影響を与えたり、サーバ自体が過負荷状態になって機能しなくなることがあります。

サーブレット (servlet) Web サーバがクライアントの要求に応じてコンテンツを生成するために実行するサーバ側の Java プログラム。サーブレットは、サーバ側で実行されますが、ユーザインタフェースを使用しないという点でアプレットに似ています。

再組立 (defragmentation) MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) の機能で、大きいサイズのメッセージが小さなメッセージ (断片) に分割された場合に、そのメッセージを再現します。各断片の Message Partial Content-Type ヘッダーフィールドには、断片を 1 つのメッセージに再組立するために使用する情報が含まれています。断片化も参照してください。

サブドメイン (subdomain) ドメインの一部。たとえば、corp.siroe.com というドメイン名では、corp は、ドメイン siroe.com のサブドメインを示します。ホスト名、完全指定ドメイン名も参照してください。

サブネット (subnet) ホスト ID のブロックを識別する IP アドレスの一部分。

参照 (referral) Directory Server が、情報要求を送信したクライアントに対し、そのクライアントが通信する必要がある DSA (Directory Service Agent) に関する情報とともに情報要求を返すプロセス。知識情報も参照してください。

識別名 (distinguished name) ディレクトリ情報ツリー内のエントリの位置を一意に指定する、カンマで区切られた一連の属性と値。通常、DN と略記されます。

自動返信オプションファイル (autoreply option file) Vacation 通知ファイルなどの自動返信オプションを設定するために使用するファイル。

自動返信ユーティリティ (AutoReply utility) 自動返信機能が有効になっているアカウント宛てに送信されたメッセージに対し、自動的に返信するためのユーティリティ。iPlanet Messaging Server 内のすべてのアカウントは、受信メッセージに対して自動的に返信するように設定できます。

従属参照 (subordinate reference) ディレクトリサーバによって保持される名前付きコンテキストの子の名前付きコンテキスト。**知識情報**も参照してください。

上位参照 (upper reference) ディレクトリ情報ツリー (DIT) 内で、ディレクトリサーバの名前付きコンテキストの上位にある名前付きコンテキストを保持するディレクトリサーバを示します。

使用可能な属性 (allowed attributes) 特定のオブジェクトクラスを使用するエントリについて指定できるが、必須ではない属性。**属性、必須の属性**も参照してください。

証明書データベース (certificate database) サーバのデジタル証明書 (1 つまたは複数) が含まれているファイル。証明書ファイルとも呼ばれます。

証明書に基づく認証 (certificate-based authentication) クライアントが提供したデジタル証明書によるユーザの識別。**パスワード認証**も参照してください。

証明書名 (certificate name) 証明書とその所有者を特定する名前。

ジョブコントローラ (Job Controller) ほかのさまざまな MTA コンポーネントの要求に応じてタスクをスケジュールおよび実行する MTA コンポーネント。

シングルサインオン (single sign-on) ユーザを一度認証するだけで、複数のサービス (メール、ディレクトリ、ファイルサービスなど) にアクセスできるようにする機能。

スキーマ (schema) iPlanet Directory Server 内にエントリとして格納できる情報のタイプの定義 (構造と構文を含む)。スキーマと一致しない情報がディレクトリに格納されていると、ディレクトリにアクセスするクライアントが適切な結果を表示できない場合があります。

スプーフィング (spoofing) ネットワーク攻撃の形態の 1 つで、サーバにアクセスまたはメッセージを送信しようとしているクライアントに、不正なホスト名を使用させること。

スマートホスト (smart host) ほかのメールサーバが受取人を認識できない場合に、メッセージの転送先となる、ドメイン内のメールサーバ。

スレーブチャネルプログラム (slave channel program) リモートシステムによって開始された転送を受け入れるチャネルプログラム。**マスターチャネルプログラム**も参照してください。

スレッド (thread) プロセス内の小さな実行インスタンス。

正規表現 (regular expression) パターンマッチングのために、文字の範囲またはクラスを表す特殊文字を使った文字列。

静的グループ (static group) 各グループメンバーを列挙することにより静的に定義されたメールグループ。**動的グループ**も参照してください。

セキュリティモジュールデータベース (security-module database) SSL 暗号化方式用のハードウェアアクセラレータを記述する情報を含むファイル。secmod と呼ばれます。

セッション (session) クライアントサーバ接続のインスタンス。

切断状態 (disconnected state) メールクライアントはサーバに接続し、選択したメッセージのキャッシュコピーを作成してからサーバとの接続を切断します。

設定ファイル (configuration file) iPlanet Messaging システムの特定のコンポーネントに対する設定パラメータが含まれているファイル。

相対識別名 (relative distinguished name) RDN を参照してください。

属性 (attributes) LDAP データは、属性と値のペアとして表されます。個々の情報は、記述属性に関連付けられています。**使用可能な属性、必須の属性**も参照してください。

組織管理者 (organization administrator) Delegated Administrator for Messaging and Collaboration の GUI または CLI を使用して、組織またはサブ組織内のメールユーザとメールリストの作成、変更、および削除を行う管理権限を持つユーザ。

代替アドレス (alternate address) アカウントの二次的なアドレス。通常はプライマリアドレスを変化させたものです。1つのアカウントに複数のアドレスがあると便利な場合があります。

単一フィールド置換文字列 (single field substitution string) 書き換え規則において、ホストまたはドメインアドレスの指定アドレストークンを動的に書き換えるドメインテンプレートの一部分。**ドメインテンプレート**も参照してください。

断片化 (fragmentation) 大きなメッセージを複数の小さなメッセージに分割できるようにする Multiple Internet Mail Extensions (MIME) 機能。**再組立**も参照してください。

知識情報 (knowledge information) ディレクトリサービスインフラストラクチャ情報の一部。Directory Server は、知識情報を使用して、情報要求をほかのサーバに渡します。

チャンネル (channel) メッセージを処理する基本的な MTA コンポーネント。チャンネルは、別のコンピュータシステムまたはシステムグループとの接続を表します。各チャンネルは、1つまたは複数のチャンネルプログラムと1つの送信メッセージキューから構成されます。送信メッセージキューには、そのチャンネルに関連付けられている1つまたは複数のシステム宛てのメッセージが格納されます。**チャンネルブロック、チャンネルホストテーブル、チャンネルプログラム**も参照してください。

チャンネルプログラム (channel program) 次の機能を実行するチャンネルの一部。(1) メッセージをリモートシステムに送信し、送信後にメッセージをキューから削除する。(2) リモートシステムからメッセージを受信して適切なチャンネルキューに置く。**マスターチャンネルプログラム**、**スレーブチャンネルプログラム**も参照してください。

チャンネルブロック (channel block) 単一のチャンネル定義。**チャンネルホストテーブル**も参照してください。

チャンネルホストテーブル (channel host table) チャンネル定義のセット。

通知メッセージ (notification message) Messaging Server によって送信されるメッセージの一種で、メッセージ配信処理のステータスと、配信に関する問題や障害の理由などを知らせます。このメッセージは、情報提供を目的とし、ポストマスターに対してアクションを要求するものではありません。**配信ステータス通知**も参照してください。

次のホップリスト (next-hop list) メール経路で、メッセージの転送先を判別するために使用される近接システムのリスト。次のホップリスト内のシステムの順序によって、メール経路内でシステムにメッセージが転送される順序が決まります。

データストア (data store) ディレクトリ情報の保存場所。通常はディレクトリ情報ツリー全体の情報が含まれます。

デーモン (daemon) 端末から独立してバックグラウンドで動作し、必要に応じて機能を実行する UNIX プログラム。デーモンプログラムの一般的な例として、メールハンドラ、ライセンスサーバ、印刷デーモンなどがあります。Windows NT マシンの場合、この種のプログラムはサービスと呼ばれます。**サービス**も参照してください。

ディスパッチャ (Dispatcher) 定義済み TCP ポートへの接続要求を処理する MTA コンポーネント。ディスパッチャは、複数のマルチスレッドサーバが特定のサービスを分担できるようにするマルチスレッド接続ディスパッチエージェントです。ディスパッチャを使用すると、複数のマルチスレッド SMTP サーバプロセスを同時に実行できるようになります。

ディレクトリエントリ (directory entry) 識別名で特定されるディレクトリ属性とその値のセット。各エントリには、エントリが記述するオブジェクトの種類を指定し、エントリに含まれる属性のセットを定義するオブジェクトクラス属性が含まれています。

ディレクトリ検索 (directory lookup) ユーザやリソースの名前またはその他の特性を基準として、ディレクトリ内で特定のユーザやリソースに関する情報を検索するプロセス。

ディレクトリコンテキスト (directory context) メッセージストアへのアクセスに対して、ユーザとパスワードの認証に使用するエントリの検索を開始するディレクトリツリー情報内のポイント。**ベース DN**も参照してください。

ディレクトリサービス (directory service) 組織内の人材とリソースに関する、論理的に集中化された情報のリポジトリ。 **Lightweight Directory Access Protocol** も参照してください。

ディレクトリ情報ツリー (directory information tree) ディレクトリエントリを編成する、ツリー状の階層構造。DIT とも呼ばれます。DIT は DNS (DC ツリー) または Open Systems Interconnect ネットワーク (OSI ツリー) に従って編成できます。

ディレクトリスキーマ (directory schema) ディレクトリに保存できるデータを定義する一連の規則。

ディレクトリ同期 (directory synchronization) MTA ディレクトリキャッシュをディレクトリサービスに保存された現在のディレクトリ情報で更新 (同期化) するプロセス。 **MTA ディレクトリキャッシュ** も参照してください。

転送 (forwarding) **メッセージの転送** を参照してください。

転送プロトコル (transport protocols) SMTP や X.400 など、MTA 間でのメッセージ転送手段を提供するプロトコル。

統一メッセージング (unified messaging) 電子メール、ボイスメール、FAX、およびその他の通信形態に関して単一のメッセージストアを使用するという概念。 **iPlanet Messaging Server** では、完全な統一メッセージングソリューションの基盤を提供します。

同期 (synchronization) (1) マスターディレクトリサーバのデータによる複製ディレクトリサーバのデータの更新。(2) MTA ディレクトリキャッシュの更新。

動的グループ (dynamic group) LDAP 検索 URL で定義されるメールグループ。通常、ユーザはディレクトリエントリ内で LDAP 属性を設定することによってグループに参加します。

ドキュメントルート (document root) **iPlanet Web Server** にアクセスするユーザに対して表示されるファイル、イメージ、データを含むサーバマシン上のディレクトリ。

トップレベル管理者 (top-level administrator) **Delegated Administrator for Messaging and Collaboration** の GUI または CLI を使用して、**Messaging Server** ネームスペース全体のメールユーザ、メールリスト、ファミリーアカウント、およびドメインの作成、変更、および削除を行う管理権限を持つユーザ。デフォルトでは、このユーザは、トポロジ内のすべての **Messaging Server** のメッセージストア管理者として作業することができます。

ドメイン (domain) 単一のコンピュータシステムの制御下にあるリソース。 **管理ドメイン**、**DNS ドメイン**、**ホストドメイン**、**仮想ドメイン** も参照してください。

ドメインエイリアス (domain alias) 別のドメインを指すドメインエントリ。ホストドメインはエイリアスを使用することにより、複数のドメイン名を持つことができます。

ドメイン書き換え規則 (domain rewrite rules) **書き換え規則**を参照してください。

ドメイン管理者 (domain administrator) Delegated Administrator for Messaging and Collaboration の GUI または CLI を使用して、ホストドメイン内のメールユーザ、メールリスト、およびファミリーアカウントの作成、変更、および削除を行うための管理権限を持つユーザ。デフォルトでは、このユーザは、トポロジ内のすべての Messaging Server のメッセージストア管理者として作業することができます。

ドメイン制限容量 (domain quota) 電子メールメッセージ用にドメインに割り当てられる容量で、システム管理者によって設定されます。

ドメイン組織 (domain organization) 組織ツリー内でホストドメインの下にあるサブドメイン。ドメイン組織は、企業内でユーザとグループのエントリを部門別に編成する場合に有用です。

ドメインテンプレート (domain template) 書き換え規則の一部で、アドレスのホスト部分とドメイン部分の書き換え方法を定義します。テンプレートは、完全に静的なホストアドレスおよびドメインアドレス、または単一フィールド置換文字列、あるいはその両方を含む場合があります。

ドメインネームシステム (DNS) (Domain Name System) コンピュータが、ネットワークまたはインターネット上のほかのコンピュータをドメイン名で見つけることができるようにする分散型名前解決ソフトウェア。システムは、標準 IP アドレスをホスト名 (www.siroe.com など) に関連付けます。通常、各マシンはこの情報を DNS サーバから取得します。DNS サーバは、ホスト名をインターネットアドレスに変換するための、複製された分散型のデータ照会サービスを提供します。**A レコード**、**MX レコード**、**CNAME レコード**も参照してください。

ドメイン部分 (domain part) 電子メールアドレスの @ 記号の右側にある部分。たとえば、siroe.com は、電子メールアドレス dan@siroe.com のドメイン部分です。

ドメインホスティング (domain hosting) 共有 Messaging Server 上で 1 つまたは複数のドメインをホストする機能。たとえば、siroe.com と sesta.org の両方のドメインを siroe.net メールサーバ上でホストできます。ユーザは、ホストドメインとの間でメールの送受信を行います。メールサーバの名前は、電子メールアドレスには表示されません。

ドメイン名 (domain name) (1) 電子メールアドレス内で使用されるホスト名。(2) 管理組織を定義する一意の名前。ドメインにはほかのドメインを含めることができます。ドメイン名は右から左の方向に解釈されます。たとえば、siroe.com は、Siroe Company のドメイン名であり、かつトップレベルの com ドメインのサブドメインです。siroe.com ドメインをさらに corp.siroe.com などのサブドメインに分割することもできます。**ホスト名**、**完全指定ドメイン名**も参照してください。

名前解決 (name resolution) IP アドレスを対応する名前にマップするプロセス。DNS も参照してください。

名前付きコンテキスト (naming context) DNによって識別されるディレクトリ情報ツリーの特定の接尾辞。iPlanet Directory Serverでは、特定のタイプのディレクトリ情報が名前付きコンテキストに格納されます。たとえば、Siroe CorporationのBostonオフィスのマーケティング部門の社員すべてのエントリを格納する名前付きコンテキストは、ou=mktg, ou=Boston, o=siroe, c=USのようになります。

名前付き属性 (naming attribute) ディレクトリ情報ツリーの識別名の最後の属性。相対識別名も参照してください。

認証 (authentication) (1) iPlanet Messaging Server に対し、クライアントユーザであることを立証するプロセス。(2) クライアントまたは別のサーバに対し、iPlanet Messaging Server であることを立証するプロセス。

認証局 (Certificate Authority) CA を参照してください。

認証証明書 (authentication certificate) 相手を検証および認証するために、サーバからクライアント、またはクライアントからサーバに送信されるデジタルファイル。証明書は、その所有者(クライアントまたはサーバ)の信頼性を保証します。証明書は譲渡できません。

ネームスペース (namespace) LDAP ディレクトリのツリー構造。ディレクトリ情報ツリーも参照してください。

ネットワークマネージャ (network manager) SNMP データの読み取り、フォーマット、および表示を行うプログラム。SNMP クライアントとも呼ばれます。

ノード (node) DIT 内のエントリ。

パーティション (partition) メッセージストアパーティションを参照してください。

配信 (delivery) メッセージの配信を参照してください。

配信ステータス通知 (delivery status notification) 受取人に配信中のメッセージに関するステータス情報を示すメッセージ。たとえば、ネットワークが停止したために配信が遅れていることを知らせるメッセージなどがあります。

配布リスト (distribution list) メールリストを参照してください。

配布リスト所有者 (distribution list owner) メールリスト所有者を参照してください。

バインド DN (bind DN) 操作実行時に Directory Server に対する認証に使用される識別名。

パスワード認証 (password authentication) ユーザ名とパスワードによるユーザの識別。証明書に基づく認証も参照してください。

パターン (pattern) 許可フィルタや拒否フィルタなどで、マッチングのために使用される文字列表現。

バックアップ (backup) メッセージストアのフォルダの内容をバックアップデバイスにバックアップするプロセス。リストアも参照してください。

バックエンドサーバ (backend server) 電子メールメッセージの保管と取り出しの機能だけを持つ電子メールサーバ。メッセージストアサーバとも呼ばれます。

バックボーン (backbone) 分散システムの主要な接続メカニズム。バックボーン上の中間システムに接続するすべてのシステムは、相互に接続されます。バックボーンがある場合でも、コスト、パフォーマンス、セキュリティなどの理由から、バックボーンを迂回するようにシステムを設定することができます。

バニティドメイン (vanity domain) 特定のサーバまたはホストドメインではなく、個別のユーザに関連付けられているドメイン名。MailAlternateAddress 属性を使用して指定されます。バニティドメインのドメイン名には LDAP エントリが含まれません。バニティドメインは、個人または小さな組織が、独自のホストドメインを持つための管理負担をかけずに、カスタマイズしたドメイン名を使用する場合に便利です。カスタムドメインとも呼ばれます。

ハブ (hub) システムの単一接続ポイントとして機能するホスト。たとえば、2つのネットワークがファイアウォールで分離されている場合は、しばしばファイアウォールコンピュータがメールハブとして機能します。

必須の属性 (required attributes) 特定のオブジェクトクラスを使用するエンタリ内に存在する必要がある属性。使用可能な属性、属性も参照してください。

非配信通知 (nondelivery notification) メッセージ転送中に、アドレスパターンと書き換え規則の間に一致するものが見つからない場合、MTA は、オリジナルのメッセージとともに非配信レポートを差出人に返します。

ファイアウォール (firewall) ネットワーク構成の1つで、通常はハードウェアおよびソフトウェアの両方を使用して、組織内のネットワーク接続されたコンピュータと組織外のコンピュータの間の防護壁を構成します。一般に、ファイアウォールは物理的な建物または組織のサイト内にある、ネットワークの電子メール、ディスカッショングループ、データファイルなどの情報を保護するために使用されます。

ファミリーグループ管理者 (family group administrator) ファミリーグループ内のファミリーメンバーの追加と削除を行う管理権限を持つユーザ。このユーザは、グループのほかのメンバーに管理アクセス権を与えることができます。

フェイルオーバー (failover) 冗長バックアップを提供するために、あるシステムから別のシステムにコンピュータサービスを自動転送すること。

フォルダ (folder) メッセージの名前付きのコレクション。フォルダにはほかのフォルダを含めることができます。メールボックスとも呼ばれます。**個人用フォルダ**、**共有フォルダ**、**INBOX** も参照してください。

複製ディレクトリサーバ (replica directory server) データのすべてまたは一部のコピーを受信するディレクトリ。

輻輳しきい値 (congestion thresholds) システム管理者が設定できるディスク容量の上限。システムリソースが不足しているときに新しい操作を制限することによって、データベースへの過重負荷を防ぐことができます。

プレーンテキスト (plaintext) データの転送方法を表します。意味は状況によって異なります。たとえば、SSL のプレーンテキストパスワードは暗号化され、**cleartext** (平文) としては送信されません。SASL では、プレーンテキストパスワードはハッシュされ、パスワードのハッシュだけがテキストとして送信されます。**SSL**、**SASL** も参照してください。

プレーンテキスト認証 (plaintext authentication) **パスワード認証**を参照してください。

プロキシ (proxy) 1 つのシステムが別のシステムの代理でプロトコルの要求に応答するメカニズム。プロキシシステムをネットワーク管理で使用すると、モデムなどの単純なデバイスに完全なプロトコルスタックを実装する必要がなくなります。

プロセス (process) オペレーティングシステムによって設定される、独立して完全に機能する実行環境。通常、アプリケーションの各インスタンスは個別のプロセスで実行されません。**スレッド**も参照してください。

プロトコル (protocol) 情報を交換する 2 つ以上のシステムが従う必要がある規則と、交換されるメッセージに関する公式の記述。

プロビジョニング (provisioning) iPlanet Directory Server のエントリを追加、変更、または削除するプロセス。これらのエントリには、ユーザ、グループ、およびドメイン情報が含まれます。

ベース DN (base DN) 検索が開始されるディレクトリ内の識別名エントリ。検索ベースとも呼ばれます。たとえば、**ou=people, o=sirroe.com** などで。

ヘッダー (header) 電子メールメッセージで本文の前にある部分。ヘッダー内では、フィールド名のあとにコロンと値が続きます。ヘッダーには、電子メールプログラムとユーザにとって、メッセージが意味をなすようにするために有用な情報が含まれます。たとえば、配信情報、内容の概要、トレース、MIME 情報などが含まれます。これらは、メッセージの受取人、差出人、送信日時、内容を示します。ヘッダーは、電子メールプログラムが読み取れるように RFC 822 に従って記述されている必要があります。

ヘッダーフィールド (header field) メッセージヘッダー内の名前付きの情報項目。From:、To: などがあります。ヘッダー行と呼ばれることもあります。

ポート番号 (port number) ホストマシン上の個々の TCP/IP アプリケーションを指定する番号。転送されたデータの宛先を提供します。

ホスト (host) 1つ以上のサーバが置かれているマシン。

ホストドメイン (hosted domain) ISP にアウトソースされた電子メールドメイン。ISP は、企業の電子メールドメインのホスティングを提供し、その企業の電子メールサービスの運営および管理を行います。ホストドメインは、ほかのホストドメインと同一の Messaging Server ホストを共有します。初期の LDAP ベースの電子メールシステムでは、1つのドメインが1つまたは複数の電子メールサーバホストによってサポートされていました。Messaging Server では、複数のドメインを単一のサーバ上でホストできます。各ホストドメインには、そのドメインのユーザとグループのコンテナを指す LDAP エントリがあります。ホストドメインは、仮想ホストドメインまたは仮想ドメインとも呼ばれます。**ドメイン**、**仮想ドメイン**も参照してください。

ポストマスターアカウント (postmaster account) Messaging Server からのシステム生成メッセージを受信する電子メールグループおよび電子メールアドレスのエイリアス。ポストマスターアカウントには、1つ以上の有効なメールボックスを指定する必要があります。

ホスト名 (host name) ドメイン内の特定マシンの名前。ホスト名は、IP ホスト名です。IP ホスト名としては、「短縮形」のホスト名 (mail など) または完全指定ホスト名が使用されます。完全指定ホスト名は、ホスト名とドメイン名の2つの部分から構成されます。たとえば、mail.siroe.com は、ドメイン siroe.com 内のマシン mail を表します。ホスト名は、ドメイン内で一意にする必要があります。組織内の異なるサブドメイン内にある場合は、複数のマシンに mail という名前を付けることができます。たとえば、mail.corp.siroe.com と mail.field.siroe.com を使用できます。ホスト名は、常に、特定の IP アドレスにマップされます。**ドメイン名**、**完全指定ドメイン名**、**IP アドレス**も参照してください。

ホスト名の非表示 (host name hiding) 特定の内部ホスト名を含まないドメインベースの電子メールのアドレスを使用すること。

ホップ (hop) 2台のコンピュータ間での転送。

本文 (body) 電子メールメッセージの一部分。ヘッダーとエンベロープは標準書式に従う必要がありますが、メッセージの本文は、テキスト、グラフィックス、マルチメディアなどを使って差出人が自由に作成できます。構造化された本文は MIME 標準に従う必要があります。

マスターチャネルプログラム (master channel program) リモートシステムへの転送を開始するチャネルプログラム。**スレーブチャネルプログラム**も参照してください。

マスターディレクトリサーバ (master directory server) 複製されるデータを含むディレクトリサーバ。

見出し (banner) クライアントがはじめて接続したときに IMAP などのサービスによって表示されるテキスト文字列。

無効なユーザ (invalid user) メッセージ処理中に発生するエラー状態。この状態が発生すると、メッセージストアは、MTA と通信して、メッセージのコピーを削除します。MTA はメッセージを差出人に戻し、メッセージのコピーを削除します。

メーリングリスト (mailing list) メールリストを参照してください。

メーリングリスト所有者 (mailing list owner) メールリスト所有者を参照してください。

メールクライアント (mail client) ユーザが電子メールを送受信する際に利用するプログラム。さまざまなネットワークやメールプログラムの一部で、ユーザがもっとも頻繁に使用する部分です。メールクライアントは、配信するメッセージを作成して送信し、新たに受信したメールを確認し、受信メールを受理して整理します。

メール交換レコード (mail exchange record) MX レコードを参照してください。

メールボックス (mailbox) メッセージの格納と表示を行う場所。**フォルダ**も参照してください。

メールリスト (mail list) 電子メールアドレスのリスト。メールリストのアドレスを指定することによってそれらの電子メールアドレス宛てにメッセージを送信できます。グループと呼ばれることもあります。

メールリスト所有者 (mail list owner) メールリストのメンバーの追加と削除を行う管理権限を持つユーザ。

メールリレー (mail relay) MUA または MTA からのメールを受け取り、そのメールを受取人のメッセージストアや別のルーターに中継するメールサーバ。

メールルーター (mail router) メールリレーを参照してください。

メッセージ (message) 電子メールの基本単位。メッセージは、ヘッダーと本文で構成され、多くの場合、差出人から受取人に転送される間はエンベロープに格納されます。

メッセージアクセスサービス (message access services) Messaging Server メッセージストアへのクライアントアクセスをサポートするプロトコルサーバ、ソフトウェアドライバ、およびライブラリ。

メッセージキュー (message queue) クライアントやほかのメールサーバから受け取ったメッセージを (即時または指定日に) 配信するために保管するディレクトリ。

メッセージストア (message store) Messaging Server インスタンスに対してローカルに配信されたすべてのメッセージのデータベース。メッセージは、単一の物理ディスクに格納することも、複数の物理ディスクに格納することもできます。

メッセージストア管理者 (message store administrator) Message Server のメッセージストアを管理する管理権限を持つユーザ。このユーザは、メールボックスの表示と監視、およびストアへのアクセス制御の指定を行うことができます。プロキシ認証の権限を使用して、ストアを管理するための特定のユーティリティを実行できます。

メッセージストアパーティション (message store partition) 単一の物理ファイルシステムパーティション上に置かれたメッセージストアまたはメッセージストアのサブセット。

メッセージ制限容量 (message quota) 特定のフォルダが消費できるディスク容量を定義する制限。

メッセージの削除 (delete message) 削除するメッセージにマークを付けること。削除したメッセージは、別の処理で消去 (パージ) するまで、メッセージストアからは削除されません。メッセージのパージ、メッセージの消去も参照してください。

メッセージの消去 (expunge message) メッセージに削除マークを付け、その後 INBOX から永久に削除すること。メッセージの削除、メッセージのパージも参照してください。

メッセージの送信 (message submission) クライアントのユーザエージェント (UA) は、メールサーバにメッセージを転送し、配信を要求します。

メッセージの転送 (message forwarding) MTA が、特定のアカウントに配信されたメッセージを、アカウントの属性で指定された 1 つまたは複数の新しい宛先に送信するときの処理。転送は、ユーザが設定できます。メッセージの配信、メッセージのルーティングも参照してください。

メッセージのパージ (purge message) ユーザおよびグループフォルダ内で削除マークを付け、参照することのなくなったメッセージを永久に削除し、使用していた領域をメッセージストアのファイルシステムに戻すプロセス。メッセージの削除、メッセージの消去も参照してください。

メッセージの配信 (message delivery) MTA がメッセージをローカルの受取人 (メールフォルダまたはプログラム) に配信するときの処理。

メッセージのルーティング (message routing) 最初の MTA が、受取人がローカルアカウントではなくほかの場所にいると判断したときに、別の MTA にメッセージを転送する処理。通常、ルーティングを設定できるのはネットワーク管理者だけです。メッセージの転送も参照してください。

メンバー (member) メールリスト宛ての電子メールのコピーを受け取るユーザまたはグループ。メールリスト、エクスパンド、モデレータ、所有者も参照してください。

モデレータ (moderator) メールリスト宛てのすべての電子メールを最初に受信して、以下の処理を選択実行するユーザ。(A) 配布リストにメッセージを転送する。(B) メッセージを編集してからメールリストに転送する。(C) メッセージをメールリストに転送しない。メールリスト、エクスパンド、メンバーも参照してください。

ユーザアカウント (user account) サーバにアクセスするためのアカウント。ディレクトリサーバ上のエン트리として管理されます。

ユーザエージェント (UA) (user agent) ユーザがメールメッセージを作成、送信、受信できるようにするクライアントコンポーネント。Netscape Communicator などがあります。

ユーザエン트리またはユーザプロフィール (user entry or user profile) 各ユーザに関する必須および任意の情報を記述するフィールド。識別名、氏名、役職、電話番号、ポケットベルの番号、ログイン名、パスワード、ホームディレクトリなどがあります。

ユーザ制限容量 (user quota) 電子メールメッセージ用にユーザに割り当てられる容量で、システム管理者によって設定されます。

ユーザフォルダ (user folders) ユーザの電子メールのメールボックス。

リストア (restore) フォルダの内容をバックアップデバイスからメッセージストアに復元するプロセス。バックアップも参照してください。

リスンポート (listen port) サーバがクライアントやその他のサーバと通信するために使用するポート。

リバース DNS 検索 (reverse DNS lookup) 数値 IP アドレスを対応する完全指定ドメイン名に解釈するために DNS に照会するプロセス。

リレー (relaying) メッセージサーバ間でメッセージを渡すプロセス。

ルーター (router) 複数のネットワークトラフィック経路から利用する経路を決定するシステム。ルーターは、ネットワークに関する情報を取得するためのルーティングプロトコルを使用し、さらに、「ルーティングマトリクス」と呼ばれるいくつかの条件に基づいて最善の経路を決定するアルゴリズムを使用します。OSI の用語では、ルーターはネットワークレイヤーの中間システムになります。ゲートウェイも参照してください。

ルーティング (routing) メッセージのルーティングを参照してください。

ルートエン트리 (root entry) ディレクトリ情報ツリー (DIT) 階層のトップレベルのエン트리。

ルックアップ (lookup) 検索の同義語。特定のパラメータを使ってデータを並べ替えます。

レベル (level) ログの詳細度の指定。ログファイルに記録するイベントの種類の相対的な数を意味します。たとえば、Emergency レベルでは、ログに記録されるイベントはわずかですが、Informational レベルでは数多くのイベントがログに記録されます。

ローカル部分 (local part) 電子メールアドレス内の受取人を識別する部分。ドメイン部分も参照してください。

ログディレクトリ (log directory) サービスのすべてのログファイルが保存されているディレクトリ。

ログ有効期限 (log expiration) 有効期間が過ぎたログファイルは、ログディレクトリから削除されます。

ログローテーション (log rotation) 現在のログファイルとして使用する新しいログファイルを作成すること。以後のログイベントは、新しいログファイルに書き込まれます。以前のログファイルはログディレクトリ内に残りますが、ログが書き込まれることはありません。

ワークグループ (workgroup) ローカルワークグループ環境。サーバは、ローカルオフィスまたはワークグループ内で、独自のルーティングおよび配信を実行します。部門間のメールは、バックボーンサーバにルーティングされます。**バックボーン**も参照してください。

ワイルドカード (wildcard) 1つまたは複数のほかの文字または文字範囲を表すことができる検索文字列内の特殊文字。

索引

A

ACI, 116
A レコード, 52

C

CNAME, 52

D

DC ツリー, 17
dirsync、複数スキーマをサポートするための設定
 , 49
DNS 検索, 24
DNS レコード、変更, 52

I

IMAP, 14
imbackup, 37, 76
ims_dssetup.pl, 56
imsdaaci, 28, 116

imsdirmig, 28, 38, 43, 44, 113
imsdirmig45, 111, 113
imsrestore, 37, 76
iPlanet Messaging Server
SIMS/NMS のコンポーネント, 14
設計理念, 13

L

LDAP, 66
local.store.synclevel, 54

M

mgrpBroadcasterPolicy, 23
mgrpErrorsTo, 23
mgrpMsgRejectAction, 23
MMP サーバ、複数サーバの移行
NMS の MMP サーバ, 103

N

Netscape Directory Server 4.12, 28

Netscape Mail Server

- UID に関する制限, 17
- ネームスペースに関する制限, 17

Netscape Messaging Server

- MMP サーバのアップグレード, 103
- SMTP リレー、許可, 24
- SMTP リレーサーバのアップグレード, 99
- SMTP リレーの有効化, 24
- 既存のネームスペースの使用, 122
- 単一サーバにおけるメッセージストアの移行, 57
- 単一サーバの移行, 55
- 単一ドメインネームスペースのマップ, 122
- 名前付きコンテキストの追加, 98
- バックエンドメッセージストア、移行, 103
- 複数サーバの移行, 97
- 複数スキーマのサポート, 121
- 複数ドメインネームスペースのマップ, 126
- メッセージストアに関する変更, 25

Netscape Messaging Server (NMS), 13

Netscape Messaging Service

- サポートされないグループ属性, 23

NMS

- MTA の変更, 22

- オンライン移行、複数サーバ, 79
- オンライン移行、複数サーバ、余分なハードウェアがある場合, 85
- オンライン移行、複数サーバ、余分なハードウェアがない場合, 81
- 単一サーバにおけるメッセージストアの移行, 47
- 単一サーバにおけるメッセージストアのオンライン移行, 41
- 単一サーバのオフライン移行, 36
- ドメインエントリのアップグレード, 71
- 複数サーバ導入, 70
- 複数スキーマのサポート, 121
- プロキシサーバの設定, 50
- メッセージストアに関する変更, 21
- メッセージストアの移行方法, 30
- メッセージストアのオフライン移行, 30
- メッセージストアのオンライン移行, 31
- メッセージストアの段階的移行, 32
- メッセージのオフライン移行、複数サーバ, 74

SMTP リレー, 101

- 追加, 21

SMTP ルータ, 66

Sun Internet Messaging Server (SIMS), 13

P

- POP, 14

R

- RBL チェック, 24

S

SIMS, 90

- dirsync の複数スキーマの設定, 49
- MTA の変更, 20
- POP/IMAP プロキシサーバ、アップグレード, 74
- SMTP リレーサーバのアップグレード, 71

V

- Vacation 属性、SIMS, 20

W

- Windows NT、移行, 59

あ

暗号化

- 定義, 141

い

移行ツールキット, 28
移行手順, 28
移行プロセス, 28

か

外部サイトの SMTP リレー、NMS で許可, 24

き

既存のものを使用, 29

く

区切り文字、NMS での UID の制限, 17

こ

高可用性クラスタ、移行, 25
構成サーバ, 29
 インストール, 69
コマンドラインインタフェース, 113
コンパイルされた構成, 20
コンポーネント, 14

さ

サービス管理者グループ, 116

す

スキーマ

iPlanet Messaging Server, 19

 アップグレードする理由, 19

 複数スキーマのサポート, 28, 120

スキーマファイル、マージされた, 120

そ

組織ツリー, 17

た

対象読者, 9

単一サーバシステム, 35

段階的移行、複数サーバ、SIMS, 90

ち

知識, 9

つ

通知、メーリングリスト, 22

て

ディレクトリ

 Netscape Directory Server 4.12 へのアップグ
 レード, 120

 既存 DIT のサポート, 121

 既存 DIT の使用, 122

 サーバのサポート, 15

 サポートと変更, 15

 相違点, 14

 ディレクトリ情報ツリー

 相違点, 15

 ネームスペースに関する制限, 17

複数スキーマのサポート, 120
ディレクトリ移行中のエラー, 111
ディレクトリ情報ツリー
 ネームスペースも参照, 17
デバイスのバックアップ, 76
デバイスへのバックアップ, 76

と

同期レベル、設定, 54
ドメインエントリ, 49
ドメインエントリ、アップグレード, 71
ドメイン管理者グループ, 116
トラブルシューティング, 111

に

認証されていないバルクメール, 24

ね

ネームスペース (namespace), 17
ネームスペース、NMS を使用, 122
ネームスペースに関する制限, 17

は

バックアウト方法, 111
バックアップ、デバイス, 37

ふ

複数サーバの移行, 65
 NMS、SMTP リレーサーバのアップグレード

, 99

NMS、名前付きコンテキストの追加, 98
NMS のバックエンドメッセージストア, 103
NMS の複数サーバ導入, 97
SIMS、オンライン移行方法, 79
SIMS、オンライン移行、余分なハードウェアがある場合, 85
SIMS、オンライン移行、余分なハードウェアがない場合, 81
SIMS の SMTP サーバ、アップグレード, 71
SIMS の段階的移行, 90
構成サーバ、インストール, 69
シナリオのトポロジ, 66
手順の概要, 66

複数サーバの移行シナリオにおけるトポロジ, 66
複数スキーマのサポート, 28
プラグイン, 22, 28
プロキシ, 66

ほ

ホスト、定義, 155
保留キュー, 52, 95

ま

マージされたスキーマファイル, 120
マニュアル
 オンライン, 12
 メッセージング, 12
マニュアルの表記規則, 10
マニュアルページ, 113

め

メーリングリスト (mailing list)
 アクセスの禁止, 20
メッセージストア (message store), 25

よ

予備知識, 9, 27

り

リレー (relaying)

追加, 21

リレー、追加, 101

リレー防止, 23, 24

